

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

16

2012年10月

大阪府教育委員会

はじめに

大阪府内における埋蔵文化財の調査と保護につきましては、日頃より皆様のご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。大阪府では、昨今の公共事業の見直しや行財政改革などの影響により文化財保護行政も大きく変わろうとしています。また、府民の文化財に対するニーズも多様化し、これまでの発掘調査中心から普及・公開・活用が強く求められるようになりました。文化財調査事務所では、こうした府民のニーズに少しでも応えられるよう日々努力しているところです。

発掘調査の成果については、調査報告書を刊行するとともに府民の皆様に埋蔵文化財の理解と関心を深めていただくため、遺跡見学会や出土遺物の展示会、さらには講演会等を開催し、文化財に対する普及広報活動を積極的に行っています。

ところで、文化財調査事務所は、大阪府の文化財調査の拠点となる施設として平成9年4月にオープンし、今年で15年目を迎えました。文化財保護課の分室として埋蔵文化財調査部門が事務所に配置され、発掘調査について事業者との協議から実施、調査終了後の遺物整理と報告書の作成、整理終了後の資料の管理を行っています。特に遺物の収蔵については、ここ数年、収蔵庫の統廃合があり、それを契機に一昨年度から収蔵遺物の再点検および再データ化を実施しています。大阪府にはこれまでの発掘調査で出土した約15万箱にも上る膨大な遺物が保管されています。すべてをデータ化するには、なお数年を要すると思われませんが、活用のための重要な基礎作業と理解しています。

本書は、平成23年度に文化財調査事務所が実施した発掘調査および普及公開活動等の概要をまとめたものです。文化財保護行政の資料としてのみならず学術・教育資料としても広く活用していただければ幸いです。刊行に当たり、ご協力いただいた関係各位に厚くお礼申し上げますとともに、これまで以上に文化財の保存と活用に努めて参りますので、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成24年10月

大阪府教育委員会事務局

文化財保護課長 荒井大作

例 言

1. 本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第 16 冊である。
2. 本書には、本府教育委員会が実施した平成 23 年度の発掘調査及び普及公開活動等の記録を記載している。
3. 埋蔵文化財調査の中の主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。
なお、概要報告表題の調査番号は表 3・4・5 の調査番号に一致する。
遺跡名（平成 23 年度調査番号）
 - (1) 所在地
 - (2) 調査の原因となった事業
 - (3) 調査担当者
4. 各項の執筆分担は、次のとおりである。

・「平成 23 年度における埋蔵文化財調査の概況」	調査第一グループ
・「主要発掘調査の概要報告」	調査管理・第一・第二グループ
・「資料紹介」	調査第一グループ
・「活動報告」	調査第一グループ
・「平成 23 年度検討会および資料」	調査管理グループ
・「平成 23 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧」	調査管理グループ
・「平成 23 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧」	調査管理グループ
・「平成 23 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図」	調査管理グループ
5. 本書の編集は、調査管理グループが行った。
6. 本書は 500 部作成し、一部あたりの単価は 236 円である。

目 次

はじめに	
例 言	
平成 23 年度における埋蔵文化財調査の概況	1
【主要発掘調査の概要報告】	6
和泉寺跡 (11001)	7
讃良郡条里遺跡 (11002・11053)	8
久宝寺遺跡 (11010)	9
瓜破北遺跡 (11011)	10
招提中町遺跡・九頭神遺跡 (11012)	11
禁野本町遺跡 (11014)	12
安松田遺跡 (11015)	13
太井遺跡 (11016)	14
万崎遺跡 (11020)	15
狭山藩陣屋跡 (11022)	16
平尾遺跡 (11027)	17
木の本遺跡 (11031)	18
柳原遺跡 (11034)	19
瓜破北遺跡 (11036)	20
太井遺跡 (11038)	21
池内遺跡 (11050)	22
久宝寺遺跡 (11052)	23
林遺跡 (11055)・国府遺跡 (11056)	24
成合遺跡 (11057)	25
安威城跡 (11067)	26
崇禅寺遺跡 (11071)	27
千提寺西遺跡・千提寺南遺跡・日奈戸遺跡 (11076)	28
旧鶴橋警察署跡 (11077)	30
【資料紹介】	32
大園遺跡出土埴輪の概要	32
「田中家(鴻池別家)文書」の調査概要Ⅱ	38
【活動報告】	41
文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業	34
平成 23 年度検討会および資料	45
平成 23 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧	46
平成 23 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧	47
実物資料・複製資料長期貸出	47
実物資料・複製資料短期貸出	49
資料撮影・写真・図面等貸出・掲載	50
資料閲覧	55
平成 23 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図	60
調査事務所平面図	61

挿図目次

図 1	主要調査位置図	6	図 52	林遺跡調査区断面	24
図 2	調査区配置図 (1/5,000)	7	図 53	成合遺跡の位置	25
図 3	讚良郡条里遺跡調査区位置図	8	図 54	6-1 トレンチ土層断面	25
図 4	第 2 工区 2 面全景	8	図 55	試掘トレンチ位置及び成合遺跡拡大範囲	25
図 5	第 2 工区 4 面全景	8	図 56	安威城跡調査地点	26
図 6	調査位置図	9	図 57	古墳時代前期の焼土坑	26
図 7	井戸 209 (西から)	9	図 58	古墳時代中期の竪穴住居	26
図 8	溝 175 土器出土状況 (西から)	9	図 59	竪穴住居内の竈	26
図 9	柱列 (北から)	9	図 10	崇禅寺遺跡調査位置図	27
図 10	調査区位置図	10	図 61	崇禅寺遺跡出土遺物	27
図 11	溝 1・2 検出状況 (南から)	10	図 62	調査地位置図	28
図 12	準構造船舷部出土状況 (北東から)	10	図 63	千提寺西遺跡の墓域のある丘陵 (北東から)	28
図 13	準構造船舷側板出土状況 (西南から)	10	図 64	18 区検出墓群 (北東から)	28
図 14	第 6 次調査位置図	11	図 65	19 区検出墓群 (東から)	28
図 15	招提中町遺跡第 1 区 (北から)	11	図 66	千提寺西遺跡周辺発見の石仏	29
図 16	九頭神遺跡第 4 区 (東から)	11	図 67	千提寺南遺跡周辺 (西から)	29
図 17	西居住区 (東から)	12	図 68	日奈戸遺跡周辺 (北東から)	29
図 18	東居住区 (東から)	12	図 69	トレンチ位置及び遺跡の範囲	29
図 19	歩道部・接続部の位置	13	図 70	旧鶴橋警察署跡位置図	30
図 20	歩道部 (和歌山側) 検出土坑	13	図 71	煉瓦塀の状況 (南東から)	30
図 21	市道部検出土坑 / 瓦検出状況	13	図 72	煉瓦塀の状況 (北東から)	30
図 22	調査区位置図	14	図 73	採集した刻印煉瓦	31
図 23	調査区 13	14	図 74	煉瓦刻印拓本	31
図 24	出土遺物	14	図 75	大園遺跡位置図	32
図 25	調査区位置図	15	図 76	大園遺跡出土埴輪 1	35
図 26	1 区土層断面図	15	図 77	大園遺跡出土埴輪 2	36
図 27	地山面全景	15	図 78	大園遺跡出土埴輪 3・土製品	37
図 28	調査区位置図	16	図 79	「道具帳」	39
図 29	第 1 区全景	16	図 80	「道具帳」利休写茶杓等	39
図 30	調査区位置図	17	図 81	「明治六年太陽暦」	39
図 31	会所部分の調査	17	図 82	「鴻池善右衛門」名刺	39
図 32	木の本遺跡調査地点	18	図 83	「鴻池家憲法」	39
図 33	調査区位置図	18	図 84	「算法雑題集帳」「算法雑題集之巻」	39
図 34	1 区全景	18	図 85	「夜学金銭出納控」「雑費内訳帳」	40
図 35	2 区全景	18	図 86	「皇后陛下叡覧 府立大阪博物場奉供証書」	40
図 36	土坑断面図	19	図 87	「銀行創立証書」等	40
図 37	調査区全景空中写真	19	図 88	「勘定場役辞令 田中隆次郎」	40
図 38	調査区位置図	20	図 89	中学生の職場体験学習	41
図 39	第 1 面西半部検出条里溝群	20	図 90	瓜破北遺跡現地公開	41
図 40	第 5 面東半部溝検出状況	20	図 91	柳原遺跡現地公開	41
図 41	調査地位置図	21	図 92	狭山藩陣屋跡現地ウォーク	41
図 42	調査区全景	21	図 93	八雲遺跡出土細石器の展示	42
図 43	調査位置図	22	図 94	泉北収蔵庫外観 1	45
図 44	試掘位置及び遺跡拡大範囲	22	図 95	泉北収蔵庫外観 2	45
図 45	平・断面模式図	22	図 96	東大阪収蔵庫収納状況	45
図 46	久宝寺遺跡調査区位置図	23	図 97	泉大津収蔵庫収納状況	45
図 47	第 5 層上面全景 (南から)	23	図 98	図書収納状況	45
図 48	井戸 24 検出状況 (南から)	23	図 99	リソースセンター展示状況	46
図 49	調査区位置図	24	図 100	ドーンセンター展示状況	46
図 50	土師ノ里交差点全景	24	図 101	平成 23 年度刊行物集合	46
図 51	林遺跡の調査区状況	24	図 102	文化財調査事務所平面図	61

平成 23 年度における埋蔵文化財調査の概況

調査件数及び面積

平成 23 年度の調査件数は、発掘調査 21 件、試掘調査 14 件、確認調査 12 件、立会調査 29 件、分布調査 3 件、文化財調査 1 件の計 80 件で、調査面積の合計は 15,592㎡であった。平成 22 年度の件数は計 96 件であったので、かなりの数が減ったように思われるがその原因は立会調査の減が中心で、調査期間が長期となる発掘調査の件数は変化しておらず、平成 18 年からは 20 件前後でほぼ一定となっている。

一方調査の面積は、今年度は昨年度を若干上回ったものの、平成 18 年度以降は毎年減少している傾向にある。これは公共事業の見直しとともに各事業者の単年度あたりの執行規模が縮小されたことが大きな要因と考えられるがこの傾向は今後も続くことが予測される。

また、原因別調査種別表（表 1）をみると件数は、道路関係が最も多くついで住宅・下水となるが、この変化は平成 20 年度以降は変わっていない。なお、地域別調査面積（表 2）では、大阪市が最も多くついで三島・中河内・北河内と続いている。

主な調査成果

平成 23 年度の主要な発掘調査成果及び立会調査成果について、時代ごとに概観していくことにする。

旧石器時代

新たな調査成果はなかった。

縄文時代

河内長野市太井遺跡では 2 カ所で発掘調査を実施した。いずれも遺構に伴ったものではないが、この

うち太井遺跡（11016）小深地区では、後期中葉（北白川上層式 3 期）深鉢が出土し、太井遺跡（11038）太井地区では中期後半（北白川 C 式）の土器片が出土している。同遺跡では平成 22 年度の調査でも後期前葉の縄文土器が出土しており、比較的長期間に亘って縄文時代の集落が営まれていたことがわかってきた。

弥生時代

和泉市和泉寺跡（11001）では、弥生時代の終わりから古墳時代の初めの流路が見つかり、流路内からは多くの土器が出土している。住居跡は今のところ見つからないが、当時の集落がごく近くに存在することが明らかになってきた。

八尾市木の本遺跡（11031）では、古墳時代の包含層と古墳時代前期の流路と弥生時代前期の遺構面を確認することができた。

池田市柳原遺跡（11034）は、試掘によって新たに発見された遺跡で、発掘調査の結果弥生時代後期の土坑が数多く検出された。これらの土坑は断面が袋状を呈し、掘り込まれた後に埋め戻されることなく放置されていることや、礫が入る粘土は残しその上の精良な粘土を掘削していることなどから、地山の粘土を得るために掘り込まれた粘土採掘坑と考えられた。なお、今回の調査は柳原遺跡としては初めての調査であり、今のところ住居跡等生活の痕跡は見つかっていないが、今後は周辺地域の開発に留意する必要がある。

古墳時代

八尾市久宝寺遺跡（11010）では、古墳時代後期

表 1 原因別調査種別表

*面積は㎡である

	14 年度		15 年度		16 年度		17 年度		18 年度		19 年度		20 年度		21 年度		22 年度		23 年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
住宅	7,905	10	12,522	19	13,817	17	15,453	7	14,730	15	11,169	10	488	8	1,799	9	6,454	14	6,227	12
農林	8,147	12	12,441	7	10,308	6	9,068	9	1,970	4	1,564	5	672	3	587	4	1,754	4	1,254	3
道路	4,256	20	11,008	21	11,423	18	12,712	33	7,468	22	11,422	24	10,468	17	5,629	21	4,968	27	5,255	20
下水	16,846	12	13,017	6	13,150	7	8,174	9	2,181	5	180	3	7,787	5	6,417	8	1,011	16	1,650	9
河川	146	4	1,598	4	5,204	5	9,063	2	3,883	2	204	2	10	2	0	1	36	4	0	1
学校	8	1	1,054	7	144	9	809	7	24	8	12	1	140	1	361	5	0	1	318	2
その他	1,199	6	745	6	246	10	2,793	12	1,269	12	2,788	15	298	9	3,189	16	563	30	888	33
合計	38,507	65	52,385	70	54,292	72	58,072	79	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,786	96	15,592	80

表 2 地域別調査面積・件数一覧表

*面積は㎡である

	14 年度		15 年度		16 年度		17 年度		18 年度		19 年度		20 年度		21 年度		22 年度		23 年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
大阪市	1,304	3	258	5	238	6	245	2	120	4	0	0	96	2	30	2	85	4	3,209	10
泉南	450	5	8,971	8	4,782	11	1,417	13	4,794	8	4,069	8	438	5	2,100	6	1,534	6	449	6
泉北	5,043	10	3,897	9	7,861	16	7,357	13	465	7	6,519	8	6,857	10	3,822	7	4,444	9	1,552	7
南河内	9,381	18	14,250	14	8,388	12	16,433	15	4,942	10	6,534	9	9,660	11	7,945	10	2,620	12	1,691	9
中河内	949	14	3,319	13	887	9	50	11	1,225	16	2,104	11	322	3	190	14	1,212	28	2,224	13
北河内	17,664	4	15,733	10	18,064	9	20,923	15	13,252	10	4,940	10	1,995	9	3,619	13	3,616	21	2,086	12
三島	2,175	8	5,957	11	14,060	8	11,287	8	6,677	12	2,969	10	495	5	89	6	1,205	11	2,336	20
豊能	1,541	3	0	0	12	1	360	2	50	1	204	4	0	0	187	6	70	5	2,045	3
合計	38,507	65	52,385	70	54,292	72	58,072	79	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,786	96	15,592	80

の耕作に伴う水路、畦畔などの遺構とともに須恵器の大甕を埋納した土坑が発見された。この大甕は当初から肩部以下を打ち割って、上半部のみを丁寧に埋めていたことから地鎮に伴う可能性が考えられている。

大阪市瓜破北遺跡では2カ所の用地で発掘調査を実施した。このうち瓜破北遺跡(11011)では、弥生時代末から古墳時代初めの溝2本が検出されるとともに、古墳時代の沼地の堆積層から古墳時代後期と考えられる準構造船の部材や刀形木製品・箱形木製品、円筒埴輪などが数多く出土しており注目される。また、瓜破北遺跡(11036)では古墳時代前期と考えられる溝が3本と土坑が検出されている。この溝は用水路として掘られたもので、溝の下流には水田が広がっていたと考えられている。

藤井寺市林遺跡(11055)では、小面積の調査であったものの無黒斑の円筒埴輪片がまとまって出土している。残念ながら遺構は明らかではなく古墳に伴うかどうかは不明である。

茨木市安威城跡(11067)では、狭い面積ではあったものの古墳時代中期の竈付の堅穴住居跡や古墳時代前期に属する野外の炉跡などが発見された。この安威城跡の南には安威遺跡が広がっており、今回検出した遺構は安威遺跡の集落に続く遺構群と考えられることとなった。

大阪市崇禅寺遺跡(11071)では、埋設物の撤去に伴う立会調査を実施した。この結果遺物包含層を確認し、攪乱を受けた遺物を中心に採取した。採取した遺物は古墳時代前期の土器が中心であった。な

お、調査地は遺跡範囲の東端にあたるが、遺跡はさらに東に広がるものと推定された。

古代

寝屋川市讚良郡条里遺跡(11002・11053)では、平安時代後期の耕作面を検出した。

八尾市久宝寺遺跡(11010)では、奈良時代の柱列、溝や耕作に伴う小溝が検出された。

枚方市禁野本町遺跡(11014)では、奈良時代後半から平安時代前半にかけての正方位に近い掘立柱建物、土坑、道路側溝が検出された。この遺跡の南側には百済王氏の氏寺とさる百済寺跡があり、禁野本町遺跡はその一族の居住域と推定されている。

堺市万崎遺跡(11020)では、古代あるいはそれ以前の遺物を包含する土層を確認するとともに旧石津川の流路の跡を確認した。

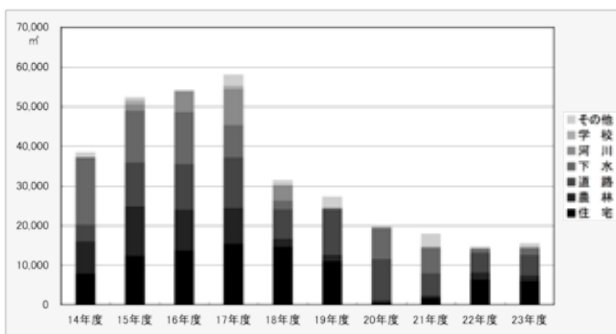
また、堺市平尾遺跡(11027)では、調査区が狭小なため遺構は確認できなかったものの古代に属する須恵器が出土している。

中世

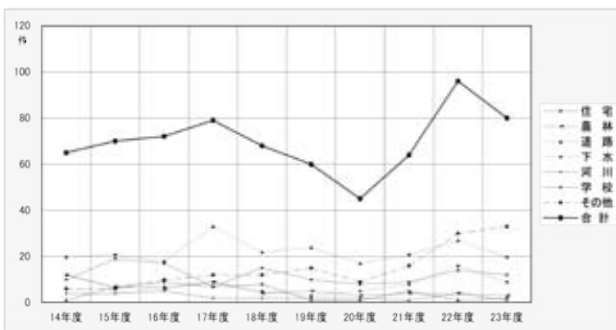
枚方市招堤中町遺跡・九頭神遺跡(11012)では、中世の柱穴跡、溝、土坑等が確認された。過去の調査では弥生時代から古墳時代の住居跡が検出されているので、古い時期から新しい時期までこの地で長く生活が営まれていたことが再確認された。

泉佐野市安松田遺跡(11015)では、立会調査に伴って焼土や炭化物とともにコンテナ2箱分の瓦片が出土した。過去の調査からみて恐らく瓦窯に伴うものであろう。なお、出土した瓦は、その大きさからみて鎌倉時代に東大寺を再建するために作られた

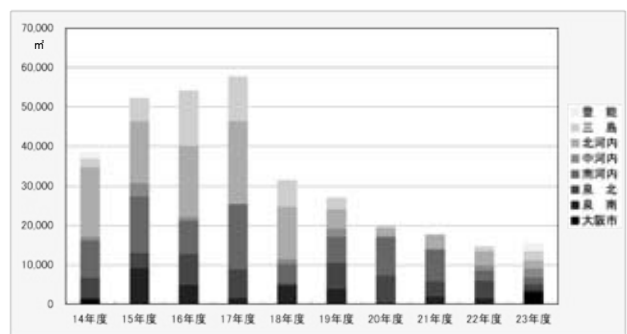
グラフ1 原因別調査面積の推移



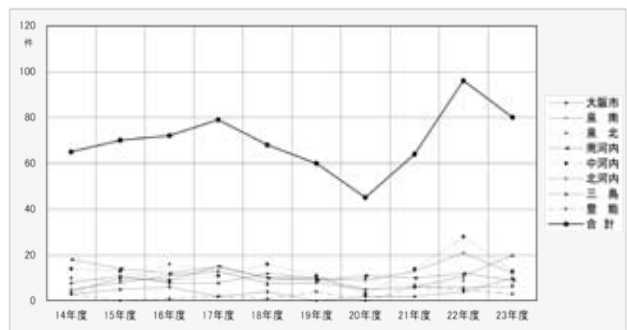
グラフ3 原因別調査件数の推移



グラフ2 地域別調査面積の推移



グラフ4 地域別調査件数の推移



ものと考えられる。

河内長野市太井遺跡（11016）小深地区では、落ち込み状遺構があり内部から中世の瓦器、椀、羽釜等が出土するとともに南北朝時代と考えられる建物が検出されている。

河内長野市太井遺跡（11038）太井地区では、約150基の土坑や石列が検出された。土坑は平面形が円、楕円、長方形など各種があるが、土坑の片隅に瓦器椀を納めたものや石を敷き並べたもの、石で覆ったものなどがあり土葬墓と推定される。このほか火葬骨が検出されたものもあり火葬墓のあることも判明している。また、中段には遺構の少ない部分があり道状の遺構の可能性もある。出土遺物としては鎌倉時代を中心とした瓦器椀、土師器小皿、土師器羽釜、青磁椀がある。なお、この墓地は所在する位置から見て、観心寺領の荘園に暮らした人々の墓と推定されている。

近世

大阪狭山市狭山藩陣屋跡（11022）では、近世の顕著な遺構は検出されなかったが、北門より北側では地形が低くなり上屋敷とは限られることが明らかとなった。

試掘調査

松原市池内遺跡（10050）では、遺跡の範囲が北側へ拡大され、高槻市成合遺跡（10057）では、遺跡の北側において古代から中世の遺物包含層を検出した。また茨木市千提寺地区では北側において中世から近世にかけての墓、南側では中世を中心に縄文時代を含む遺物包含層を、西側では中世を中心とし

た遺物包含層を検出し千提寺西遺跡・千提寺南遺跡・日奈戸遺跡（10076）と呼称されることとなった。
文化財調査

大阪市旧鶴橋警察署跡（10077）において刻印煉瓦の現地調査を実施した。煉瓦の刻印には「丸と棒」「六稜星と棒」の二種の存在を確認した。このうち六稜星の煉瓦の製造元については、大阪市西成区に存在した津守煉瓦製造所の可能性が高いという。

普及・活用事業、報告書の作成

発掘調査の現場の公開は、禁野本町遺跡、太井遺跡、瓜破北遺跡・瓜破北遺跡その2、柳原遺跡の4遺跡で実施し総数732人の参加者を得ている。なお、発掘調査現場は可能な限り公開をすることにしたが、公開が不可能なものにあっては文化財保護課のホームページにおいて公開したものもある。

出かける博物館事業については22件実施した。これは市町村の事業や市民グループその他の企画に協力するもので講師の派遣などを行うものである。出土遺物の展示や関連講演等では29件の事業を実施した。このうち出土遺物の展示では府立博物館において6回実施するとともに、太子町立竹内街道歴史資料館でも実施し、文化財の公開・活用を行うことができた。

また、過年度調査分の報告書の刊行を行った。平成23年度は、蔀屋北遺跡、大町遺跡、和泉寺、府中遺跡、平尾遺跡、金岡遺跡、芹生谷遺跡、狭山藩陣屋跡、ミヤケ北遺跡、府中遺跡ほかの遺物整理事業を行い9冊の調査報告書と2冊の調査概要報告書を刊行した。
(山本 彰)

表3 平成23年度調査箇所一覧表(1)

*太字は本書に概要報告が記載されているもの

>

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
11001	和泉寺跡	和泉市府中町4丁目	発掘	平成23年4月1日	平成23年7月29日	1,320㎡	土屋	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪岸和田南海線建設 工事
11002	讃良郡条里遺跡	豊屋川市昭栄町	発掘	平成23年4月11日	平成23年6月3日	12㎡	岩瀬	下水道室 (東部下水)	門真寝屋川(三)増補幹線(二) (第1工区)
11003	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成23年4月7日	平成23年4月7日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う擁壁等構 造物撤去工事
11004	遺跡外	貝塚市三ツ松	立会	平成23年4月15日	平成23年4月15日	—	阿部	住宅経営室 住宅整備課	府営三ツ松第2住宅EV設置工事
11005	金岡更池遺跡	堺市北区新金岡町	立会	平成23年4月13日	平成23年4月13日	—	西口	公共建築室	北堺警察署耐震補強工事
11006	禁野本町遺跡	枚方市禁野本町2丁目	立会	平成23年4月13日	平成23年4月13日	—	岡本	財務省 近畿財務局	公務員宿舍枚方住宅整備に伴う埋設 管設置工事
11007	吹田操車場遺跡 西ノ庄東遺跡	吹田市芝田町 吹田市西ノ庄町	立会	平成23年4月18日	平成23年4月18日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備工事に伴う電気 関連工事
11008	旧大阪府庁舎跡	大阪市西区江之子島2丁目	試掘	平成23年4月12日	平成23年4月12日	100㎡	岡本	阿波座駅前計 画代表	(仮称)阿波座駅前PJ事業
11009	奥田井遺跡	河内長野市鳩原	立会	平成23年4月12日	平成23年4月12日	—	小林	農政室 整備課	府営農村振興総合整備事業「河内長 野和泉地区」
11010	久宝寺遺跡	八尾市竜筆町2丁目	発掘	平成23年6月1日	平成24年3月7日	1,400㎡	宮崎	下水道室 事業課	電筆水みらいセンター場内整備工事
11011	瓜破北遺跡	大阪市平野区瓜破東1丁目	発掘	平成23年5月24日	平成24年2月23日	1,200㎡	岩瀬 林	住宅経営室 住宅整備課	府営瓜破東一丁目住宅建替え工事
11012	招提中町遺跡 九頭神遺跡	枚方市東牧野町	発掘	平成23年5月23日	平成23年11月11日	902㎡	横田	住宅経営室 住宅整備課	府営枚方東牧野住宅建替え工事

表4 平成23年度調査箇所一覧表(2)

*太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
11013	遺跡外	茨木市松ヶ本町	試掘	平成23年4月21日	平成23年4月21日	9㎡	松岡三好	住宅経営室 住宅整備課	府営茨木松ヶ本住宅耐震補強工事
11014	禁野本町遺跡	枚方市禁野本町2丁目	発掘	平成23年6月10日	平成24年1月10日	895㎡	山田	交通道路室 道路整備課	都市計画道路枚方藤線整備工事
11015	安松田遺跡	泉佐野市東羽倉崎町	発掘	平成23年5月9日	平成23年8月9日	440㎡	三木	住宅経営室 住宅整備課	府営泉佐野東羽倉崎住宅建替え工事
11016	太井遺跡	河内長野市小深	確認	平成23年6月8日	平成23年9月6日	420㎡	西川	農政室 整備課	府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
11017	明和池遺跡	摂津市千里丘7丁目	立会	平成23年5月11日	平成23年5月11日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備工事に伴う土壌汚染処理
11018	第二阪和国道建設に伴う分布調査	岬町淡輪～府県境間	分布調査	平成23年5月12日	平成23年5月12日	—	岡本	国交省浪速 国道事務所	一般国道26号第二阪和国道(淡輪～府県境)建設工事
11019	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成23年5月17日	平成23年5月17日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に係る擁壁等撤去工事
11020	万崎遺跡	堺市西区草部	発掘	平成23年5月24日	平成23年6月13日	64㎡	辻本	住宅経営室 住宅整備課	府営草部住宅EV設置工事
11021	遺跡外	堺市北区東浅香山町	試掘	平成23年5月26日	平成23年5月26日	8㎡	辻本	住宅経営室 住宅整備課	府営浅香山住宅耐震補強工事
11022	狭山藩陣屋跡	大阪狭山市東池尻2丁目	発掘	平成23年6月27日	平成23年7月29日	230㎡	小林	交通道路室 道路整備課	一般府道河内長野美原線交通安全事業
11023	高井田横穴群 平尾山古墳群	柏原市大字高井田809-1	確認	平成23年7月4日	平成23年7月15日	20㎡	松岡	こども室 家庭支援課	修徳学院改修工事(寮舎建替等)
11024	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成23年7月12日	平成23年7月12日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う電気関連工事
11025	明和池遺跡	摂津市千里丘7丁目	立会	平成23年7月12日	平成23年7月25日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う河川構造物撤去工事
11026	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成23年7月12日	平成23年7月15日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う既設事務所基礎撤去工事
11027	平尾遺跡	堺市美原区平尾	発掘	平成23年7月11日	平成23年10月14日	150㎡	辻本	教育委員会 施設財務課	府立美原高校下水道放流切替工事
11028	大泉遺跡	柏原市平野1丁目	確認	平成23年7月26日	平成23年7月26日	270㎡	松岡	交通道路室 道路整備課	一般国道170号交通安全施設等整備事業
11029	天神遺跡	池田市天神1丁目	立会	平成23年7月25日	平成23年7月25日	—	藤永	府警本部 施設課	池田警察署石橋交番建替工事
11030	遺跡外	東大阪市花園本町2丁目	試掘	平成23年7月29日	平成23年7月29日	2㎡	藤永	府警本部 施設課	河内警察署玉串交番建替工事
11031	木の本遺跡	八尾市空港1丁目	発掘	平成23年8月22日	平成23年9月9日	119㎡	岩瀬	保健医療室 医療対策課	広域搬送拠点医療施設整備事業
11032	遺跡外	高槻市野見町1丁目	立会	平成23年8月17日	平成23年8月17日	—	藤永	府警本部 施設課	高槻警察署北大手交番建替工事
11033	桜井谷竊跡群	豊中市柴原町3丁目	立会 発掘	平成23年8月18日	平成23年8月25日	20㎡	三好	府警本部 施設課	豊中警察署桜井谷交番建替工事
11034	柳原遺跡	池田市城南3丁目	発掘	平成23年9月1日	平成24年2月7日	2,025㎡	三好	住宅経営室 住宅整備課	府営池田城南住宅建替え工事
11035	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	確認	平成23年8月22日	平成23年8月22日	35㎡	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う擁壁等構造物撤去工事
11036	瓜破北遺跡	大阪市平野区瓜破2丁目	発掘	平成23年8月18日	平成24年1月10日	1,359㎡	奥	住宅経営室 住宅整備課	府営瓜破2丁目住宅建替え工事
11037	遺跡外	大阪市此花区伝法2丁目	試掘	平成23年9月2日	平成23年9月2日	50㎡	松岡	住宅経営室 住宅整備課	府営千鳥橋住宅建替え工事
11038	太井遺跡	河内長野市太井	発掘	平成23年9月1日	平成23年11月18日	834㎡	小林	農政室 整備課	府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
11039	大堀遺跡	松原市大堀3丁目	立会	平成23年9月6日	平成23年9月6日	—	小林	交通道路室 道路環境課	一般府道都戸大堀線歩道設置工事
11040	上の山遺跡	交野市私部西4丁目	立会	平成23年9月26日	平成23年9月26日	—	岩瀬	下水道室 事業課	下水道管渠築造工事
11041	遺跡外	枚方市村野西町	試掘	平成23年10月4日	平成23年10月7日	168㎡	松岡大衆	教育委員会 支援教育課	北河内地域支援学校建設工事
11042	遺跡外	吹田市古江台5丁目	試掘	平成23年10月13日	平成23年10月13日	24㎡	松岡大衆	府警本部 施設課	大阪府警古江台待機住宅建替え工事
11043	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成23年10月12日	平成23年10月12日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う電気施設新設工事
11044	旧大阪府庁舎跡隣接地	大阪市西区江之子島2丁目	試掘	平成23年10月13日	平成23年10月13日	15㎡	岡本	阿波座駅前 計画代表	(仮称)阿波座駅前PJ事業
11045	明和池遺跡隣接地	摂津市千里丘4丁目	立会	平成23年9月13日	平成23年9月13日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う河川構造物撤去工事
11046	遺跡外	枚方市高田1丁目	試掘	平成23年10月5日	平成23年10月5日	7㎡	松岡	下水道室 事業課	4拡南部幹線人孔設置工事

表5 平成23年度調査箇所一覧表(3)

*太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
11047	鬼虎川遺跡	東大阪市立花町	確認	平成23年10月21日	平成23年10月21日	4㎡	松岡	下水道室事業課	分岐量水器設置工事
11048	讃良郡条里遺跡	寝屋川市楠根北町	確認	平成23年10月27日	平成23年11月9日	14㎡	松岡	下水道室事業課	分岐改良工事
11049	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成23年10月21日	平成23年10月21日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う排水設備工事
11050	池内遺跡隣接地 (池内遺跡)	松原市天美北1丁目	試掘	平成23年11月4日	平成23年11月4日	7㎡	岡本	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪河内長野線整備事業
11051	百済寺遺跡	枚方市宮之阪3丁目	確認	平成23年11月14日	平成23年11月17日	52㎡	大楽	交通道路室 道路環境課	一般府道枚方茨木線交通安全施設等整備事業
11052	久宝寺遺跡	八尾市西久宝寺	発掘	平成23年4月5日	平成24年度継続調査	180㎡	宮崎	公園課	久宝寺緑地北部地区雨水管敷設工事
11053	讃良郡条里遺跡	寝屋川市中木田町～讃良西町	発掘	平成24年2月13日	平成24年3月10日	48㎡	岩瀬	下水道室 事業課	門真寝屋川(三)増補幹線(二)
11054	高井田横穴群 平尾山古墳群	柏原市大字高井田809-1	確認	平成23年12月16日	平成23年12月19日	13㎡	松岡	こども室 家庭支援課	修徳学院改修工事(旧第4寮撤去他)
11055	林遺跡	藤井寺市沢田3・4丁目	発掘	平成23年12月12日	平成24年3月19日	200㎡	小林	交通道路室 道路整備課	旧170号・堺大和高田線交通安全事業
11056	国府遺跡	藤井寺市国府1丁目	立会	平成23年12月12日	平成24年3月19日	—	小林	交通道路室 道路整備課	旧170号・堺大和高田線交通安全事業
11057	成合遺跡隣接地 (成合遺跡)	高槻市成合地内	試掘	平成23年6月1日	平成23年6月30日	57㎡	岡本	西日本高速 道路(株)	新名神高速道路(高槻～箕面)建設工事
11058	第二阪和国道建設 に伴う分布調査(2)	岬町淡輪～府県境間	分布 調査	平成23年12月8日	平成23年12月8日	—	岡本	国交省浪速 国道事務所	一般国道26号第二阪和国道(淡輪～ 府県境)建設工事
11059	新名神高速道路 建設予定地	茨木市佐保地内	分布 調査	平成23年12月9日	平成23年12月9日	—	岡本	西日本高速 道路(株)	新名神高速道路(高槻～箕面)建設 工事
11060	信太山古墳群隣 接地	和泉市伯太町	試掘	平成23年12月19日	平成23年12月19日	10㎡	岡本	陸上自衛隊 信太山駐屯地	非常用電源施設建設工事
11061	長原遺跡	大阪市平野区長吉長原4丁目	確認 発掘	平成23年12月12日	平成24年2月12日	165㎡	松岡	水道企業団 東部水道	連絡弁改造工事
11062	瓜破北遺跡	大阪市平野区瓜破東1丁目	立会	平成23年11月24日	平成23年11月30日	—	林	大阪市 建設局	埋設物調査工事
11063	大堀遺跡隣接地	松原市大堀5丁目	立会	平成24年1月6日	平成24年1月6日	—	岡本	阪神高速道 路(株)	阪神高速道路松原JCT建設工事
11064	大泉遺跡	柏原市平野1丁目	確認	平成24年1月26日	平成24年1月26日	4㎡	大楽	交通道路室 道路整備課	一般国道170号交通安全施設等整備 事業
11065	高月寺遺跡	忠岡町高月南2・3丁目	立会	平成24年1月12日	平成24年1月12日	—	辻本	大阪ガス(株)	ガス管理施設撤去工事
11066	高井田横穴群 平尾山古墳群	柏原市大字高井田809-1	立会 確認	平成24年1月18日	平成24年3月31日	200㎡	大楽	こども室 家庭支援課	修徳学院寮舎等改築工事
11067	安威城跡	茨木市安威2丁目	発掘	平成24年1月23日	平成24年3月6日	92㎡	横田	交通道路室 道路整備課	主要地方道茨木亀岡線道路改良工事 (安威工区)
11068	長原遺跡	大阪市平野区長吉長原4丁目	発掘	平成24年1月23日	平成24年2月10日	150㎡	岩瀬	水道企業団 東部水道	水道管布設弁室築造工事
11069	明和池遺跡 吹田操車場遺跡	摂津市千里丘7丁目 吹田市芝田町	立会	平成24年1月20日	平成24年1月20日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備工事に伴う電気 関連工事
11070	寺川浜遺跡	大東市寺川3丁目	立会	平成24年1月23日	平成24年1月23日	—	松岡	交通道路室 道路整備課	一般国道170号交通安全施設等整備 事業
11071	崇禪寺遺跡	大阪市東淀川区東中島6丁目	確認	平成24年1月24日	平成24年1月24日	170㎡	阪田	住宅経営室 住宅整備課	府営住宅活用事業 (府営崇禪寺住宅産廃撤去工事)
11072	塚谷古墳群	岬町深日地内	確認	平成24年2月2日	平成24年2月3日	5㎡	岡本	国交省浪速 国道事務所	一般国道26号第二阪和国道(淡輪～ 府県境)建設工事
11073	高安古墳群	八尾市服部川地内	立会	平成24年2月1日	平成24年2月1日	—	広瀬 松岡	河川室 ダム砂防課	淀川水系一の谷えん堤工事
11074	久宝寺遺跡	八尾市西久宝寺	立会	平成24年2月17日	平成24年2月20日	—	宮崎	下水道室 事業課	中央南増補幹線(一)整備工事
11075	メノコ遺跡 寺川浜遺跡	大東市野崎3丁目	立会	平成24年2月27日	平成24年2月27日	—	松岡	水道企業団 東部水道	分岐量水器設置工事(寺川分岐)
11076	遺跡外 (千提寺西遺跡他)	茨木市千提寺地内	試掘	平成23年6月1日	平成24年1月31日	2,119㎡	岡本	西日本高速 道路(株)	新名神高速道路(高槻～箕面)建設 工事
11077	遺跡外 (旧鶴橋警察署)	大阪市生野区鶴橋2丁目	文化財 調査	平成24年3月13日	平成24年3月13日	—	辻本	個人	煉瓦刻印の調査
11078	遺跡外 (第2阪和国道深日ランプ)	岬町深日地内	試掘	平成24年3月19日	平成24年3月19日	4㎡	岡本	国交省浪速 国道事務所	一般国道26号第二阪和国道(淡輪～ 府県境)建設工事
11079	百済寺遺跡	枚方市宮之阪3丁目	立会	平成24年3月5日	平成24年3月15日	—	山田	府立病院機構	府立精神医療センター建替工事
11080	明和池遺跡	摂津市千里丘7丁目	立会	平成24年3月30日	平成24年3月30日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場基盤整備に伴う擁壁等構 造物撤去工事

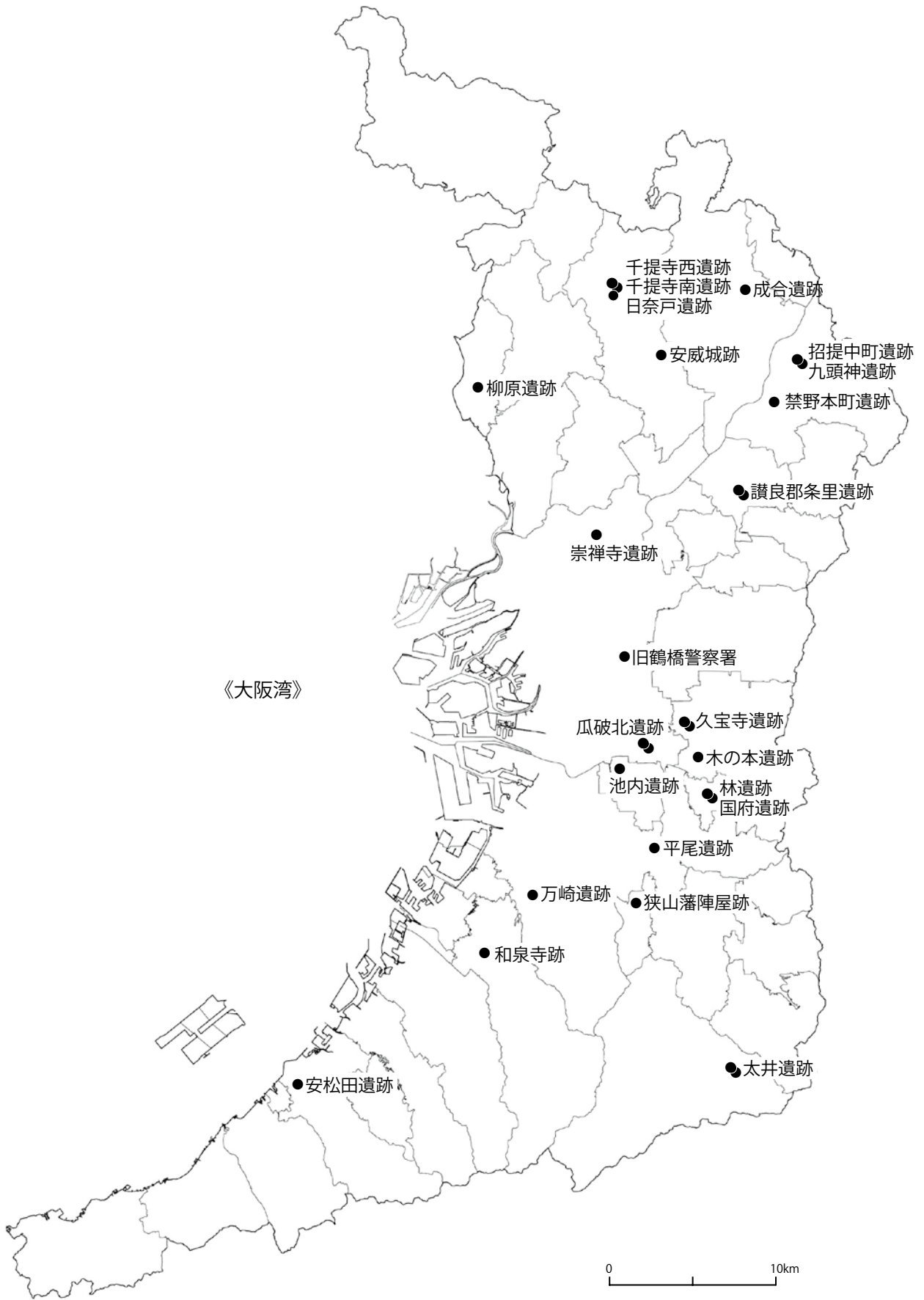


図1 主要調査位置図

いづみでら
和泉寺跡 (11001)

- (1) 和泉市府中町4丁目
- (2) 都市計画道大阪岸和田南海線建設事業
- (3) 土屋みづほ

はじめに 平成20年度より、道路予定地内の発掘調査を実施している。平成23年度は、11001-4～8区の計5区の調査を行った(図2)。このうち11001-5区は、平成23年度に実施した試掘調査によって遺物包含層を確認したため、府中遺跡として範囲拡大を行った。その他の調査区は、11001-4区は和泉寺跡および府中遺跡内に、11001-6～8区は和泉寺跡内に含まれる。

11001-4区 和泉寺跡推定寺域内東部にあたる調査区である。3面の遺構面を確認した。

第1面では、北一南方向または東一西方向の耕作溝を検出した。溝内からは、土師器、須恵器、瓦器等が出土しており、中世以降のものと考えられる。

第2面では、柱穴350基以上と耕作溝を検出した。柱穴は直径0.3～0.4mの円形である。柱穴内からは、土師器、須恵器、瓦器、瓦等が出土した。出土遺物の時期幅が広く、遺物からの遺構の時期比定は困難であるが、近接する調査区の成果より中世のものとして推定できる。

第2面のベース層である褐色粘土層を除去すると、砂礫層を検出した。砂礫層上面は北西方向に向かって落ち込んでおり、自然流路跡と考えられる。流路内からは、弥生土器、土師器、須恵器、瓦など弥生時代から古代の遺物が多く出土し、韓式系土器の甌や古代の凸面布目瓦もみとめられた。

第3面では、柱穴4基、ピット2基を検出した。柱穴は一辺0.3～0.5mの隅丸方形である。遺構内からは、弥生土器、土師器が出土した。遺構出土遺物は小片で詳細な時期比定は困難であるが、検出面直上層出土遺物より、遺構の時期は弥生時代後期から庄内式併行期頃と考えられる。

11001-5区 3面の遺構面を確認した。

第1面では、北一南方向の耕作溝を検出した。遺構出土遺物はなかったが、近接する調査区の成果より、中世以降のものと考えられる。

第2面では、柱穴140基以上と溝2条を検出した。柱穴は直径0.3～0.4mの円形である。遺構内からは、土師器、須恵器等が出土した。遺構出土遺物は少量であるが、近接する調査区の成果より中世の遺構と推定できる。

第3面では、柱穴24基を検出した。柱穴は一辺0.4～0.5mの隅丸方形または直径0.3～0.5mの

円形である。柱穴内からは弥生土器、土師器が出土した。遺構出土遺物は小片で詳細な時期比定は困難であるが、検出面直上層出土遺物より、遺構の時期は弥生時代後期から庄内式併行期頃と考えられる。

11001-6区 流路1条を検出した。流路内からは、弥生土器、土師器、須恵器、瓦等が多く出土し、古代の凸面布目瓦もみとめられた。隣接する調査区の成果より、流路は中世のものと考えられる。

11001-7区 自然流路を検出した。流路内からは、少量の土師器が出土したのみであるが、隣接する調査区の成果より弥生時代後期から古代の流路と考えられる。

11001-8区 1面の遺構面を確認し、柱穴67基を検出した。柱穴は直径0.3～0.5mの円形である。柱穴出土遺物は少量であるが、隣接する調査区の成果より中世のものと考えられる。

まとめ 今回の調査では、11001-4・5・8区で中世のものと考えられる柱穴が出土し、中世の集落跡の広がりを確認することができた。弥生時代後期から古墳時代についても、柱穴を検出したほか、自然流路からも多くの土器が出土し、この時期の集落の動向を検討し得る成果となった。また、古代寺院和泉寺跡に関係するものとしては、遺構は確認できなかったものの、自然流路等から古代の土師器、須恵器、瓦が出土しており、中でも凸面布目瓦が複数点出土した点は重要な成果である。



図2 調査区配置図(1/5,000)

讃良郡条里遺跡 (11002・11053)

- (1) 寝屋川市昭栄町・中木田町～讃良西町
- (2) 門真寝屋川 (三) 増補幹線 (二)
- (3) 岩瀬 透

はじめに

大阪府都市整備部下水道室より依頼された、門真寝屋川 (三) 増補幹線 (二) (第1工区) 内の到達竪坑及び (第2工区) 内の推進竪坑部分について、当該地が讃良郡条里遺跡の範囲内に所在するため、到達竪坑の面積約 24m²、推進竪坑の面積約 48m²の全域を対象に発掘調査を実施した。

調査成果

第1工区到達竪坑 調査区は、讃良郡条里遺跡に含まれるとともに、過去に寝屋川市教育委員会よって発掘調査された長保寺遺跡から南へ 300 m 離れた地点で、遺跡範囲の南端部からはごく近い位置関係にある。長保寺遺跡では、古墳時代中・後期、奈良時代、平安時代に属する複数の遺構面から多くの遺構・遺物が検出されており、今回の調査では、特に古墳時代中・後期の遺構の確認が期待された。

調査の結果、T.P+2 m～+1.4 mまでは耕作土の堆積が6層・4面に渡ってみられ、各層からの出土遺物によってこれらは平安時代から近世に比定できるものと考えられた。4面の遺構面のうち、畦畔などの遺構が認められたのは最上面の第1遺構面のみで、これは近世のものと考えられる。第4遺構面は耕土内から出土した遺物から平安時代後期頃のものと考えられるが、遺構は検出されなかった。

T.P+1 m～+0.8 mに堆積した第9層オリーブ黒色粘土は、古墳時代の須恵器・土師器を包含する層で、その下層の明緑色シルト上面が同時期の遺構面と考えられるが、遺構は検出されなかった。

第2工区推進竪坑 調査区は、第1工区到達竪坑から東方約 100 mの地点である。調査の結果、第4遺構面で南北方向の畦畔が検出された。第1工区の第4面と対応するもので、平安時代後期の耕作面

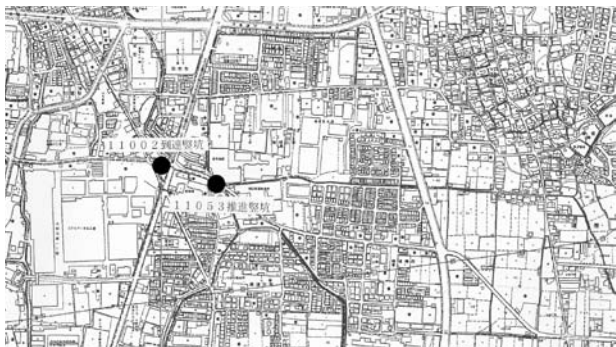


図3 讃良郡条里遺跡調査区位置図

と考えられる。

T.P+0.8 m～+0.6 mに堆積したオリーブ黒色粘土は、古墳時代中・後期の須恵器・土師器を包含する層で、その下層の灰色粘土上面が同時期の遺構面と考えられるが、遺構は検出されなかった。

T.P+0.4 m付近に堆積した灰色微砂は、古墳時代前期の遺物包含層で、甕などが出土したが、その下層上面に遺構は認められなかった。

まとめ

本調査区は、大きくは讃良郡条里遺跡に含まれているが、それに加えて古墳時代中・後期の集落が検出された長保寺遺跡に近接する位置にあたるため、条里制に関わる遺構とともに古墳時代の遺構の検出も予想された地域であった。

両調査区はともに似通った状況を呈していたが、特に2工区では平安時代後期頃に比定される耕作面が検出された。ほぼ南北方向の畦畔の存在など、これは讃良郡条里に関連するものと考えられる。

当該地の古墳時代中・後期頃の状況は、遺物の出土こそわずかにみられるものの遺構は認められず、近接する長保寺遺跡で検出されている集落の外側にあたるものと思われる。

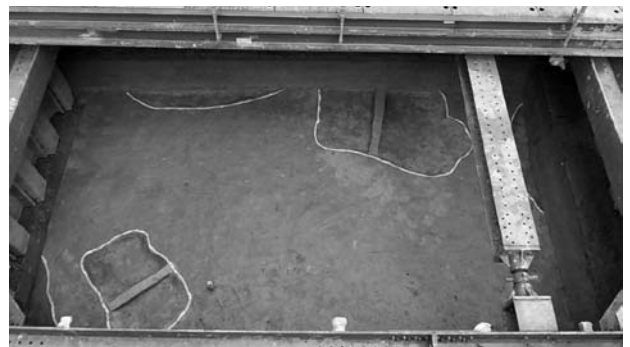


図4 第2工区2面全景



図5 第2工区4面全景

きゅうほうじ
久宝寺遺跡 (11010)

- (1) 八尾市竜華町2丁目
- (2) 竜華水みらいセンター場内整備工事
- (3) 宮崎泰史

はじめに

久宝寺遺跡は、八尾市南久宝寺一丁目を中心として東西1.7km、南北1.8kmの範囲に広がる縄文時代晩期から近世にかけての府域を代表する大規模な複合遺跡である。とくに、古墳時代では広範囲にわたって遺構が検出されている。

調査は2009年度から竜華水みらいセンター敷地内において、その付帯工事に伴って実施し、工事に合わせて調査地点を1～11区と呼称している。1・2・4・5区は2009年度、3・6～10区は2010年度に調査を実施し、完了している。今回の調査は最終年度で、1区、8区の南側にあたる(図6)。

調査の経緯

今回の調査は11区(11-A区～11-C区)と呼称し、工事によって破壊される深度(A区はTP6.5m、B区はTP6.8m、C区はTP7.2m)まで調査を行った。A区は近世から古墳時代前期、B区は近世から奈良時代の遺構を確認した。なお、C区は近代の整地層を除去した面で調査を終了している。

調査の概要

発掘調査の結果、A区では1～7の遺構面を確認している。第1層上面では近世の島畑、第2層上面では近世の島畑、小溝、第3層上面では近世から中世の柱穴・小溝、第4層上面では奈良時代から平安時代の井戸、柱列(図9)、柱穴、溝(図8)、小溝を検出している。井戸209は径約1.7m、深さ約1.3mをはかる(図7)。上層から12世紀の瓦器碗、土師質土器、下層から11世紀前半の瓦器碗、黒色土器、土師質土器、そして炭層に混じって粘土塊などが出土している。第5層上面で古墳時代後期の畦畔・堤・溝、第7層上面では堤と南北方向の大溝(北肩の一部)を検出している。堤内から布留甕、庄内甕、弥生系甕が比較的集中して出土している。

B区では1～4の遺構面を確認している。第1層上面では近世の島畑、第2層上面では近世の島畑・小溝、第3層上面では平安～鎌倉時代の小溝、第4層上面では奈良時代時代の小溝を検出している。

まとめ

第5層上面で検出した水田畦畔の時期は従前の調査では出土遺物から遺構の年代を決定することが出来なかったが、今回の調査で水田面を覆う氾濫堆積土および溝中より出土した土器から、古墳時代後期

(6世紀前半～中頃)であることが明らかとなった。

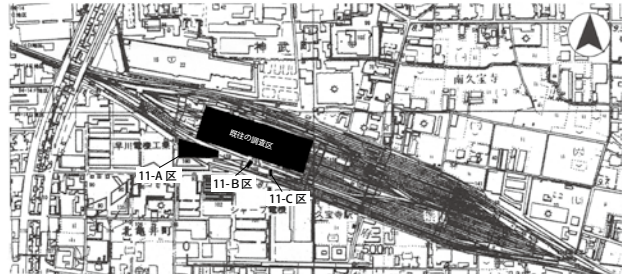


図6 調査位置図



図7 井戸209(西から)



図8 溝175土器出土状況(西から)



図9 柱列(北から)

うりわりきた
瓜破北遺跡 (11011)

- (1) 大阪市平野区瓜破東1丁目
- (2) 府営瓜破東一丁目住宅建替え工事
- (3) 林 日佐子

はじめに

瓜破北遺跡は瓜破遺跡の北西部に隣接する(図10)。周辺の地形は、西方に上町台地、東方に生駒山地、南方に河内台地、北方には河内平野が広がる。この河内平野一帯は、縄文時代には河内湾、弥生時代中頃から古墳時代には河内湖が形成されていた。

今回の調査区は遺跡の東部に位置し、南から張り出した河内台地北端部の瓜破台地段丘面と、ここから東に向けて落ち込む西谷を含む範囲である。

調査成果

逆L字形をなす調査区の西部分では、瓜破台地直上面にて、並行する2条の弧状溝(溝1・溝2)を検出した。溝からは弥生時代後期末～古墳時代初めの弥生土器が出土している。台地の縁辺部に設けた給水または排水用の溝とみられる(図11)。

台地段丘面が谷へ傾斜していく地点の湿地・沼地状堆積層から、準構造船の部材を中心とする木製品が大量に出土した。船べり部片は、船底部(剝り舟

部)が切り落とされており、井戸枠などに転用した可能性がある(図12)。円形・長方形のほぞ穴をもつ部材は、船首か船尾付近の舷側板とみられる(図13)。この他に、船首部や仕切板などの部材、再加工を施した小形の部材もかたまって出土した。

出土状況からみて、台地裾部の近辺で、木材の再利用のために船の解体作業をおこなった痕跡と考えられる。船の他には、刀形木製品、槍形木製品、箱形木製品などの祭祀関連の木製品も出土している。

これらの木製品は共伴する須恵器・円筒埴輪の年代から古墳時代後期(6世紀)に堆積したとみられる。

まとめ

弥生時代以降の生活空間としては、調査区南西に広がる台地上を想定することができる。古墳時代後期には、準構造船を用いて、河内湖や周辺河川での漁撈、人や物資の運搬をおこなっていたといえる。さらには、河内湖から大阪湾、瀬戸内海から大陸へと外洋航海していた可能性も考えられる。



図10 調査区位置図



図12 準構造船船べり部出土状況(北東から)



図11 溝1・2検出状況(南から)



図13 準構造船舷側板出土状況(西南から)

しょうだいなかまち くずがみ
招提中町遺跡・九頭神遺跡 (11012)

- (1) 枚方市東牧野町
- (2) 府営枚方東牧野住宅建替え工事
- (3) 横田 明

はじめに

大阪府住宅まちづくり部が実施している府営枚方東住宅建替第5期工事のうち、住棟建設部分についてはその全域が九頭神遺跡に含まれ、平成19年度に発掘調査を実施した。平成22年度(第5次調査)からは、周辺道路の整備事業に伴う事前発掘調査を実施しているが、今年度(第6次調査)はその2年目で最終年度となる。対象地は招提中町遺跡および九頭神遺跡の両方に跨がる地域である。

調査成果

調査対象地は、すでに生活道路として供用されている南北道路を東に拡張するための事前調査である。南北の延長約240mのうち、北側180mは九頭神遺跡、南側60mは招提中町遺跡に含まれる。

招提中町遺跡 調査対象地のうち、南端部の南北道路が南西方と南東方に二股に分かれる南東側の道路拡幅部分の1区および2区と、北端部の東西道路南側の5区が招提中町遺跡に含まれる。

1区では落ち込みの北側肩部を検出した。この落ち込みは、第5次調査で道路を隔てた南西側の22-4区(九頭神遺跡に含まれる)の調査を実施した際に検出された谷状の落ち込みと一連のものと考えられ、今回遺物は出土しなかったが、この谷は近世に埋没したものと考えられる。

5区では2面の遺構面が検出された。上面の第1面は、旧耕土下に堆積する灰色系の砂質土下で確認されたもので、東西方向のスキ溝が検出された。近世のものと思われる。下面の第2面では、東側に隣接する第5次調査の22-3区から続く土坑の西半部分や、複数のピットが検出された。今回は遺物が



図14 第6次調査位置図

出土しなかったが、中世に含まれるものと思われる。

九頭神遺跡 南北道路の北側約180mの範囲の3区および4区が九頭神遺跡に含まれる。

現況地盤ではそれほど的高低差は見られないが、地山では南北180mで約2mの高低差があり、北が高く南が低い。この差は緩斜面ではなく、いくつかの段状の平坦面を造り出すことによって生じており、これらは近世の耕作面となっており地山上に堆積する耕土内からは陶磁器や土師器片が出土している。また、地山面では主に東西方向の溝や土坑などが検出され、これらの内部からも陶磁器や土師器が少量出土しており、近世に属する遺構と思われる。

まとめ

第6次調査では、過去に周辺で実施した調査のような弥生時代あるいは古墳時代の遺構や遺物は確認されず、招提中町遺跡の北端部で一部中世まで遡る可能性が認められる地域があったが、他の大部分、特に九頭神遺跡では調査区のほぼ全域が近世の耕作地であった。

今回の調査で得られた成果は、当該地における中・近世の土地利用が把握できたことである。



図15 招提中町遺跡第1区(北から)



図16 九頭神遺跡第4区(東から)

きん や ほんまち
禁野本町遺跡 (11014)

- (1) 枚方市禁野本町2丁目
- (2) 都市計画道路枚方藤阪線整備工事
- (3) 山田隆一

はじめに

禁野本町遺跡は、奈良時代後半～平安時代前半に存続し、同じく交野台地に隣接して立地する特別史跡 百済寺跡と深く関わる遺跡と考えられている。調査は府道拡幅工事に伴うもので、道路に沿う北側の延長600mを対象として、平成19年度から継続して実施している。今回の調査地は、東西約105m、幅6～10mの範囲である。

調査成果

中央部分で、南北方向の浅い谷地形が確認でき、その両側で居住区(西・東居住区)を確認した。

西居住区 大型柱穴を含む柱穴が密集して見つかった。写真中央は、方形掘方の柱穴で構成される2間×3間の掘立柱建物で東面に庇を有する。府道に沿って確認した東西方向の溝状遺構は、区画溝あるいは道路北側々溝の可能性ある。東に延長すれば、東居住区の溝状遺構2条とほぼ直角に交差する。

東居住区 掘立柱建物3棟を含む柱穴群、南北に並行して掘削された溝状遺構2条、竪穴建物1棟を確認した。溝状遺構2条(写真手前と中央)は区画溝、

あるいは道路側溝と考えられる。後述する方形区画に合致する。写真奥は、6世紀後半の方形竪穴建物(一辺5.3m)である。今回の調査で同時期の遺構としては、他に小土坑がある。なお竪穴建物より奥は谷地形であり、遺構は未確認である。

まとめ

本遺跡では、枚方市の調査・研究により、8世紀後半～10世紀の正方位に近い道路状遺構や区画溝、掘立柱建物群などが確認され、その成果により百済寺を含んだ都市的な方形地割が復元されている。

今回の調査で確認した東居住区での南北溝2条と西居住区の東西溝も、その方形地割の復元には重要な成果である。また西居住区の底付き掘立柱建物を含む柱穴群は、交野台地の縁辺での高いランクの掘立柱建物群の存在を示し、本遺跡の景観復元には重要な成果となった。

なお多くの遺構は、正方位に近く、出土遺物からも奈良時代後半から平安時代前半に位置付けられるが、方位を異にする大型掘立柱建物(2間×7間以上)も確認しており、今後の検討を要する。

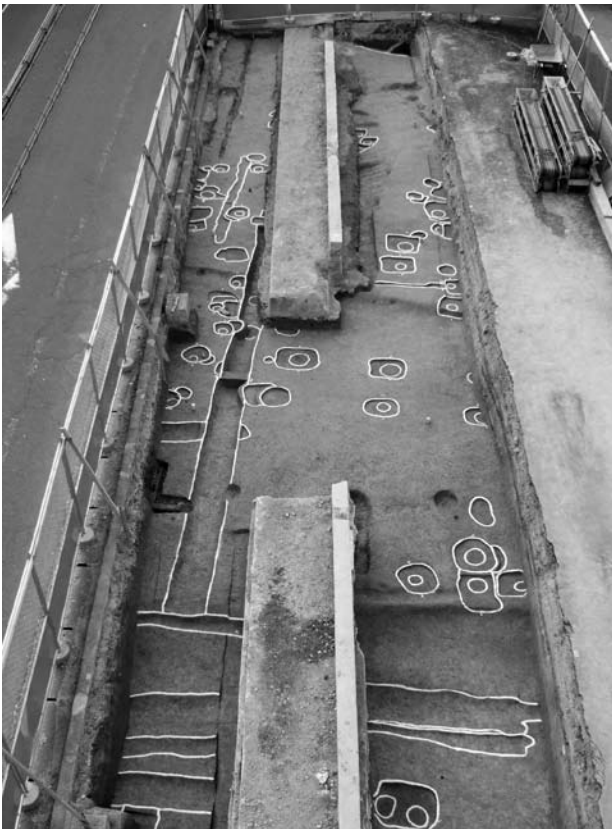


図17 西居住区(東から)

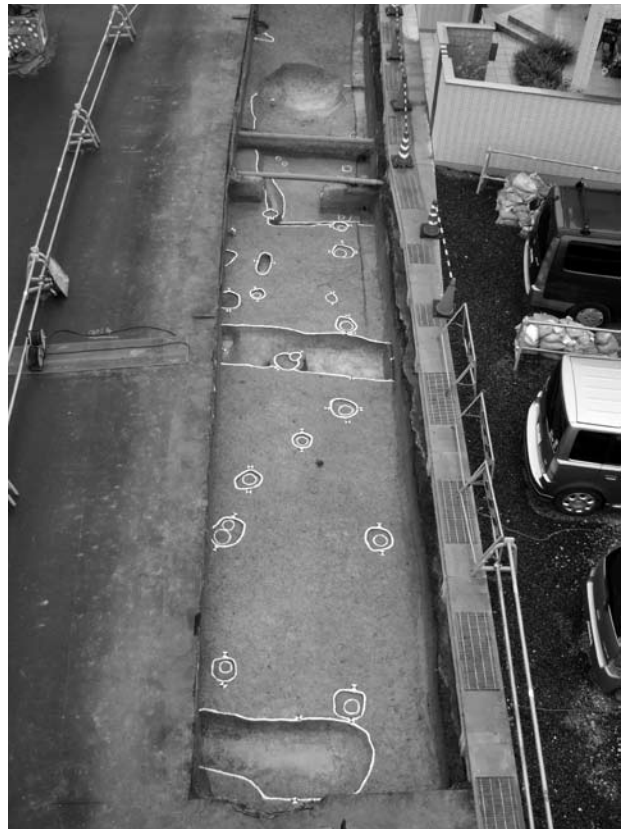


図18 東居住区(東から)

やすまつ だ
安松田遺跡 (11015)

- (1) 泉佐野市東羽倉崎町
- (2) 府営泉佐野東羽倉崎住宅建替え工事
- (3) 三木 弘

はじめに

府営泉佐野東羽倉崎住宅建替えの一連事業として実施された歩道・市道部分の雨水管理設工事などに伴う立会調査を5～8月に行った。総面積は440㎡であった。

調査成果

平成21年度の大坂ガス管理設工事（市道上町末広線）で発見した1基を含め、合計24基の土坑を発見した。いずれも従来から発見されている粘土採掘坑と考えられる。

したがってこのたびの立会調査によって、従前の調査区よりも北東および南東方向に粘土採掘坑が広がることを確認できた。

市道上町末広線の埋管工事で発見された4基の土坑のうちの1基では、覆土中に焼土や炭化物が顕著に認められ、コンテナ2箱分の瓦片が出土した。さらに土層断面で検出された平瓦の中には粘土状態の軟質なものも存在していた。焼成前の乾燥時に破損したものを投棄した可能性が高い。

この土坑は焼土・炭化物が多量に含まれていた21年度調査区の174土坑の東に位置していることから、これらの土坑の付近に瓦窯が存在していた可能性が高いとみられる。

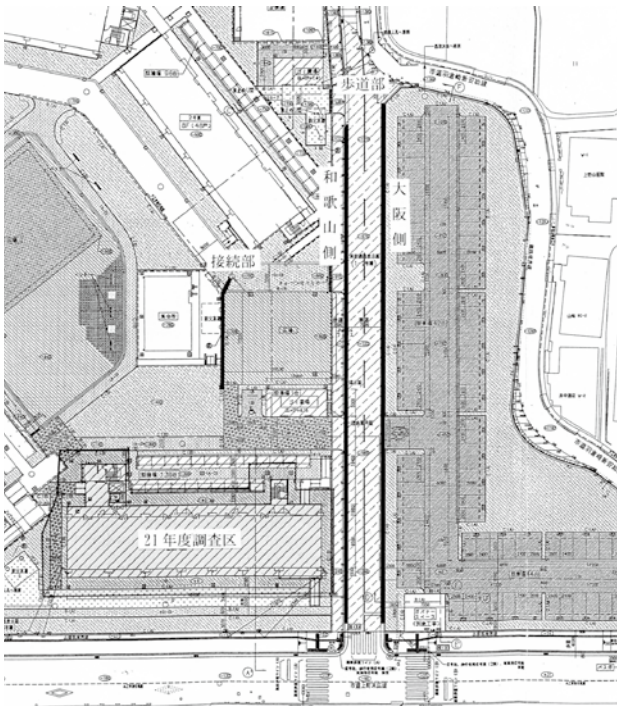


図19 歩道部・接続部の位置

表6 立会調査一覧

工事名	立会期間	工事規模	検出遺構	出土遺物
歩道部雨水管設置工事(大阪側)	H23.5.10～5.13、6.6～6.7	1×94m：94㎡	土坑5基	包含層から土師器片1点
歩道部雨水管設置工事(和歌山側)	H23.7.6～7.7、7.19～7.22	1×95m：95㎡	土坑12基	包含層から瓦片1点
接続部埋管工事	H23.8.9	1×19m：19㎡	土坑2基	
市道上町末広線雨水管設置工事	H23.5.13～5.19、5.30、6.2	1×131m：131㎡	土坑4基	土坑No.2より瓦片コンテナ2箱、No.3から瓦片2点。包含層より瓦片2点
ごみ置場設置工事	H23.5.9	(北)1×19m：19㎡ (南)5×11m：55㎡		
街路灯設置工事	H23.6.16	直径0.8m 0.5㎡×2ヶ所		

立会調査で明らかになった基盤層上面の標高値から旧地形を復元すると、遺跡北東半分の地盤は遺跡北の市道羽倉崎新安松線に向かって緩やかに下降していて、現在用水路が走行している部分に旧河川が存在していたと考えられる。



図20 歩道部（和歌山側）検出土坑道



図21 市道部検出土坑 / 瓦検出状況

おおい
太井遺跡 (11016)

- (1) 河内長野市小深
- (2) 府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
- (3) 西川寿勝

はじめに

河内長野市南東の金剛山から流れ出す石見川沿いの水田を整備する事業に先立ち、平成18年度に試掘調査を実施した。その結果、太井遺跡・奥田井遺跡・鳩原遺跡・川上神社遺跡などで遺構・遺物が確認された。太井遺跡小深地区は事業地の最奥部（標高320m前後）、石見川北岸に位置し、22・23年度に発掘調査を実施した。また、石見川南岸の太井地区でも23年度より継続調査が実施されている。

太井遺跡は金剛山から流れ出る石見川が形成した溪谷の両岸、わずかな平坦面に位置する。

遺跡を貫く大沢道（現国道310号線）は東高野・西高野・中高野の三街道が一本になる河内長野市の七ツ辻から観心寺を通して、千早城の眼下を大沢峠へぬけ、高野山に至る古道として知られる。調査地の2km東に楠木正成が籠った千早城がある。

調査成果



図22 調査区位置図

現地調査は平成23年6月から8月に実施した。調査区は20か所に分かれ合計320㎡に及ぶ。調査の結果、調査区1・10・13で顕著な遺構・遺物が確認され、調査区13は拡張して遺構の全容を確認した。

調査区1と調査区10は落ち込み状遺構があり、中世の瓦器、椀・羽釜と土師器甕などがともなった。22年度調査区の西側平地に屋敷があると思われる。

調査区13は南斜面に50㎡程度の平地を削り出したところで、建物1棟と土坑などが発見された。遺物は南北朝時代頃のものと思われる瓦器椀・羽釜などがあり、短期間の居住と考える。

その他、縄紋時代後期前葉の土器が2点出土した。



図23 調査区13



図24 出土遺物

まんざき
万崎遺跡 (11020)

- (1) 堺市西区草部
- (2) 府営堺草部住宅エレベーター設置工事
- (3) 辻本 武

はじめに

万崎遺跡は、1975年に府営堺草部住宅建設に先立ち試掘調査し、遺物が出土したことによって発見された遺跡である。この結果に基づき、府教委は住棟のうちの三棟分について全面調査を実施した。その結果、古墳時代と考えられる溝を検出し、縄文時代後期の土器片や古墳時代須恵器などが出土した。

1979年に、府営住宅の西側に市立小学校の建設が予定され、市教委が試掘調査を実施したところ、遺構遺物が確認されたことによって、万崎遺跡が大きく広がることが判明した。市教委は引き続き発掘調査を実施し、条里制に関係する溝や古墳時代の溝・落ち込みなどの遺構を検出するとともに、土師器・須恵器・瓦器等の遺物が出土した。

今回の調査は府営住宅にエレベーター設置工事が施工されるに伴い、発掘調査を実施したものである。

調査の成果

1区： 住棟番号7号棟の東階段前に設定した調査区である。調査区内の西側は1975年の試掘トレンチ、北側は住棟建設の際に攪乱されており、今回は調査区の南東部2.5m四方が辛うじて調査可能な部分であった。現地表から0.9mの深さで、府営住宅造成直前の旧耕作土が現れ、それを除去すると層厚0.1mほどの浅黄色粘質土層で、この層に古代あるいはそれ以前の須恵器・土師器の細片が含まれる。以上の土層を除去した面で地山となる。地山面

のレベルはT.P + 15.8 mを測る。この面で精査したが、遺構は検出されなかった。

2区： 住棟番号12号棟の北階段前に設定した調査区である。現地表面から1.2mまでは現代の盛土で、それを除去した面から発掘調査を進めると、旧石津川の左岸の斜面を検出した。T.P + 13.8 m (G.L. - 2.6 m) まで掘削したが、川底に到達しなかった。旧石津川内の淀み堆積物と見られるオリブ黒色粘土から近世以降の瓦片が出土した。

3・4区： 住棟番号3号棟にある二つの階段前に設定した調査区である。現地表面から1.5～2.5mのレベルまでは現代の盛土。さらにその下は地盤改良剤で固く締まった土層となり、それ以上の掘削は困難であった。1970年代に旧石津川を埋め立てた土層と判断した。3・4区は旧石津川の中に相当する場所であることを確認した。

まとめ

1区では、古代あるいはそれ以前の遺物を包含する土層を確認した。また2～4区では、1970年代までに切り替わった旧石津川の流路の跡を確認した。

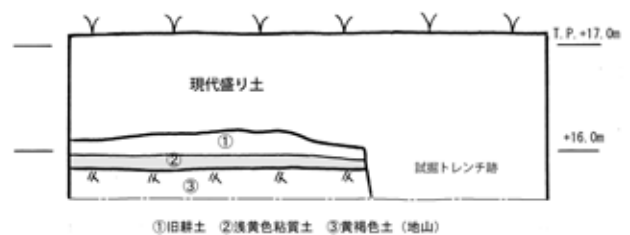


図26 1区土層断面図



図25 調査区位置図



図27 地山面全景

さ やまはんじん や
狭山藩陣屋跡 (11022)

- (1) 大阪狭山市東池尻2丁目
- (2) 一般府道河内長野美原線交通安全事業
- (3) 小林義孝

調査に至る経過

戦国大名・小田原北条氏の末裔を藩主とする狭山藩は、狭山池の傍らに陣屋を構えた。陣屋は、藩主の居館と政庁、上中級の家臣の屋敷で構成されている「上屋敷」と私的要素の強い藩主の別邸と馬場や弓の鍛錬場、そして下級家臣の屋敷からなる「下屋敷」がある。

上屋敷は、中央部を南北に走る「大手筋」を中心に空間構成がなされており、現在の大手筋は一般府道河内長野美原線と重なっている。この道路に歩道を設置することとなり、工事に先立って大手筋の両側の発掘調査を大阪狭山市教育委員会が実施してきた。

今回は、上屋敷の北端部分、当該府道と南海高野線が交差する地点の発掘調査を実施した。南海高野線が走る土手に歩道用の隧道を設置する工事に先立ってである。隧道掘削のための機械等を設置する南側の第1区(約200㎡)と北側(到達側)の第2区(約30㎡)の二つの調査区を設置した。

調整の成果

第1区は、上屋敷の北門付近に当り、関連遺構の検出が期待された。しかし、第1区を含む一帯は、ここに所在する天理教狭山分教場の何度かの建て替えや増築により、大きく改変されている。第1区では、何時期かに分類できる近代のトイレ遺構が数基検出された。分教場の建物配置の中でこの地区の役割は継承されていたのである。

また、改築等のために生まれた瓦礫などを埋める土坑が検出された。この埋土からは陣屋跡に伴うと考えられる近世に遡る軒丸・軒平瓦の破片や陶磁器片の出土をみた。

第2区は、表土を除去すると直ちに地山面があらわれた。地山面には溝状や不整形の落ち込みなどが検出されたが、帰属する時期は不明。埋土中からは須恵器や瓦器の小片が出土し、近辺に当該時期の遺構の存在が予想される。

まとめ

今回の調査では、明確に狭山藩陣屋跡の時期の遺構は検出されなかった。明治初期に描かれた「狭山藩陣屋上屋敷図」に現代の地形図を重ね合わせると(図28)、第1区は「舟越仲」家屋敷の北東隅から北門の内側の空間の部分に、第2区は北門の外側に

当るものと想定できる。

第1区と第2区の間に明治期に南海高野線が建設される。線路は当該地点で狭山池に連なる谷から段丘上に上がることとなる。さらにここで府道と交差する。この一連の建設工事は、当該地一帯は微細な地形を活用しながら、さらに一部改編して実施したものと考えられる。このため狭山藩陣屋跡の北端部分もその影響を被り、関連する遺構が遺存しなかったものと思慮される。

なお、本調査に関連して大阪狭山市教育委員会と共催で『復元!狭山藩陣屋跡』と題した普及事業を実施した。11月13日(日)に陣屋のウォーキング、及び講演会(植松清志大阪人間科学大学教授「狭山藩の武家住宅」ほか、調査担当者による「狭山藩陣屋の成立とその背景」「狭山藩陣屋跡の発掘調査」)を開催し、多くの参加があった。また、その前後の期間には府立狭山池博物館で出土遺物等の展覧も行った。

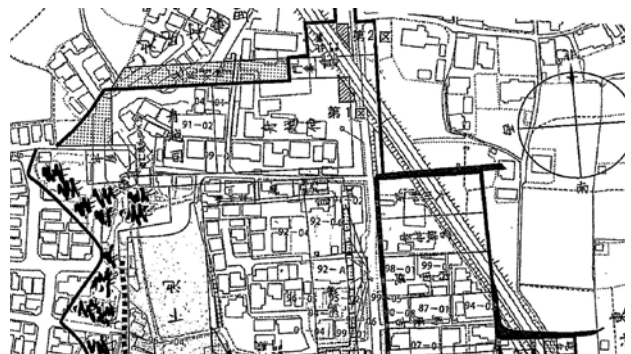


図28 調査区位置図



図29 第1区全景

ひらお 平尾遺跡 (11027)

- (1) 堺市美原区平尾
- (2) 府立美原高等学校下水道放流切替え工事
- (3) 辻本 武

はじめに

平尾遺跡は、1973年に府立美原高等学校建設に先立つ試掘調査を実施したところ、古代の遺構・遺物が検出されたことにより発見された遺跡である。大阪府教育員会ではこれに基づき73・74年度に1万4千㎡の発掘調査を実施した。その結果、7～8世紀の掘立柱建物群や溝、柵などが多数検出された。その一角では、溝と柵列によって囲まれた方形区画に建物群が整然と並ぶ状況が判明し、発掘調査終了後に古代史研究者の間で官衙跡かそれとも地方豪族の邸宅跡かで論争となった。

2002・03年度には美原高校の南でバイパス建設工事に伴う発掘調査が実施され、7～8世紀の掘立柱建物多数と、同時代の削り抜き船材を転用した井戸等が検出された。

この結果、平尾遺跡は450m四方に100棟以上もの掘立柱建物群が広がる大規模な遺跡であることが明らかとなった。

今年度は美原高校において下水道放流切替工事が計画され、これに伴い発掘調査を実施したものである。

調査の成果

校内西側の調査： 校内の西側にあるプールの排水を流す下水管工事に伴う調査である。土間コンクリートや近年の盛土層を除去すると、厚さ0.4～0.6mの旧耕作土に地山ブロックが混合する土層が現れる。この土層は1973・74年度の発掘調査の際の排土と思われる。この層を除去したレベルで、

黄色粘土の地山面となる。地山面で落ち込みや小ピット遺構を検出したが、時期的にはかなり新しいものである。古代の遺構は検出されなかったが、73・74年度の発掘調査の調査区の痕跡を見つけることができた。遺物としては地山面直上で須恵器片を採集した。

校内東側の調査： 校内の東端に沿って汚水を放流する下水管工事に伴う調査である。工事箇所は段丘崖に該当し、遺構面のレベルがGL-2.5～4.0mと非常に深くなる場所である。下水工事による掘削が遺構面に及ばない部分は発掘調査不要とし、そして下水工事が遺構面に影響を与える部分に限って発掘調査を実施した。

その結果、学校建設に伴う近年の盛土が0.6～3.5mの厚さで堆積し、その下からは73・74年度調査に伴う排土層が現れた。さらにその下が学校建設直前の耕作土層および床土層であり、以上を除去すると明黄褐色砂礫土の地山面となる。この調査区では古代の遺構・遺物は検出されなかったが、校内西側の調査と同じく73・74年度発掘調査の調査区の痕跡を検出した。

まとめ

平尾遺跡は38年前に発見された飛鳥～奈良時代の遺跡で、この時の発掘調査では建物跡等が密集して検出され、官衙跡か豪族邸宅跡かで論争となった遺跡である。今回の調査ではこの時代の遺構は検出されなかったが、旧調査区跡が見つかり、同時に検出された遺構群の正確な位置を知ることができた。

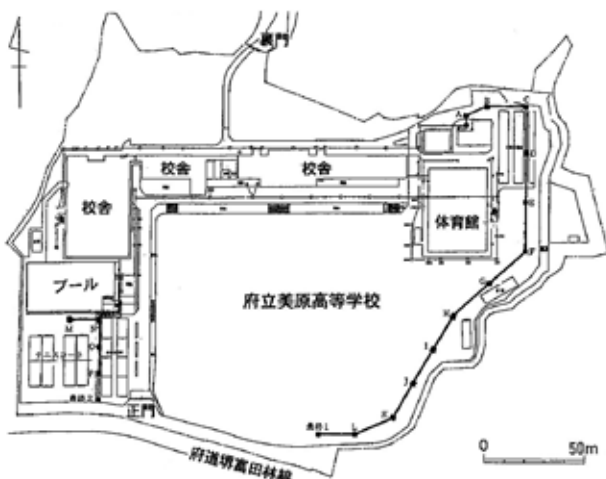


図30 調査区位置図

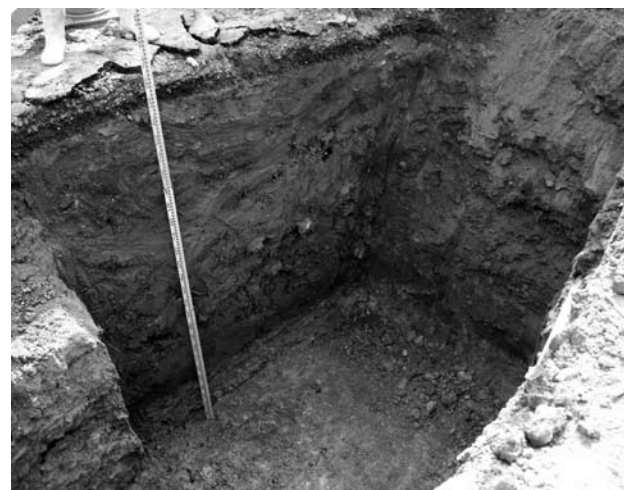


図31 会所部分の調査

きのもと 木の本遺跡 (11031)

- (1) 八尾市空港1丁目
- (2) 大阪府広域搬送拠点臨時医療施設 (SCU) 新築工事
- (3) 岩瀬 透

はじめに

大阪府医療対策課よりより依頼された、大阪府広域搬送拠点臨時医療施設 (SCU) 新築工事について、当該地が木の本遺跡の範囲内に所在しているため、施設建設範囲のうちの約 119m²を対象に、発掘調査を実施した。

調査成果

調査区の北及び北西方で平成 13 年度に実施された中部広域防災拠点整備事業に伴う発掘調査の際に、弥生時代前期を主体とする遺構・遺物が検出されていることから、今回の調査でも同様の成果が得られるものと予想された。

調査は、対象地区内に 2 箇所のトレンチを設定して行った。

調査の結果、西側の第 2 トレンチは掘削深度が GL - 1.8m と浅かったため、GL - 1.4m で古墳時代前期の包含層を確認したが、弥生時代前期の遺物

包含層および遺構面までは到達しなかった。

東側の第 1 トレンチは GL - 1.5m 付近の第 8 層上面で古墳時代前期のものと考えられる流路を、GL - 2.5m 付近の第 13 層青灰色シルト上面で弥生時代前期の遺構面を確認し、遺構を検出した。検出した遺構は土坑、溝などと思われるが、トレンチが幅狭なため遺構の全容を把握できたものはなかった。これらの遺構の中には、弥生時代前期の土器が少量出土したのもみられたが、全体的に遺物の出土量は少なかった。

まとめ

平成 13 年度に調査された、当該地の北側に隣接する地点からは、弥生時代前期の遺構・遺物が検出されており、今回はそれに関連する遺構が検出されたものといえる。

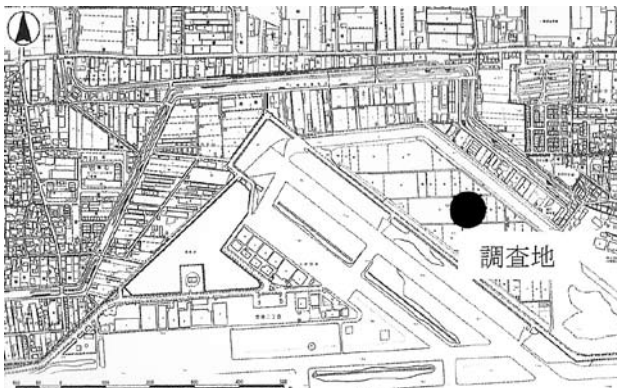


図 32 木の本遺跡調査地点

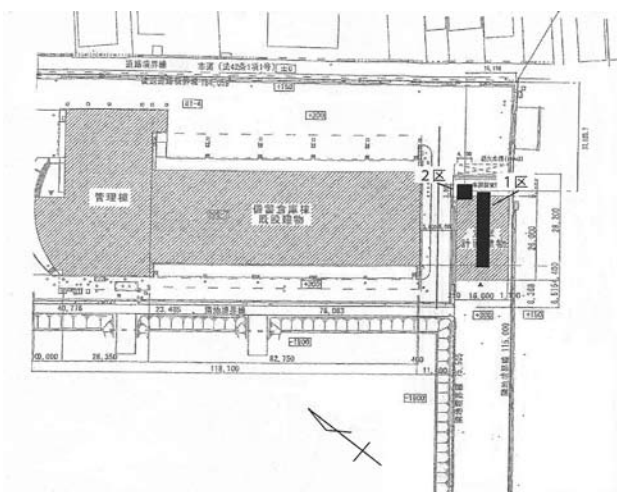


図 33 調査区位置図



図 34 1区全景

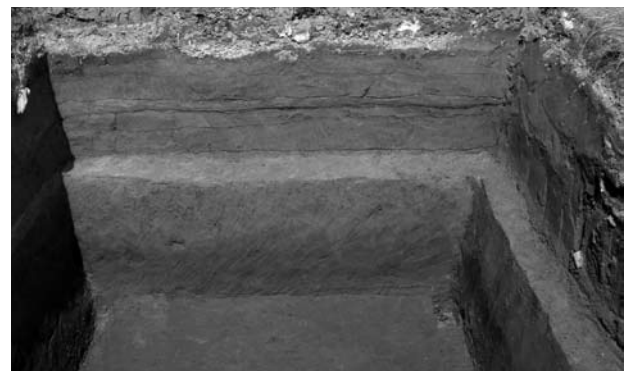


図 35 2区土層断面

柳原遺跡（11034）

- (1) 池田市城南3丁目
- (2) 府営池田城南住宅建替え工事
- (3) 三好 玄

はじめに

本遺跡は、府営池田城南住宅建替え工事に先立つ試掘調査によって発見・周知された遺跡である。五月山南麓から南に向けて緩やかに傾斜した低位段丘の端に位置し、現地盤の標高は、T P + 26 m前後である。調査面積は2025㎡を測り、住宅建替えに伴う文化財調査は、本調査をもって完了する予定である。

検出遺構の概要

調査地には、上から府営住宅建設時の造成土、古代～近代の耕作土が堆積しており、その下の基盤層上に弥生時代後期の遺構が広がっていた。遺構面の精査によって調査区全体で200基以上の土坑が検出された。調査区西半に密集し、東半は南北の溝を境にして遺構がわずかとなる。

土坑の特徴

土坑の平面形は不整形で、断面を見ると下半が横に広がる袋状を呈するものが多い（図36）。深さはいずれも約0.5～1.0mを測り、礫がちな地山（図36C）に到達したところが底となっている。

また埋土の状況を見ると、粘土ブロックを含む下半と流入土、古土壌からなる上半に分けることができ、上半と下半の境目には薄い粘土層が堆積するものもある。これらの観察により、土坑は下半まで埋め戻された（4層）後に放置され、滞水（3層）する期間を経た後、周辺からの流入土（2層）が堆積し、最終的に残ったくぼみに土壌（1層）が発達し

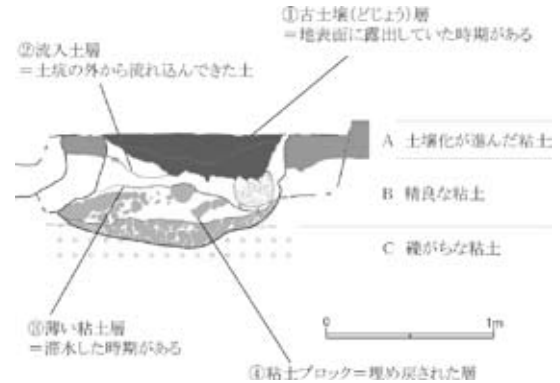


図36 土坑断面図

たものと考えられる。

土坑の性格

掘り込まれた後、埋め戻されることなく放置されていること、礫がちな粘土の上の精良な粘土を掘削していることなどから、これらの土坑は地山の粘土を得るために掘り込まれた粘土採掘坑と評価するのが適切であろう。

まとめ

今回の調査によって、柳原遺跡が弥生時代後期の粘土採掘地として利用されていたことが明らかになった。北摂地域の弥生時代遺跡はまだ調査が進んでいないものが多い中で、これらの点は重要な調査成果である。特に土器の中には、後期前葉にさかのぼるものが一定量認められ、本遺跡の形成が弥生時代後期開始期の集落再編に伴う新たな資源開発としての意味を持つ可能性が示唆されるものである。

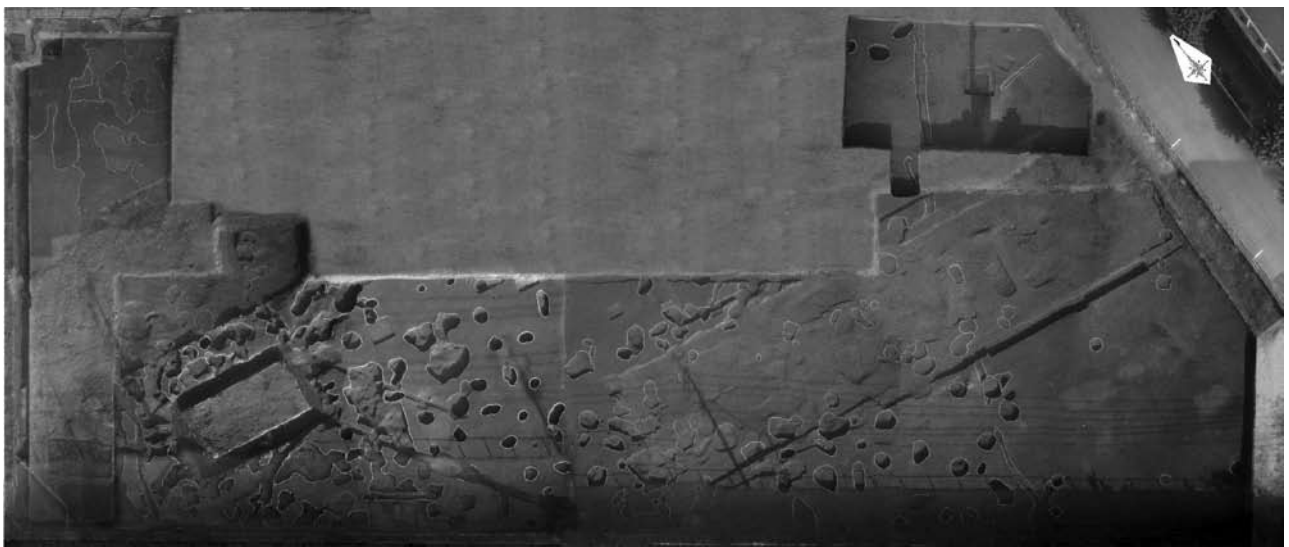


図37 調査区全景空中写真

うりわりきた
瓜破北遺跡（11036）

- (1) 大阪市平野区瓜破2丁目
- (2) 府営瓜破二丁目住宅建替え工事
- (3) 奥 和之

はじめに

瓜破北遺跡は、大阪市平野区瓜破二丁目・瓜破西一丁目を中心に広がる遺跡で、その規模は東西1350 m、南北535 mを測る。地形的には、大阪平野南部の丘陵地から北に延びる河内台地の先端部に位置する。これまでの調査で発見された遺構・遺物から、旧石器時代から中世まで長期にわたる複合遺跡であることが明らかになっている。

今回の調査地は、瓜破北遺跡の中央に位置し、台地の北西先端の斜面部にあたる。調査は、府営瓜破二丁目住宅建て替えに伴い、1359㎡の調査を実施した。

調査の成果

調査により遺構面を5面検出した。第1面(近世)では、条里に伴うと推定される南北方向の溝群と、牛と推定される踏み跡痕。第2面(中世)は、洪水堆積層上面で検出した。第3面(平安?)は、人の足跡痕が多数検出した。一部の足跡には歩行を示すものも認められた。第4面は、調査区内では遺構が検出されなかった。第5面では、溝、土坑などを検出した。中央から東側で、南北に延びる溝2本と東北から南西に延びる溝1本。西側では、「L」字形の溝とそれに注ぎ込む4本の溝を検出した。これらの溝は、溝内の土の堆積状況から用水路として機能していたものと考えられる。溝の中から極少量の遺物が出土した。これから時期は、古墳時代前期と推定される。

まとめ

今回の調査では、住居跡や建物など集落に伴う遺構は検出しなかった。古墳時代前期と推定する溝が検出されたが、遺物が極少量であることから、集落と離れていたものと考えられる。それ以降、調査区内では近世まで遺構が存在しなく、洪水堆積、自然堆積などが繰り返していたことが、平面・断面などで確認された。

調査地周辺で行った大阪市教育委員会の調査では旧石器時代の石器が多数出土したが、その時代の遺物はなく、弥生時代後期から近世のものが少量ながら出土した。

今回の調査では、遺構・遺物は少なかったものの、この周辺の遺跡の状況が明らかになり、貴重な調査成果が得られた。

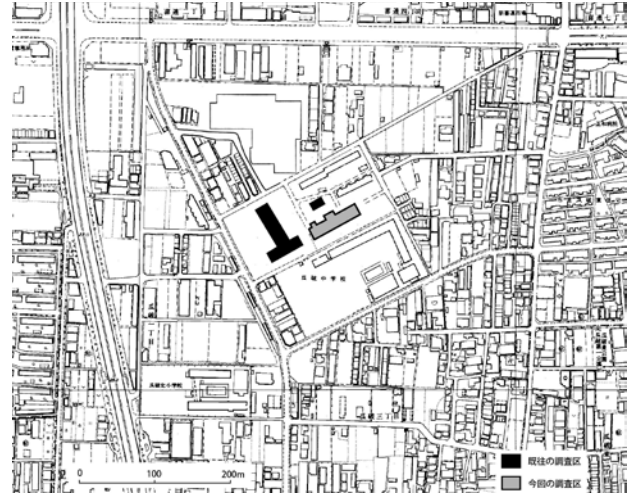


図38 調査区位置図



図39 第1面西半部検出条里溝群



図40 第5面東半部溝検出状況

おおい 太井遺跡 (11038)

- (1) 河内長野市太井
- (2) 府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
- (3) 島津知子(河内長野市教育委員会)・小林義孝

調査の経過

金剛山系に発し北西方向に流れ石川に合流する石見川の川岸、標高約 300 m 付近に太井遺跡は立地する。石見川が形成した谷は深く狭いが、太井遺跡付近では谷幅が広がり、川の両岸に遺跡は展開する。

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、調査は造成工事によって切り下げられる部分を主に、工事施工によって地下遺構に影響が及ぶ可能性がある部分についても併せておこなった。調査は河内長野市教育委員会と共同で実施した。

今回の調査区は石見川の左岸にあたり、調査面積は約 830㎡である。河内長野市教育委員会が実施した近接する農道の発掘調査において、縄文時代中期末から後期初頭の土器が出土し、13 世紀後半から 14 世紀後半の遺物をもつ土坑などが検出されている。当該調査区においても同様な遺構・遺物の検出が予想された。

調査成果

調査区は、南から北へ石見川に向かって傾斜し、調査区北西部から北端部にかけては岩盤が露出する。また調査区の中央部を南から北へ土石流が走った痕跡が確認された。

遺構は、長さが 1.5 m 前後、直径 1 m 前後、0.4 m 前後のものなど、大きく 3 種類に分類される土坑で構成される。土坑の平面形は、円、楕円、長方形などがある。土坑の一隅に瓦器碗や土師器小皿を納めたもの、石を敷き並べたものもあり、これらは遺体を埋葬した土葬墓の可能性が高い。

また、遺体を茶毘にふした火葬場の遺構が検出された。方形に石を敷きつめたもので、その一帯から

は灰や炭に混ざって火葬骨の小片が多数出土した。また調査区北部の一部に灰や炭が多く含まれる土砂の堆積もみられ、火葬の後に残ったものをここに廃棄したと考えられる。ただし蔵骨器をもつ墓や火葬骨を納めた土坑は検出されていない。しかし土葬とともに火葬が営まれていたことも間違いない。

検出された土坑は、十数基づつまとまって分布しているように見受けられるが、その構成原理については今後の課題である。

また直径 5 m 前後の大型の土坑や、直径 30cm で深さ数十 cm を測る柱穴状の遺構も検出されている。これらは埋葬や納骨、さらに墓に対する祭祀に関連する遺構であると想定される。

出土した遺物は、瓦器碗、土師器小皿、土師器羽釜、青磁碗、鉄製品小片などの出土をみ、多くが墓に納められたものである。13 世紀後半から 14 世紀後半の時期に帰属するものである。

また、縄文時代後期の土器片、サヌカイト小片も検出した。

まとめ

今回の調査では、中世前期に遡る墓地を検出することができた。しかし、調査区内においても、また調査区の近隣においても、一石五輪塔や背光五輪塔などの小型石造物はまったく検出されなかった。このことは、これらが盛行する 15 世紀以降には太井遺跡の中世墓群がすでに廃絶していたことを示している。

今回検出された遺構は、中世の比較的早い時期の集団墓地として葬墓制を研究する上で重要な位置を占めるものと考えられる。

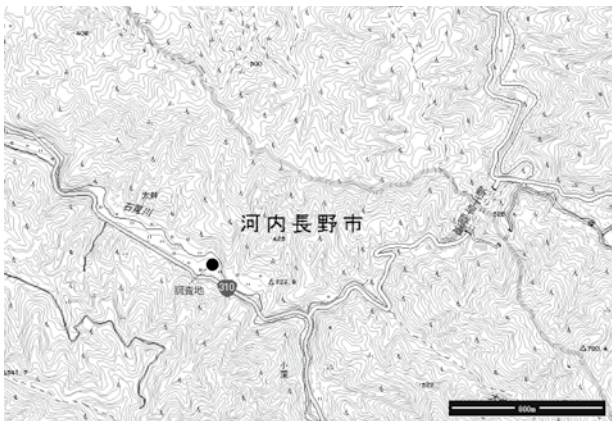


図 41 調査位置図



図 42 調査区全景

いけうち
池内遺跡 (11050)

- (1) 松原市天美北1丁目
- (2) 都市計画道路大阪河内長野線整備事業に係る(仮称)松原市道天美北105号線建設工事
- (3) 岡本敏行

はじめに

今回の調査は、都市計画道路大阪河内長野線整備事業に係る松原市道(仮称)天美北105号線建設に伴う試掘調査である。本線は、阪神高速道路大和川線を挟んで大阪河内長野線の北側延伸機能を持たせた道路であり、建設予定地内の南半部はすでに池内遺跡の範囲内にあたることから、平成23年度に(公財)大阪府文化財センターが発掘調査を実施している。その結果、調査途中で遺跡の範囲が北側に広がる可能性が出てきたため、急遽大阪府教育委員会において、試掘調査を実施することになった。

調査は、工事対象地内の試掘調査可能な場所にA(2×2m)・B(2×2m)2ヶ所のトレンチを設定し、土層の変化、遺構の有無を確認しながら主に機械を

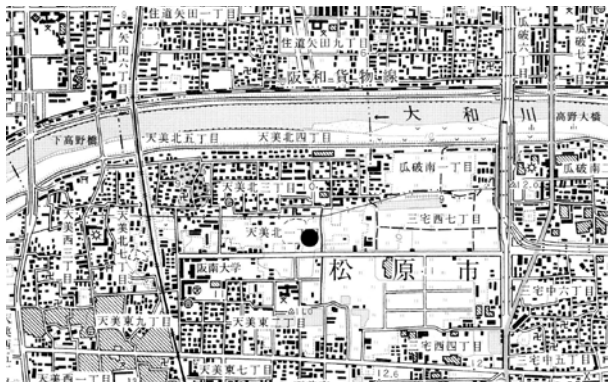


図43 調査位置図

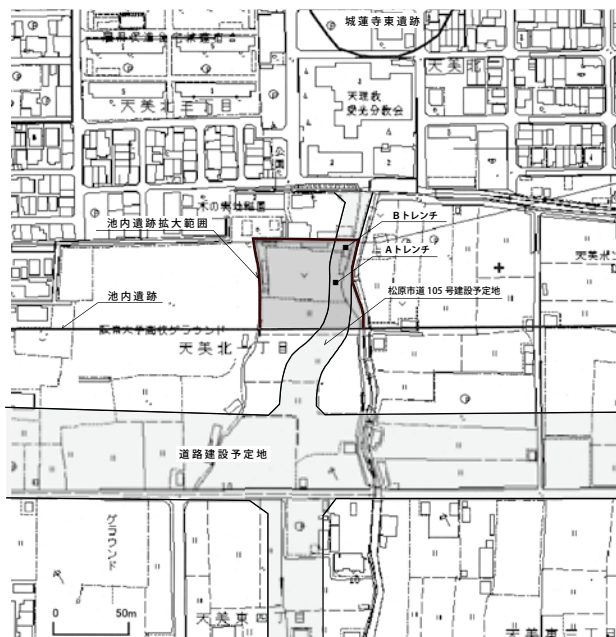


図44 試掘位置及び遺跡拡大範囲

用いて掘り下げた。

調査成果

調査地は、東の瓜破台地と西の上町台地に挟まれた低地に位置し、北側に大和川が西流する。また周辺には、南側に池内遺跡が隣接し、北側に城蓮寺東遺跡、東側に三宅西遺跡等が点在する。

調査の結果、Aトレンチでは、G.L - 1.35mで黄褐色粘土の地山面に達する。その間の基本的土層は、上から盛土(層厚1.2m)、暗灰褐色粘質土(層厚0.15m)が堆積する。暗灰褐色粘質土は、隣接する池内遺跡で検出されている古代~中世の遺物包含層に対応するとともに、地山面で土坑状の遺構を検出した(図45)。

Bトレンチでは、G.L - 2.2mまで掘削を行ったが、地山面を検出することはできなかった。上から盛土(層厚1.2m)、暗灰褐色粘質土(層厚0.2m)→Aトレンチと同様池内遺跡の遺物包含層に対応する)、暗灰色シルト(層厚0.4m)、黄灰色砂(層厚0.4m以上)が堆積し、その堆積状況から河川もしくは流路が存在していたものと考えられる。

まとめ

当該地については、上記のようにAトレンチで遺構等が検出されるとともに、Bトレンチで河川状の流路が検出されたことから、池内遺跡の範囲が当該地付近まで広がっていることが判明し、Bトレンチ検出の流路が遺跡の北側を画すると考えられる。

この結果を受けて松原市教育委員会と協議を行った結果、図44で示した範囲を新たに池内遺跡の範囲として周知するに至った。あわせて、新たに遺跡範囲に掛った道路建設予定地については、(公財)大阪府文化財センターにおいて引き続き発掘調査を実施することになった。

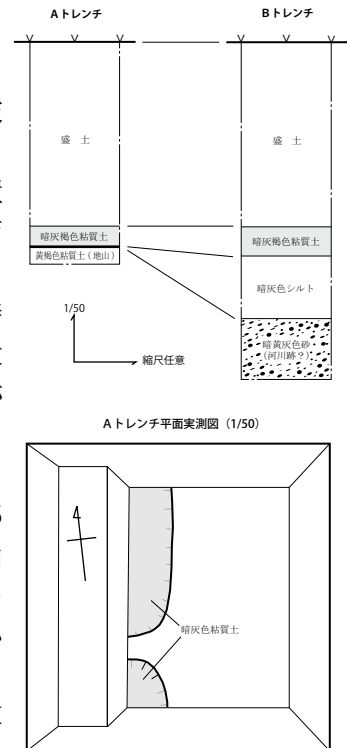


図45 平・断面模式図

きゅうほうじ
久宝寺遺跡 (11052)

- (1) 八尾市西久宝寺
- (2) 久宝寺緑地北部地区雨水排水管敷設工事
- (3) 宮崎泰史

はじめに

久宝寺遺跡は、八尾市南久宝寺一丁目を中心に広がる縄文時代晩期から近世にかけての大規模な複合遺跡である。今回の調査区は久宝寺緑地の中央西側に位置する(図46)。周辺での調査例から水田域、生活域として利用していたことが想定されていた。

調査の経緯

雨水排水管布設工事は次年度以降にも継続して実施されることから、今回の調査区をA区と呼称し、調査を実施した。調査区の延長は約90mで、工事によって破壊される深度は北端で3.2m(T.P.+3.5m)、南端で3.6m(T.P.+2.9m)であり、調査は工事の都合上、次年度にまたぐため、今年度の調査はT.P.+5.2mまでとし、下層の調査は次年度に継続して実施することになっている。

調査の概要

第1層は旧耕作土、第2層は近世、第3～4層は近世～中世の遺構面、第5層は奈良時代の遺構面である。第5層以下の遺構面は次年度に継続して実施することになっている。第2～4層上面では畦畔、小溝を検出している。第5層上面では奈良時代の井戸、土坑4基、小溝7条を検出している(図47)。井戸24は径1.4m、深さ約1mをはかり、埋土中から須恵器甕、土師器片が出土し、井戸底に曲物を

据えていた(図48)。土坑は4基検出し、土坑56からは8世紀の土師器皿が出土した。

まとめ

今回の調査で奈良時代の生活面が北側にさらに東に広がることが明らかとなった。なお、下層の調査成果は、次年度の年報に掲載する予定である。



図47 第5層上面全景(南から)

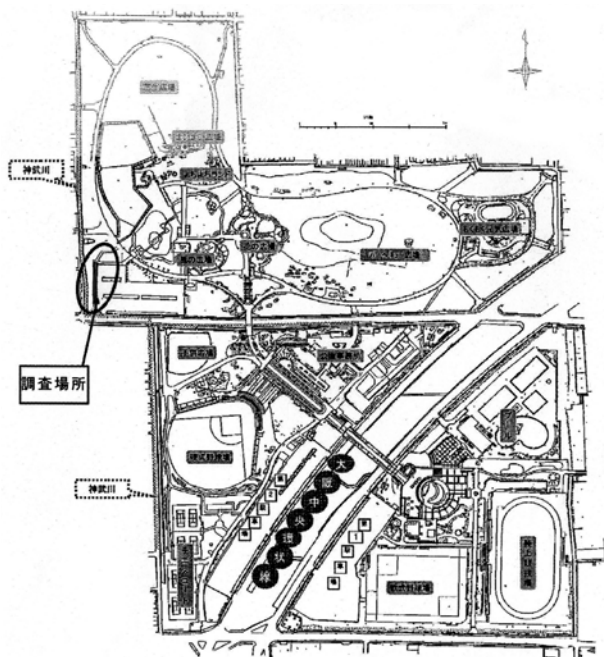


図46 久宝寺遺跡調査区位置図

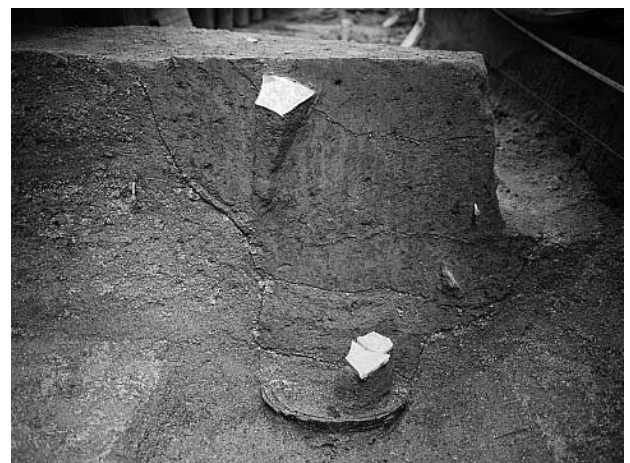


図48 井戸24検出状況(南から)

はやし 林遺跡 (11055)・こう 国府遺跡 (11056)

- (1) 藤井寺市沢田3・4丁目、藤井寺市国府1丁目
- (2) 主要地方道堺大和高田線・一般国道旧170号交通安全事業
- (3) 小林義孝

調査の経過

藤井寺市に所在する国府遺跡、林遺跡、土師の里遺跡が接する土師の里交差点一帯の歩道設置工事とともなって調査を実施した。

調査の成果

国府遺跡は、一般国道旧170号の土師の里交差点から北へ、道路の東側の歩道予定地（全長約100m）の確認調査を実施した。当該地に4ヵ所の確認トレンチを設置し、約1mの深さまで掘削した。いずれの地点においても盛土が検出されたのみである。歩道設置工事によって地下遺構に影響が及ぶ範囲は盛土内に収まった。

林遺跡においては、主要地方道堺大和高田線の両側に調査区を設定した。南側の長さ約30m確認トレンチは、近鉄南大阪線に近接する地点である。深さ約1mまで掘削したが、すべて盛土の中に収まった。

北側トレンチは、長さ約50mを測るが、5分割して調査を実施した。しかし調査区の南側半分はガ

ス管など地下埋設物の設置によってすでに遺構面は失われていた。調査区の中中部では、平成18年度に実施した調査区（18-2区）で検出された「埴輪を敷いた埋葬施設」の掘方の一部と須恵器小片を検出した。さらにその西部では、地山上に厚さ5cm前後の褐色土が堆積しており、ここからは円筒埴輪片がまとまって出土している。埴輪は無黒斑のものである。

当該地の東側には高塚古墳がかつて所在しており、その墳丘に登るように主要地方道堺大和高田線も土師の里交差点に向かってレベルを上げていく。今回の調査区の東端部あたりが高塚山古墳の墳丘の裾部あたりにあたっており、周溝の確認を目指したが、後世の攪乱によって果たすことができなかった。

まとめ

今回の調査は、歩道設置工事に伴うもので、通行する車両に配慮しながら、小面積ずつを調査するという悪い条件のもとに実施した。一部で古墳時代の遺構や遺物を検出することができた。



図49 調査区位置図



図51 林遺跡の調査区状況



図50 土師ノ里交差点全景

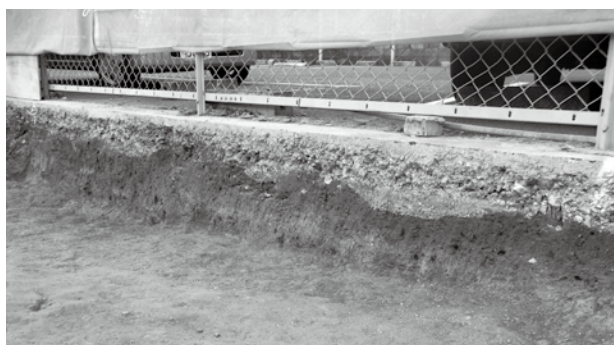


図52 林遺跡調査区断面

なりあい
成合遺跡（11057）

- (1) 高槻市成合地内
- (2) 近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（高槻～箕面間）
- (3) 岡本敏行・(公財)大阪府文化財センター

はじめに

今回の調査は近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（高槻～箕面間）に伴う試掘調査である。成合遺跡については、(公財)大阪府文化財センターが発掘調査を実施しているところであるが、工事対象地が成合遺跡の北側隣接地も含まれることから遺跡の広がり予測されたため、事前に試掘調査を実施した。

調査地は、東檜尾川左岸に位置し、成合遺跡に伸びる小谷の開口部にあたる。調査区は、上下二段の耕作地に6-1、6-2の2ヶ所のトレンチを設定した(図55)。

調査成果

成合遺跡は、檜尾川上流の東側に広がる丘陵上に位置する遺跡で、以前より弥生時代の高地性集落として知られていたが、今回大阪府文化財センターが発掘調査を実施するまで、その実態は明らかでなかった。周辺には低地の大集落である安満遺跡や銅鐸が出土した天神山遺跡、高地性集落で大規模な環濠を巡らした古曽部・芝谷遺跡、「青龍三年」銘鏡が出土した安満宮山古墳等が存在する。

調査の結果、6-1トレンチにおいて古代から中世の遺物包含層を検出し、同トレンチ周辺に遺跡が拡がること確認された。また、6-2トレンチは谷筋に位置することから丘陵から流出した人頭大の礫が堆積し、しかも湧水が著しく、遺構・遺物は検出されなかった。



図53 成合遺跡の位置

まとめ

上記のように6-1トレンチで遺物包含層が確認されたことから、遺跡が拡がることは確実である。この結果を受けて高槻市教育委員会と協議を行った結果、周辺地形等を踏まえて図55で示した範囲を成合遺跡として拡大し、あわせて遺跡の時期についてもこれまでの弥生時代に加えて古代から中世の時期を含めて周知するに至った。



図54 6-1トレンチ土層断面

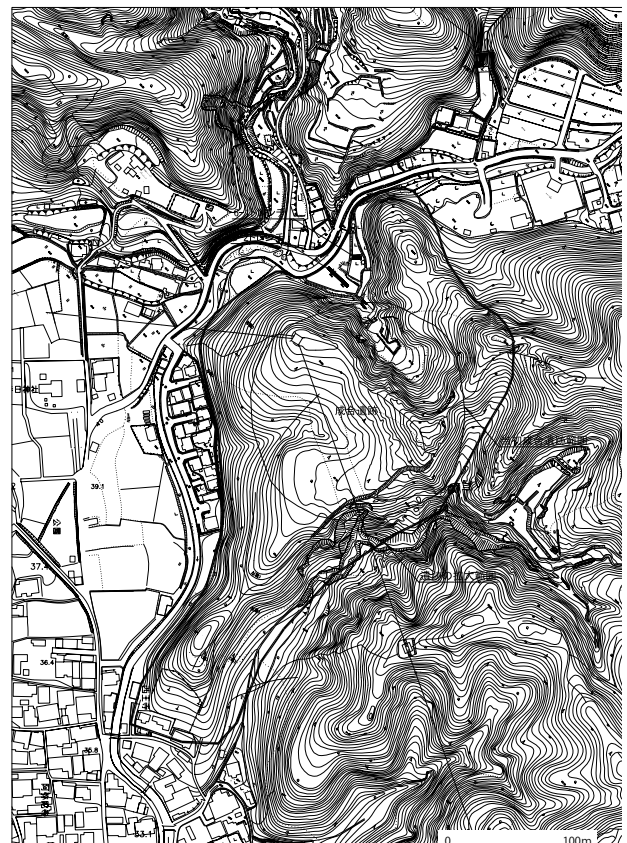


図55 試掘トレンチ位置及び成合遺跡拡大範囲

あ い じ ょ う あ と
安威城跡 (11067)

- (1) 茨木市安威2丁目
- (2) 主要地方道茨木亀岡線道路改良工事
- (3) 横田 明

はじめに

北摂丘陵に発し、茨木市域を南流する安威川。その右岸丘陵上に安威氏の居城とされる中世城郭、安威城跡がある。

主要地方道茨木亀岡線は城郭の東裾に広がる段丘を安威川と並走する道路である。平成9年度以来、その拡幅事業に伴って発掘調査を実施し、弥生時代から中世にいたる遺構、遺物を検出している。平成23年度の調査は約90㎡を対象に行った。

調査成果

各時代の遺構、遺物を検出したが、主要なものに古墳時代後期の焼土坑と古墳時代後期の竈を持つ方形竪穴住居がある。

焼土坑は大略1.9m×1.7mの不整形形で、炭や焼土塊を多く含み、被熱で赤化した部分もあるため屋外炉の可能性がある。古墳時代後期の土器を含んでいる。竪穴住居は調査区の隅で検出したため全容は明らかにし得ないが、竈の位置からすると一辺約2.5mを推定できる。竈の横で出土した一群の土器から、古墳時代後期の住居と判断できる。

まとめ

道路拡幅に伴う調査は延長は長いものの、幅が狭

い調査区となるため遺跡の全容を把握するのは難しい。古墳時代の集落についても未だ不明な部分が多い。ただ、調査地は安威城跡に隣接するものの、調査成果は同じ段丘上の南に近接する安威遺跡の内容に近い。安威城跡、安威遺跡との関わりを念頭に調査を進めていきたい。

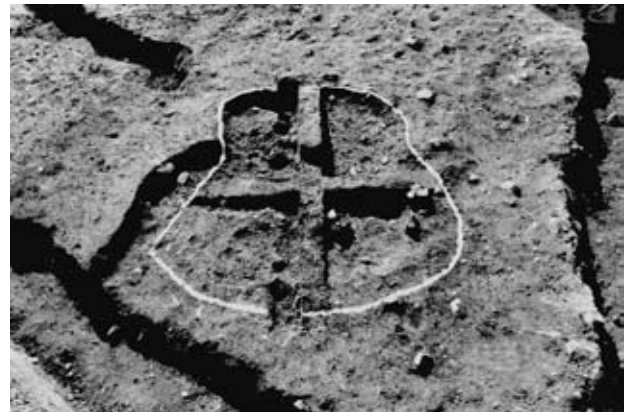


図57 古墳時代後期の焼土坑



図58 古墳時代後期の竪穴住居



図59 竪穴住居内の竈

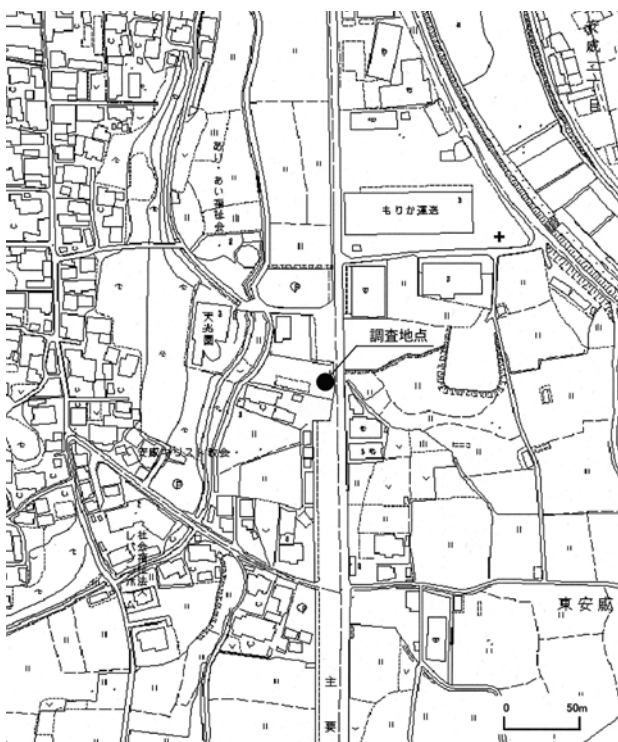


図56 安威城跡調査地点

そうぜんじ
崇禪寺遺跡（11071）

- (1) 大阪市西淀川区東中島6丁目
- (2) 府営住宅活用事業
- (3) 阪田育功

はじめに

本調査は、大阪府建築部住宅経営室経営指導課が実施した府営住宅用地内の埋設物（瓦礫）撤去工事に伴う立会い調査である。掘削工事は約170㎡の用地内を、遺物包含層の上面（現地表下約0.5m）までを全面的に掘削、瓦礫の廃棄坑内だけは深さ約1mまで掘削して瓦礫を撤去した。その際に攪乱や盛土内に含まれる遺物を採集した。

調査成果

調査位置 調査位置は崇禪寺遺跡範囲の東端にあたる。調査地のすぐ西ではかつて下水道工事の際に竪穴式住居の断面が確認されている。

層序 表土下0.5mから厚さ0.5mに及ぶ遺物包含層が堆積していた。この層は水成堆積の粗砂・細砂を基盤層としたやや粘質の灰褐色の土層である。遺物包含層より上層は現代の耕作土及び盛土であるが、この中にも古墳時代初頭以後の遺物が含まれていた。また、瓦礫の廃棄坑内に落ち込んだ土層からも多くの遺物を採集した。

出土遺物 平安時代黒色土器（内黒）碗・罌釜、鎌倉時代瓦器碗破片が少量、古墳時代須恵器破片2点以外すべて、庄内式・布留式初頭の土器である。器種は精製器種（小型丸底壺・二重口縁鉢・小型壺・台付鉢・器台）、甕（V様式系・庄内式・布留式）、大型壺等が出土している。図化した遺物はすべて調査区南端の攪乱坑際の土坑とこれに接する攪乱内への落ち込み土からまとまって出土したものである。

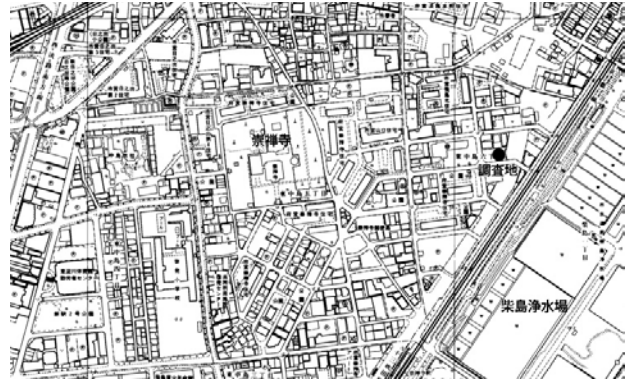


図60 崇禪寺遺跡調査位置図

小型精製土器は壺1・小型丸底壺7・壺9・10がある。鉢8は胎土に砂粒を多く含む。台付鉢6の脚部外面及び体部内面には赤色顔料が残存。台付碗5は脚部に4か所の円形透孔。9は精製の小型壺口縁部と思われる。外面には小さい段があり横方向に細かいヘラ磨き、内面にも斜めヘラ磨きを施す。10は小型精製壺、内外面を丁寧にナデ、外面には細かい斜めハケが残る。甕は庄内型14のほか布留型祖形12・13がある。古墳時代初頭の遺物群である。

まとめ

調査区は崇禪寺遺跡として周知された遺跡範囲の東端にあたる。瓦礫撤去工事に伴う立会い調査ではあったが、良好な遺物包含層が厚さ0.5mにわたって堆積していたことが確認された。調査区南東部での土器の出土状況は土坑状の遺構と思われるものであり、遺跡は更に東に広がるものと推定される。

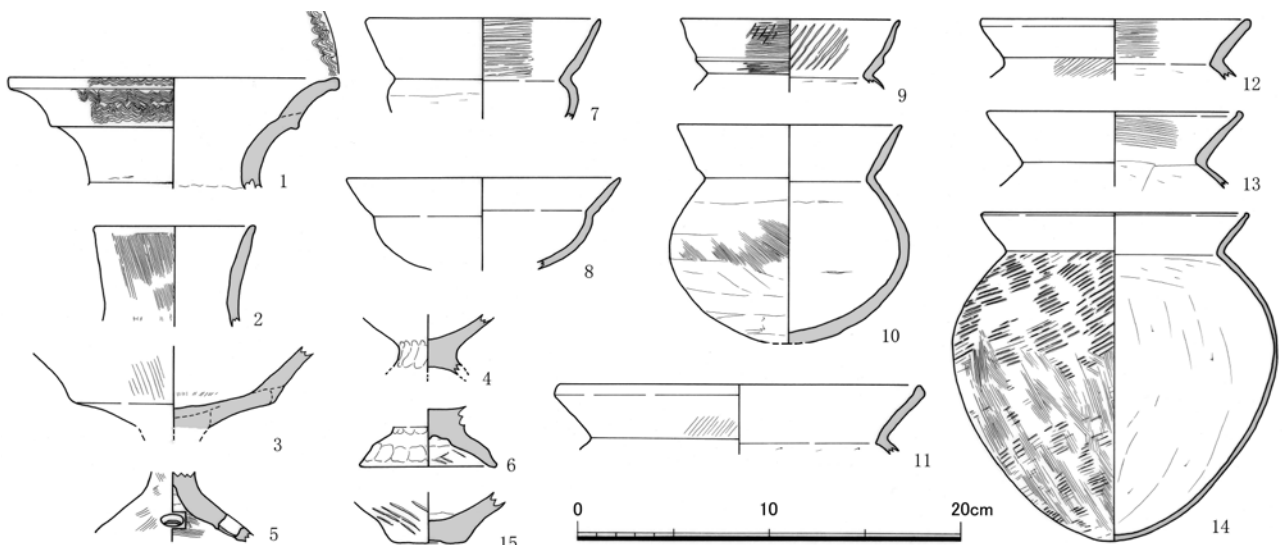


図61 崇禪寺遺跡出土遺物

せんだいじにし せんだいじみなみ ひなと
 千提寺西遺跡・千提寺南遺跡・日奈戸遺跡（11076）

- (1) 茨木市千提寺地内
- (2) 近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（高槻～箕面間）
- (3) 岡本敏行・（公財）大阪府文化財センター

はじめに

千提寺西遺跡・千提寺南遺跡・日奈戸遺跡は、今回新たに発見された遺跡である。発見の契機は、近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（高槻～箕面間）に伴う事前の試掘調査によるもので、今回の調査がこれにあたる。

調査は、工事対象地内を37か所に分割してトレンチを設定し、土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しながら機械と人力を用いて掘り下げた。

調査成果

茨木市千提寺地区は佐保川と大岩川に挟まれた山あいの集落である。戦国時代のキリシタン大名として著名な高山右近の領地であったことから大正時代に隠れキリシタンの里として知られるようになり、キリシタン関連資料が今なお遺存している地域である。また、調査対象地の西側には茨木と亀岡を結ぶ清阪街道が通るといふ古くからの交通の要所であり、東側には弥生時代の石器が出土したとされる泉原遺跡等が存在する。

調査対象地は東西750m、南北600mの広範囲に及び、主に谷地に形成された棚田の水田面と丘陵部の尾根上の平坦面にトレンチを設定した。その結

果、対象地の北東側の谷水田面に設定した調査区8区南半部・10区・12～15区で中世を中心とした遺構および遺物包含層を検出した。また、北側丘陵頂部に設定した17～20区については、中世～近世にかけての墓を検出し（主に17・18区は中世の墓、19・20区は近世の墓）、「墓の丸」の旧地名（17・18区の位置する丘陵）や地元の墓地伝承、さらには周辺部に石仏が点在（図66）することなどから、



図63 千提寺西遺跡の墓域のある丘陵（北東から）



図64 18区検出墓群（北東から）



図65 19区検出墓群（東から）



図62 調査地位置図



図 66 千提寺西遺跡周辺発見の石仏

当該地の丘陵全域が中世～近世の墓域であった可能性が考えられる。

南側の水田部に設定した 51～53 区・55 区・30 区の一部と 27 区・28 区・29 区の一部・35 区では、中世を中心に縄文時代・古墳時代を含んだ遺構および遺物包含層を検出し、当該地を含めた周辺部に遺跡が存在することが確認された。西側の 36・37 区は西から東方向に降る棚田に設定したトレンチで、堆積状況も明らかに谷堆積を示し、顕著な遺構は検出されなかったが、縄文～中世の遺物を含む比較的良好な遺物包含層を確認した。

まとめ

当該地については、上記のように遺構や遺物包含層が発見された地域が広範に見られたことから、遺跡の存在は明らかである。この結果を受けて茨木市



図 67 千提寺南遺跡周辺（西から）



図 68 日奈戸遺跡周辺（北東から）

教育委員会と協議を行った結果、北側に千提寺西遺跡、南側に千提寺南遺跡、西側に日奈戸遺跡の 3 遺跡を新たに周知するに至った（図 69）。



図 69 トレンチの位置及び遺跡の範囲

旧鶴橋警察署跡 (11077)

- (1) 大阪市生野区鶴橋2丁目
- (2) 文化財調査
- (3) 辻本 武

調査に至る経過

本府文化財愛護推進委員の足代健二郎氏より、大阪市生野区鶴橋2丁目所在の旧鶴橋警察署跡地に煉瓦塀が残存し、その中に刻印煉瓦があるので調査してほしいとの依頼があった。文化財保護課はこれに基づき、2012年3月13日に足代氏等の立会いの下、現地調査を実施し、資料収集を行なった。

煉瓦塀

旧鶴橋警察署跡の敷地南・西側に33段分の煉瓦塀、南東部分では18段分の煉瓦塀が残存する。煉瓦塀は基礎となる根積み煉瓦の上に、煉瓦を縦方向と横方向に互い違いに積み上げており、塀の高さは南・西側では約2.5m(煉瓦33段分)、南東部分では約1.3m(煉瓦18段分)で、幅はどちらも約23cm(煉瓦一枚分)を測る。塀の外側は段毎に煉

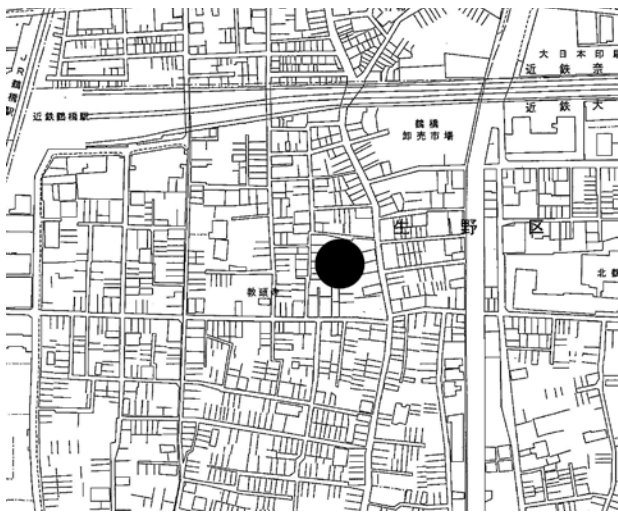


図70 旧鶴橋警察署跡位置図

瓦の長手と小口が順番に入れ替わるイギリス積みの様相を呈する。そして煉瓦塀の内外面には塗布されたモルタルの痕跡を有する。外面上半部の15段分はモルタルが最近剥がれたようで、煉瓦面が比較的きれいに現われているのに比し、下半部の18段分はその表面にモルタルの痕跡や長年の風化の跡を残す。

煉瓦の大きさは、下半部が残る南東部では概ね22.5×10.0×5.6cmの大きさであるのに比し、南と西側では概ね23.0×11.0×6.0cmとやや大振りのものである。そして南東部の煉瓦と南・西側の煉瓦とでは、捺されている刻印に違いがある。また南・西側の煉瓦塀は上半部と下半部とで違う可能性があるが、これについては確かめることはできなかった。

以上により煉瓦塀を築造は少なくとも二段階の工程を経ており、それぞれ違う煉瓦を使用していたことが判明した。刻印の違いは煉瓦製造会社の違いと考えられるので、煉瓦は二回あるいはそれ以上に分けて購入され、それぞれ別の会社の煉瓦が搬入されたと推測される。

煉瓦の刻印

「棒と丸(| ○)」: 南・西側の煉瓦塀の上半部にあったと推定される煉瓦の一部が敷地内に散乱していた。煉瓦の色彩はやや黄色みを帯びた明褐色が多く、窯の焼成温度が低かったものと思われる。そしてこれらの煉瓦には「棒と丸(| ○)」の刻印が平の両面に捺されていた。

採集した煉瓦は22.7×11.0×5.8cmの大きさで、刻印は「○」が径1.5cm、そこから0.3cm離れた位



図71 煉瓦塀の状況(南東から)



図72 煉瓦塀の状況(北東から)

置にある「|」が長さ1.8cmを測る。この刻印の類例は、大阪府泉南郡岬町の旧家に使われていた煉瓦の報告（『泉南市埋蔵文化財センター年報 平成22年度』所収）のなかにある。

「六稜星と|」（1）：敷地を取り囲む煉瓦塀のうち南東部分は、下半部の煉瓦の平の面が露出しており、刻印を多く観察することができた。その刻印はすべて六稜星と「|」を組み合わせたものである。採集した煉瓦は21.9×10.2×5.6cmの大きさである。そして「六稜星と|」刻印は平の両面に施されており、両面の拓本を採って比較したところ、全くの同一であることが判明した。六稜星の大きさは稜端で測ると2.5cm、そこから2.5cm離れた位置にある「|」は長さ3.4cm、幅0.4cmを測る。

「六稜星と|」（2）：敷地の北側の煉瓦塀はすでに取り壊されており、その周辺で上述（1）の刻印とは違う様相を示す「六稜星と|」の刻印煉瓦を採集した。本来は北側の煉瓦塀を構成していたものと思われる。

煉瓦は22.7×10.7×6.0cmを測り、上述の（1）刻印煉瓦より大振りである。刻印は両面にあると思われるが、片面がモルタルに覆われて確認できない。六稜星の大きさは稜端で測ると2.5cm、そこから3.6cm離れた位置にある「|」は長さ3.6cm、幅0.25cmを測る。

以上の「六稜星と|」刻印（1）と（2）は、六稜星そのものは全く同一であるが、「|」の大きさおよび位置関係が違っていることに注目される。

吹田操車場遺跡の煉瓦刻印との比較

六稜星の刻印煉瓦は、大阪ではこれまで大阪市立工芸高校などで幾つか発見されている。しかし「|」と一組になる「六稜星と|」刻印煉瓦はこれまであまり報告されておらず、近在では吹田操車場遺跡からの出土例があるのみであった。そこで（1）（2）と吹田操車場遺跡事例の三点の刻印拓本資料を作成

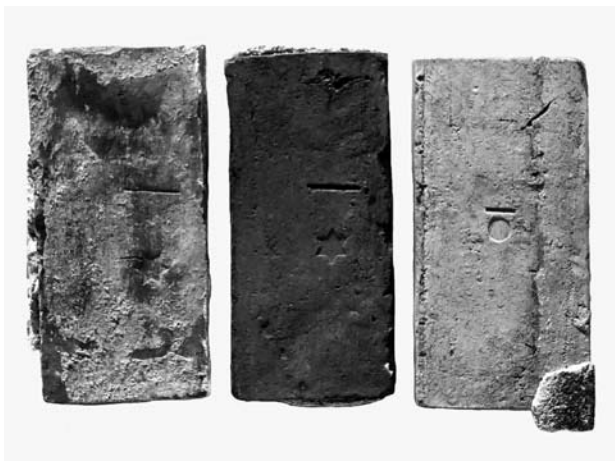


図73 採集した刻印煉瓦

し、比較してみた。その結果、六稜星は三点とも同一であるが、「|」については大きさや位置関係に微妙に違いがあり、従って一組の「六稜星と|」刻印で見ると同一のものはないことが判明した。

六稜星は煉瓦製造会社を示すものなので、この三点は同一製造元で生産されたことは確実に、「|」の大きさと位置関係の違いは出荷時期あるいは製造ラインか仕様の違いを表すものと思われる。

六稜星の煉瓦の製造元については今のところ確然としないが、大阪市西成区に所在した津守煉瓦製造所の可能性が高い。

（旧鶴橋警察署庁舎の略史）

大正2年（1913）12月

平野郷警察署鶴橋分署（当時は東成郡鶴橋町大字木野。現在の生野区鶴橋二丁目）の庁舎竣工。

大正3年（1914）3月

「鶴橋警察署」となる。

昭和9年（1934）9月

旧府立農学校跡地（当時は東成区勝山通。現在の生野区勝山北三丁目）に新庁舎を建設、移転。これが昭和18年（1943）に「生野警察署」となり現在に至る。

昭和10年（1935）

旧鶴橋警察署庁舎と跡地が盲人団体に払い下げられる。

昭和13年（1936）

旧鶴橋警察署庁舎建物が改築されて盲人福祉施設「青十字会館」となる。

昭和34年（1959）頃

民間アパート「新共栄荘」となる。地元の在日韓国・朝鮮人の間では「キョンチャル（警察のハングル読み）アパート」と俗称される。

平成23年（2011）6月

「新共栄荘」建物が解体撤去される。

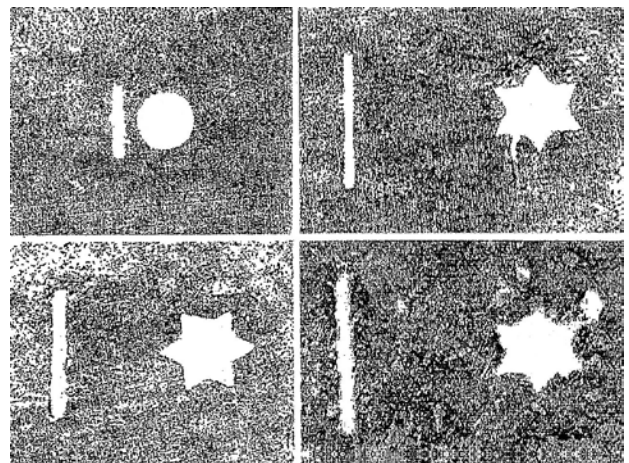


図74 煉瓦刻印拓本

大園遺跡出土埴輪の概要

1. はじめに

大園遺跡は、高石市、和泉市、泉大津市にまたがる遺跡でその範囲は南北 1.1km、東西 1.5km におよぶ。大阪府教育委員会では、第二阪和国道および府道松原・泉大津線の設置に先立ち昭和 49 年度から 56 年度にかけて合計約 6 万㎡を調査した（注1）。

調査によって、膨大な量の遺構および遺物が検出されており、古墳時代から歴史時代にかけての集落展開がその立地する微地形との関わりとともに明らかにされた点は画期的であった（広瀬 1982 など）。その成果は和泉地域の歴史にとどまらず全国へも大きな影響を与えたといつてよいだろう（広瀬 1990 など）。

しかしながら当時の調査および整理事業は、期間および予算の面で非常に厳しい状況にあり、その成果は概要報告という形をとって一部が公表されている。ここでは、過去に概略が示された古墳時代前期末～中期初頭に属する埴輪について、その内容を改めて紹介することで調査後 30 年以上が過ぎた大園遺跡再評価の端緒としたい（注2）。

2. 調査の概要と過去の報告

調査の概要 本資料は、大園遺跡昭和 50 年度調査にかかるものである。この調査は高石市綾園を中心に道路幅員である 50 m 幅により約 13000㎡を対象として実施された（府教委 1976）。調査成果として 5 世紀後半代の居住域が検出されており、溝による長方形の区画内に大型掘立柱建物を含む多数の建物が配置された様子から、首長層の居住空間とも評価されている（広瀬前掲）。

出土状況 調査区遺構面の地勢は、東の低位段丘面から西の海側の後背低地へとなだらかに下り、古墳時代包含層と認識された黒褐色土層から埴輪が出土した。埴輪は、調査区のほぼ全域にわたって散発に出土したが、建物群の西方で特に集中する部分が 4 か所あったとされる。概要報告の記述を以下に引用しておこう。

この埴輪群は一例を除く他は全て微高地斜面ないしその下方にかけて存在し、北から南へ向かってゆるやかに傾斜した状態で埴輪片が密集するものである。各群の大きさ、密集の程度は若干異なるが、大体のところ 3 m 四方に広がり、最も広い例で 6～7 m× 3～4 m の範囲を示す。出土した埴輪はほとんど整理がすんでい



図 75 大園遺跡位置図

ないが、現場での観察では円筒を主体としてこれにひれ付円筒、キヌガサ、家等の形象埴輪が加わるといふ構成をとる。また円筒埴輪についてみると群間、群内いずれの場合も目立った型式差はなく、現時点ではごく短時間に各群が次々と、或いは同時に形成されたという以上の知見を提供することはできない。なお、これらの埴輪群の一つからは鉄器断片の出土をみている（概要・Ⅲ、pp.8～10）。

図版に示された埴輪出土状況をみても、大量の破片が折り重なるように検出されたことが理解できる。また出土遺物の記述から 5 世紀代の遺構埋土からもある程度の埴輪が出土したことが明らかであり、これらの一部が前期末～中期初頭にさかのぼる可能性も考えておくべきだろう。

概要報告時の認識 さらに報告のまとめの中で埴輪について、その出土量、器種構成などを交えながら、以下の通り 1976 年時点での認識が示されている。

出土した遺物の中で、集落遺跡においては特殊な部類に属する大量の埴輪をどう認識するかという問題がある。一つには、石製模造品の出土していることとあいまって消滅した古墳が近在していたのではないかと考えてみたが、埴輪の年代が 4 世紀末ないし 5 世紀初頭のものば

かりであるのに対し、石製模造品は5世紀中頃以降のものであるということにより、この論は成立しなかった。埴輪の大半は第Ⅲ地区に偏在していたが、少量は各種遺構内あるいは包含層からも出土している。また種類は、円筒だけでなく、家、蓋、船、盾等各種に及んでいる。残存状況も比較的良好で家形埴輪は屋根部がほぼ2個体完存していたし、蓋形埴輪の十字形立ち飾り部がほぼ1個体復元している。こうした事実は、遺物収納箱約100杯出土しているという事実とともに、単に包含層から埴輪片が出土したと見て看過しうるものではない。土錘の出土とともに海との関係を考えることや、生産に関する遺構の存在を予測しうることも可能(原文ママ)である。教示願いたい。(概要・Ⅲ、p.40)

資料の再検討 大阪府教育委員会は、上記の報告にかかる埴輪を収納したコンテナ約100箱を所蔵している。昨年度より本府委員会内外の有志により^(注3)、これらの内容を確かめるとともに埴輪以外の遺物とともに収蔵されている破片についても実見を行い、本資料の特徴を示すうえで必要と思われる個体を選別した。以下では、以上の作業の結果として明らかとなった資料の概要を紹介しておきたい。

3. 資料の概要

今回の再検討によって選別した資料は、大別して円筒埴輪・形象埴輪・土製品の3種類からなる。いずれも細片化しており、接合を試みても完形に至るものはなく、大半の個体の残存率は約4分の1にもみたくないといつてよい。

(1) 円筒埴輪

円筒埴輪には、普通円筒埴輪および朝顔形円筒埴輪がある。他に概要報告で鱗付円筒埴輪とされたものがあるがこれについては、後述する理由により、円筒埴輪には含めないものとする。

普通円筒埴輪 完形に復元できたものはないが、少なくとも3条突帯4段以上の構成をとるものである(1~3)。破片資料ばかりであるが、楕円形を呈する個体は含まれない。

口縁部は、外方へ強く外反させ端部に面をもつものが主体である。突帯は、高く突出するものが多く、一部の資料には、凹線による突帯設定技法の痕跡が認められる。透かし孔は、段間に2個、基本的には相対する位置に穿たれるものと思われ、形状には円形、逆三角形が確認できる。

残存する部位により、各部の法量を測定すると、器高33cm以上、底径30cm、底部高15~20cm、

口縁部高6.5~9.5cm 突帯間隔14.5~15.5cmを測る。器面調整としては、ナデ、タテハケメ、ナナメハケメ、ヨコハケメなどがあり、いわゆるB種ヨコハケメは認められない。ハケメの密度は、1cmあたり9~13本と細かいものから5~8本と粗いものまでさまざまである。また逆三角形に縦線を加えたヘウ記号を口縁部に施した個体などが6点確認できる。

胎土には、肉眼観察により0.5cmほどの石英・長石、チャートなどが含まれていることが確認できる。焼成は、いずれも土師質の仕上がりで黒斑を有する。色調は、灰色がかかった黄褐色を呈するものが多く、わずかに橙色のものが含まれる。

朝顔形円筒埴輪 悉皆的な接合を試みていないため、朝顔形円筒埴輪と認識できたものの大半が頸部から口縁部片である(4・5・6)。直立した頸部から一次口縁部が水平にのび、二次口縁部がさらに展開するものと、頸部および一次口縁部が一連となり、突帯によって区画されるものがある。頸部径17~21cm程度を測る。

(2) 形象埴輪

形象埴輪には、蓋形、盾形、甲冑形、船形、家形、衝立形と不明形象埴輪としたものがある。

蓋形埴輪 選別した破片から知られる最少個体数は7点である。笠部の表現は、立体的で板状表現が上下二列に重ねられるものと一列のみ巡らされるものがある(8・9)。肋木を表した破片が認められない。立ち飾りは線刻によって飾られている(7)。

盾形埴輪 選別した破片から知られる最少個体数は1点である(10・11)。同時期の類例からすれば、おそらく円筒埴輪の側面を利用して盾面を作ったものと思われるが、残存するのは盾面左右の側片のみである。いわゆる忍ヶ丘系文様が施されている。

甲冑形埴輪 甲冑と思われるものとして2個体を選別した。そのほとんどは、鋸歯文の帯が横方向に展開する草摺である(12)。他に綾杉文様が施された鋳かと思われる個体も存在する(13・14)。短甲と明言できる破片は認められないが、草摺の上端部が存在することから、両者は別作りの構造であったと思われる。

船形埴輪 選別した破片には、1個体の船形埴輪が含まれている。2本の小円筒が船底に取り付き、削り抜き式の船体部を支えるもので、上部に舷側板を備える(16・17)。小片であるが、舷側板上面にはピボットらしき表現も認められる。船首および隔壁にあたる破片は存在しない。

家形埴輪 家形埴輪の屋根部材として大小2点が認められるほか、それらと異なった表現の屋根材お

よび壁材と思われる破片も複数点が存在する(15)。屋根型式としては、大型のものが切り妻式、小型のものが入母屋式である。

衝立形埴輪 さしば形埴輪ともよばれるもので、選別した破片から知られる最少個体数は12点である(19～23)。細片が多いため、全形をうかがい知ることは難しいが、複数の破片の接合関係から復元される本来の構造は次のようなものである。

本遺跡出土の衝立形埴輪は、円筒部と衝立部からなり、両者は一体で成形される。円筒部は、通常の普通円筒埴輪に左右一対の鱗を付したもので、最少個体数から考えると過去の報告において鱗付円筒埴輪とみなされたものは、いずれもこれらの円筒部であった可能性が高い(21)。円筒部の口縁部にあたる部位は、通有の普通円筒埴輪とは異なり、内上方に向かって屈曲し、ドーム状を呈する。その頂部は閉塞されず、円形に開いた状態であり、この部分だけを見れば、いわゆる丹後型円筒埴輪に酷似する。

衝立部は、このドーム状の部位の上に作りつけられ、左右にのびた両端は円筒部の鱗につながっている(19・20)。衝立部は、厚さ1.5cm前後の粘土板によって成形され、その外形は上辺中位の削り方を挟んで左右対称となる。削り方から出発した輪郭は、緩やかに外反しながら次第にその屈曲を強め、円筒部鱗に至る(22・23)。上辺・側辺には鋭角に突出した左右一対の鱗をもち、衝立部内部には横帯と鋸歯文からなる文様が施される。

図上の復元によれば、衝立部の法量は、高さ60cm、幅120cm程度となるものと思われる。

(3) 土製品

槽樋形土製品 大量の埴輪片の中に埴輪とは異なる土製品と思われる破片5点を認めた(24・25)。これらは1個体をなすものと思われ、外面にはあざやかな赤彩をとどめている。

中央に幅広の槽を作りつけた木樋を表したものと考えられ、樋の一方に衝立形埴輪の衝立部と酷似した粘土板の形象を槽樋と直交する方向に作り付けている。いずれも細片で欠損部位が多いが、遺存する破片から図上で復元すると槽樋部全長34.1cm以上、同幅10.4cm、衝立部幅22.5cm、木樋部を含めた全高8.7cmとなる。

土製棺 槽樋形土製品以外の土製品として、縦横に幅広の突帯を巡らす破片が複数点認められる(26・27)。いずれの埴輪とも異なる特徴をもち、むしろ奈良県や香川県の一部で類例の知られる土製棺に近いものと考えられる。断面が曲線を描くもの(26)と平板なもの(27)とがあり、それぞれ蓋と身に相当するものかと思われる。

4. まとめ

上記してきた概要によって、本資料が当該期の埴輪資料の中でもきわめて特異な内容を持つことが明らかであろう。

帰属時期については、円筒埴輪の特徴から、概要報告の記述の通り4世紀末から5世紀初頭と表現されてきたものにあたることがわかる。器財埴輪の諸特徴もこれを支持するものである。特筆すべきは、やはりその器種構成で、衝立形埴輪の最少個体数12点は、現在までの全国での出土総数に匹敵するものである。また、鱗付の円筒部との一体成型という構造はこれまで知られていない。さらにこれらに伴う槽樋形土製品は、類例の中でも時期的に最古級であるだけでなく、その大きさおよび衝立が取りつくという構造は他に類をみない。

当該期の埴輪は、新たに加わった器財埴輪を交え、古墳の儀礼および墳丘表飾において、それ以前にもまして重要な役割が与えられたものと思われるが、その詳細はいまだ明らかではない。本資料は、当該期の埴輪の具体的な姿を示す好例であるとともにこのような埴輪群が、なにゆえ同時期の古墳の存在が知られていない大園遺跡から出土したのかという問題をはらんでいる。ここでは、上述のとおり概要を示すことにとどめるが、地域の中での本埴輪群の位置づけといった課題を含め、さらなる資料検討の結果を別の機会において発表したい。(三好 玄)

(注1) 民間開発や団地建設などに先立って高石市教育委員会や大阪文化財センター、大園遺跡調査会によって実施された発掘調査面積を加えれば、その合計は10万㎡をこえる。

(注2) 本資料については、和泉市いずみの国歴史館の展示において、その一部が取りあげられたことがある(和泉市2008)。

(注3) 三好玄、三木弘、三宅正浩、関真一、東影悠、金澤雄太、笹栗拓、前田俊雄、森暢朗、角南辰馬、大向智子、原田昌浩、山中良平、山本亮、山田暁、橘泉、和田一之輔

参考文献

- ・和泉市教育委員会2008『和泉黄金塚古墳の時代』和泉市いずみの国歴史館平成20年度特別展図録
- ・大阪府教育委員会1976『大園遺跡発掘調査概要・Ⅲ』
- ・広瀬和雄1982「付章3 大園遺跡における集落の展開」『大園遺跡発掘調査概要・Ⅶ』大阪府教育委員会
- ・広瀬和雄1990「2 西日本の集落」『古墳時代の研究第2巻集落と豪族居館』雄山閣

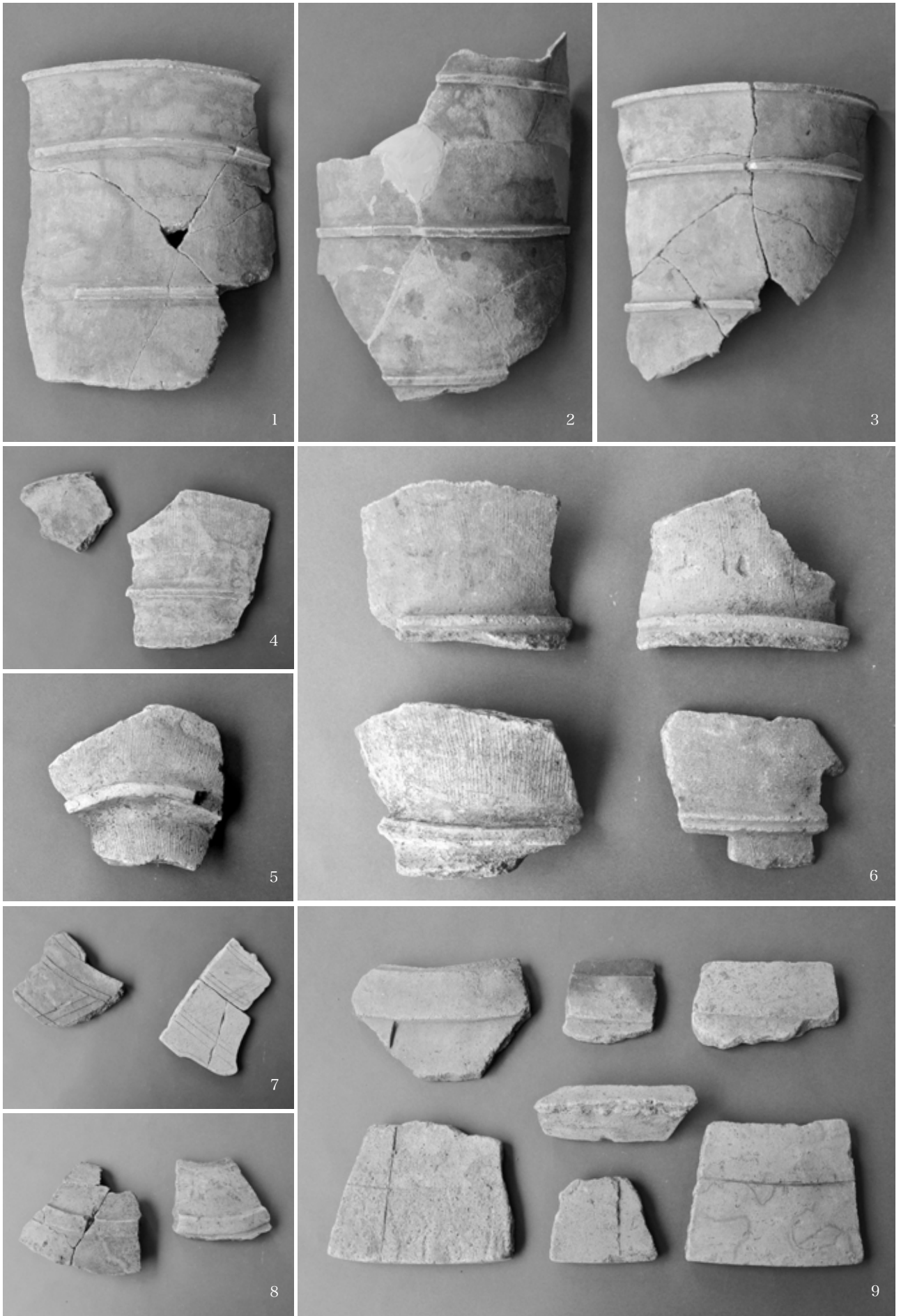


图 76 大園遺跡出土埴輪 1 (1 ~ 3. 円筒埴輪 4 ~ 6. 朝顔形埴輪 7 ~ 9. 蓋形埴輪)

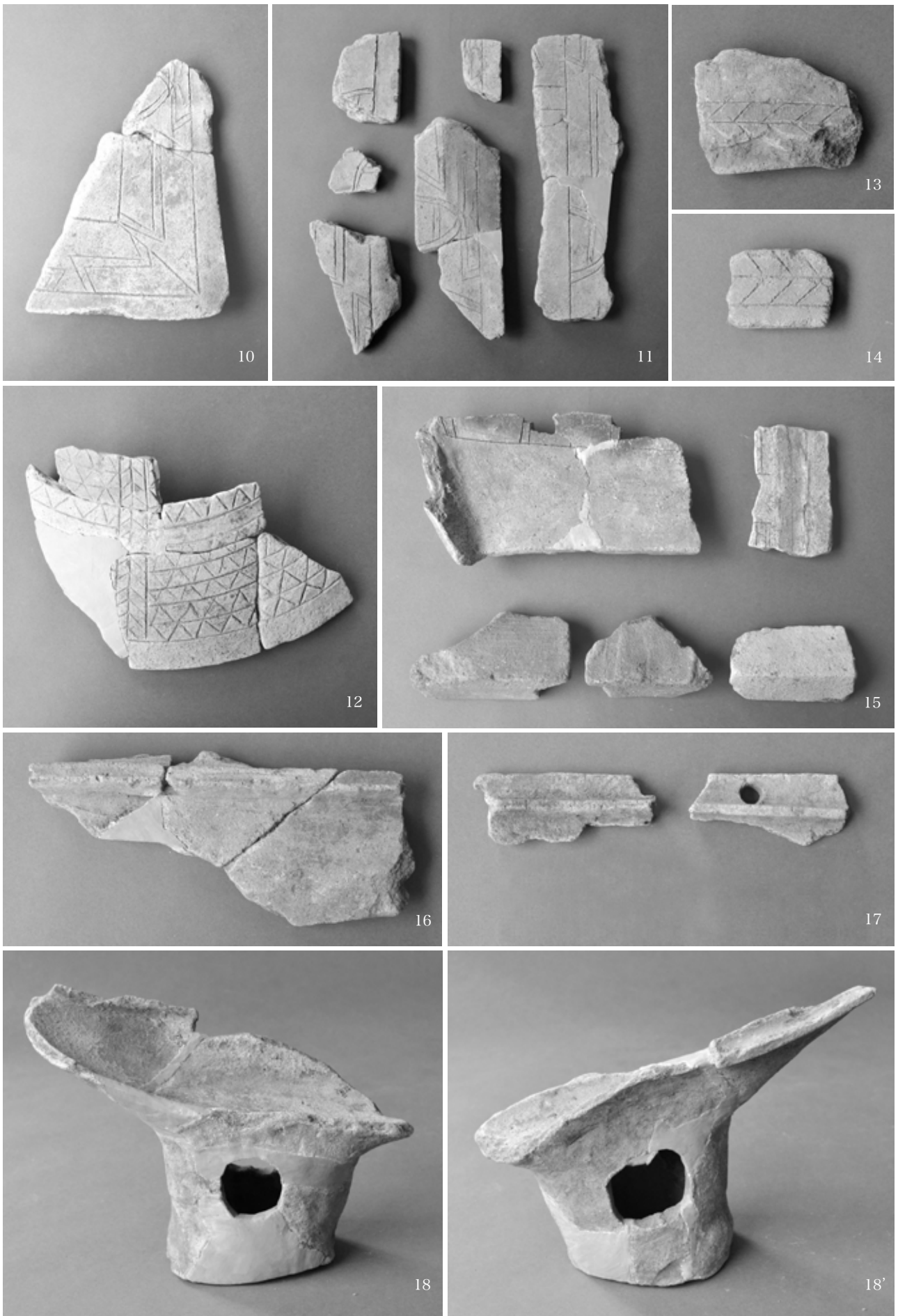


图 77 大園遺跡出土埴輪 2 (10·11. 盾形埴輪 12~14. 甲冑形埴輪 15. 家形埴輪 16~18. 船形埴輪)

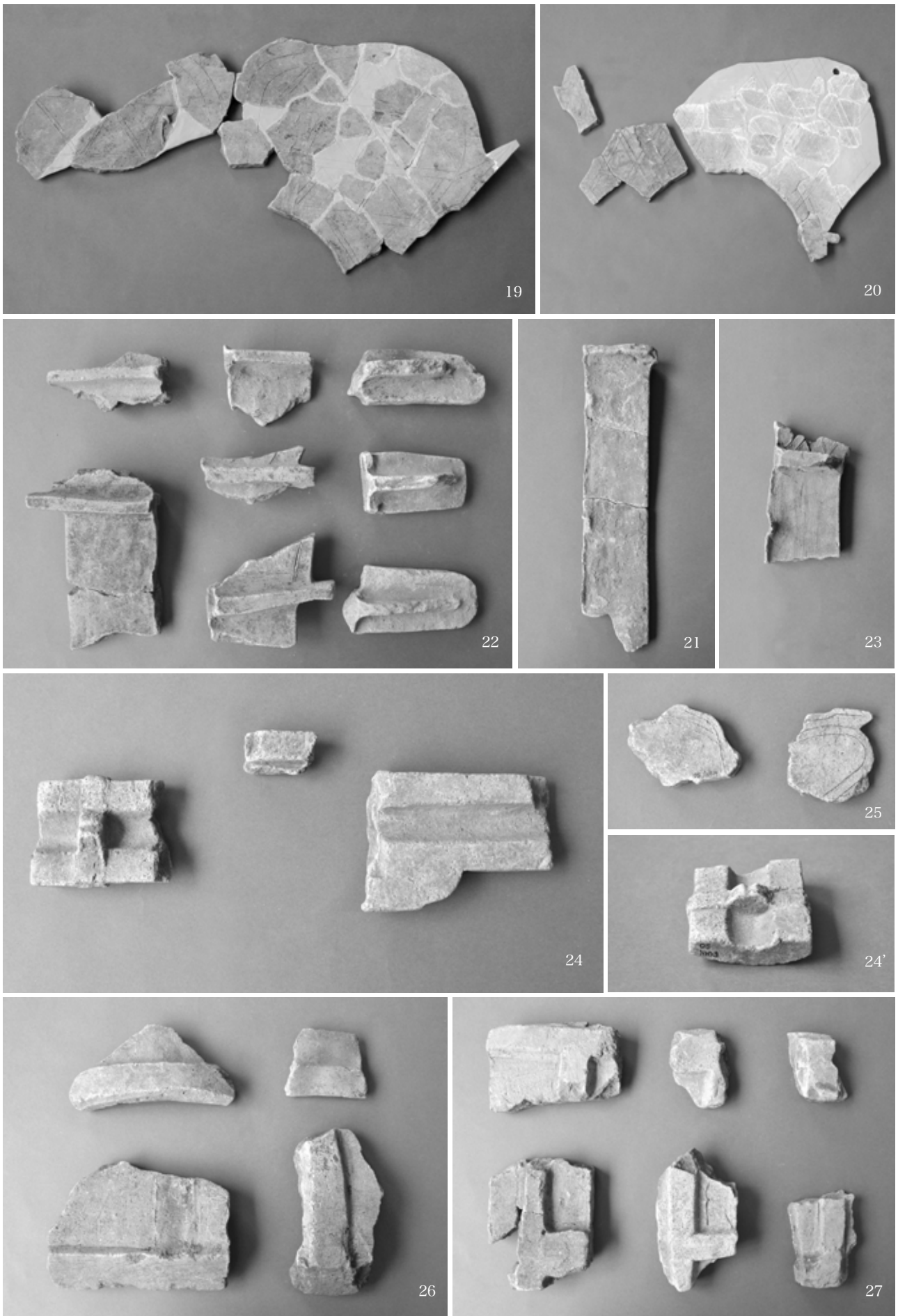


图 78 大園遺跡出土埴輪 3・土製品 (19～23. 衝立形埴輪 24・25. 槽樋形土製品 26・27. 土製棺)

「田中家（鴻池別家）文書」の概要調査Ⅱ

1. はじめに

平成9年（1997）3月に大阪府に寄贈された田中家文書（全5箱）については平成21年（2009）4月から概要調査を実施してきた。平成21年度には1号箱・2号箱（及び3号箱の一部）について基本調査を実施し、その調査成果については平成22年（2010）10月発行の『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報14』の中で報告をおこなった。「資料紹介 田中家（鴻池別家）文書の概要調査」と題して田中家文書の大阪府への寄贈の経緯、田中家文書と鴻池家文書との関連などから説きおこし、内容的には1号箱の「宗門御改帳」（1868）、「鴻池銀行」関係文書（1899）、2号箱の「鴻池小八別宅并婚礼祝儀一件」文書（1774）、「鴻池善右衛門あて奉公一件」文書（1849）、3号箱の鴻池茂四郎「見舞到来もの飛加ゑ」「出火諸入用小払扣」「普請用小払帳」（1837）などについて言及した。とりわけ3号箱の「見舞到来もの飛加ゑ」「出火諸入用小払扣」「普請用小払帳」など一見脈絡なく見える文書を天保8年（1837）の年次で括り、月日で時系列的に配列するうちに、文書発端に天保8年2月19日の日付を見出し、この日がまさに「大塩平八郎の乱」の決起の当日であるという事実と直面したとき、大きな感動と興奮を感じざるを得なかった。さいわい年報の「天保期『鴻池家』の実像と『大塩平八郎の乱』」なる小論も反響を呼び、2011年1月12日の『産経新聞』全国版に「大塩平八郎の乱巻き添え」「鴻池家混乱あらわ」なる記事が大きく紹介されるとともに、同年3月12日には東京発信の雑誌『歴史人』4月号にも「豪商・鴻池文書に記された大塩平八郎の乱の真相」が取材ののち掲載され、以後、関心を寄せる大学の研究者や文化財担当者、鴻池新田会所所員などの来訪もあり、文書調査の醍醐味ともいべきものを味わってきた。以下においては平成22年度・23年度の調査内容について報告する。

2. 3号箱・4号箱・5号箱の文書調査

平成22年度には3号箱・4号箱の文書調査、平成23年度には5号箱の文書調査を実施した。

3号箱の中にはどのような文書が含まれているか。文化・文政以降の諸道具目録関係、本朝画家系同印譜、鴻池別宅人名帳、京都大地震見舞、大日本古地図、琉球人来朝行列之図、明治六年太陽暦、鴻池善右衛門名刺、鴻池家憲法、算法雑題集帳、夜学金銭出納控、皇后陛下勸覧府立大阪博物場奉供証書、

鴻池茂四郎あて永楽善五郎書簡など、多種多様な資料が蔵されている。

4号箱はどうか。そのほとんどは冠婚葬祭関係の文書に集約される。宝暦以降の授学教門信士（初代田中茂四郎）葬送一件・同人50回忌法事用諸帳面をはじめ、田中家に関連する出生・端午初節句・髪置・袴着・疱瘡之笹湯祝儀・婚礼祝儀・入家祝儀、古稀年賀到来物、葬儀・法要・法事など一連の文書類を確認することができる。江戸から明治にかけての冠婚葬祭の実相を明らかにすることに加え、田中家系図（鴻池茂四郎家系譜）を構築するのに有用な資料である。

5号箱の内容はどうか。安永以降の万留帳、大福帳、算用帳などのほか、文化・天保年間の富商升屋長兵衛との銀取引、明治に入ってからの大坂第十三国立銀行関連文書、辞令、約定預金証などを見出すことができる。

3. 総括編年表の作成と田中家文書の諸相

1号箱から5号箱までの各箱ごとの概要把握を終えたあと、平成23年度には総括編年表も作成した。そのことにより、田中家文書の内容は古くは江戸時代の享保元年（1716）あたりから昭和8年（1933）頃までのおおよそ二百数十年に及ぶ貴重な文書類であることが判明してきた。

これら文書類の位置づけを適確におこなうために次に必要とされるのは何か。それは本家鴻池善右衛門家の家系系譜を明らかにし、その相関関係の中で田中家の役割を明らかにすることである。本家鴻池の系譜については始祖新六幸元（1570—1650）、初代善右衛門正成（1608—1693）、2代喜右衛門之宗（1643—1696）、3代善右衛門宗利（1667—1736）、4代宗貞（1698—1745）、5代宗益（1717—1764）、6代幸行（1744—1795）、7代幸栄（1767—1804）、8代幸澄（1785—1834）、9代幸実（1806—1851）、10代幸富（1841—1920）、11代幸方（1865—1931）、12代幸昌（1883—1954）などの流れが明らかにされている。この歴史的潮流に照らす時、田中家文書はおおむね3代鴻池善右衛門宗利あたりからはじまり、5代宗益、6代幸行、7代幸栄らの時代を経て、文化・文政・天保期の8代幸澄、天保・弘化・嘉永期の9代幸実、安政・慶応・明治の10代幸富、明治・大正・昭和の11代幸方、昭和の12代幸昌あたりに至る併行文書であることが明らかとなる。換言するならば、田中家文書の編

年を総括的に整理し、本家鴻池善右衛門家の当主の動態と一括関係でとらえていく時、さらなる歴史の妙味を看取できるのである。

たとえば8代幸澄の時代の文政7年(1824)の「道具帳」(図79)には掛物など美術工芸品の分類項目があり、土佐光貞の絵画や利休写茶杓(図80)などが系統的に整理登載されている。物品ごとに角印・黒印の「合」印や角印・丸印・朱印の「改」印が複数個押捺されており、鑑定や保管状況の点検が几帳面に実施されていたことをうかがい知ることができる。蒐集品の中に文化人としての高質の教養と嗜好を見出すとともに、本邸や新田会所にけっして茶室をおこうとしなかった、本務と芸事を見事に使い分けた鴻池(茂四郎)の精神をみることができる。

10代幸富の明治6年(1873)には「神武天皇即位紀元二千五百三十三年 明治六年太陽暦」(図81)が発行され、所蔵されている。明治政府はそれまでの太陰暦に基づく明治5年12月3日を太陽暦の明治6年1月1日にしたのであるが、一見、維新の象徴であるかに見えるこの改暦は12月・閏月を含めた2か月分の俸給減額のための経済的政策であったことを知る人は少ない。

珍しい「鴻池善右衛門の名刺」(図82)が4枚見出されている。縦8.7cm、横4.5cmを測り、表面には屋号と名だけが印字されており、肩書や所在地などはない。裏面は無文字である。

「鴻池家憲法」(図83)と呼ばれるものがある。3代宗利の時代の享保8年(1723)に「家定記録覚」、享保17年(1732)に「宗誠家訓」、5代宗益の時代の宝暦9年(1759)に「手代への申渡事」など「家憲」を完成させているが、家訓のほか、別家・使用人・召使・出入りの者の冠婚葬祭についての内規などが定められている。特に興味深いのは学問の奨励であり、素読や講談傾聴を勧めたあと「学問は身の治め第一に心懸け、其外善悪の義理を弁じ候為の学問に候間、心得違無之候工夫可被致事」とあり、治身と

善悪のわきまえのために学ぶという目的意識性は重要である。「鴻池家憲法」はその精神を継承したものであるが、11代幸方の時代の明治17年(1884)に顧問となった土居通夫により制定された。明治22年(1889)以前の完成で近代化への指針となった。



図81 「明治六年太陽暦」

同じく11代幸方の時代のもので明治21年(1888)の「算法雑題集帳」「算法雑題集之巻」(図84)、明治22年(1889)の「夜学金銭出納控」「雑費内訳帳」(図85)、明治23年(1890)の「皇后陛下勸覧府立大阪博物場奉供証書」(図86)などが見出されている。図84は商業用算数問題集であり、教師用であろうか、毛筆手書きで問と答の双方が記されている。続く2冊の文書である図85はいずれも裏表紙に「夜学課」とあり、中身に「補助金」等なのが記されている。当時、鴻池家が公式の夜学経営を開始していたことを知ることができる。図86は鴻池善右衛門所蔵の「鳳鳥銀色絵香炉」を皇后勸覧のために出陳する際の出品



図82 「鴻池善右衛門」名刺



図83 「鴻池家憲法」



図79 「道具帳」



図80 「道具帳」利休写茶杓等

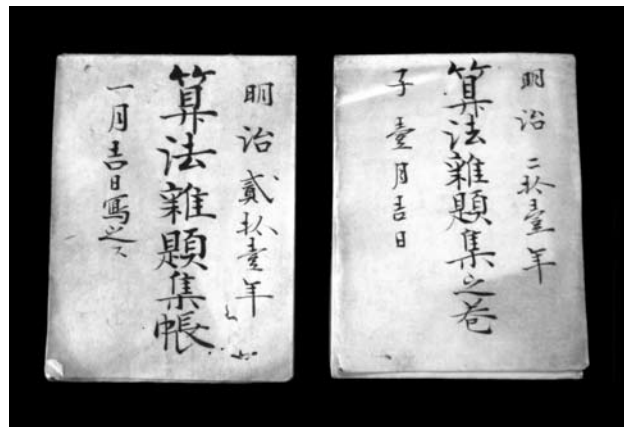


図84 「算法雑題集帳」「算法雑題集之巻」



図 85 「夜学金銭出納控」「雑費内訳帳」

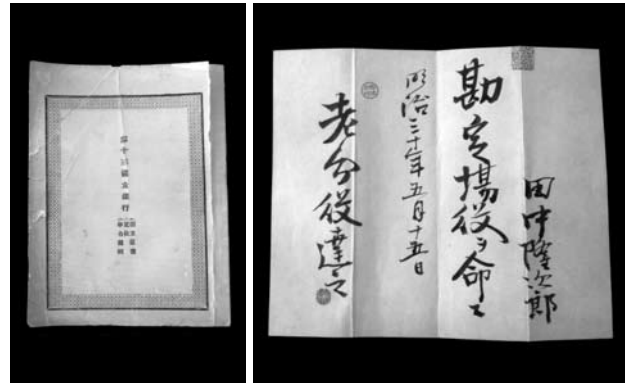


図 87 「銀行創立証書」等 図 88 「勘定場役辞令 田中隆次郎」

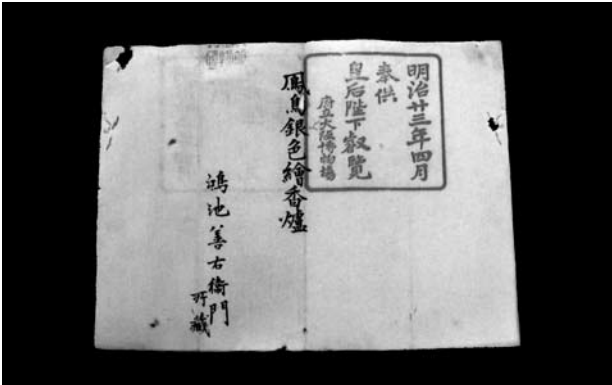


図 86 「皇后陛下勸覧 府立大阪博物場奉供証書」

証書であり、明治 8 年（1875）設立の先駆的博物館である「府立大阪博物場」の朱印が押捺されている。

第十三国立銀行が明治 10 年（1877）に 10 代幸富によって設立されたことは既に『年報 14』の中でふれたとおりであるが、明治 14 年（1881）に「創立証書」6 条、「定款」42 条、「申合規則」39 条から成る全 18 頁の合冊の冊子本（図 87）が公刊されている。時の大蔵卿は大隈重信、代理は大蔵大輔松方正義、大阪府知事は渡邊昇であった。明治 14 年（1881）から明治 22 年（1889）にかけての考課状もあるが、そこには当行役員鴻池善右衛門、同芦田安三郎、商人手代田中隆次郎らの名前を見出すことができる。明治 30 年（1897）に田中隆次郎は老分役により勘定場役を命じられている（図 88）。内外に多様な貢献を果たし、昭和 8 年（1933）に逝去している。以後は隆三氏の代となる。

4. まとめにかえて

－ 鴻池善右衛門と田中（鴻池）茂四郎 －

本家鴻池家と別家田中家との関係を考えていく上でもうひとつ触れておかなければならない問題がある。それは永年「鴻茂」（コーモ）と呼ばれならわされてきた田中家の系譜についてである。4 号箱の中に冠婚葬祭関係の文書が多数蔵されていることは先に叙べたとおりであるが、調査の結果、現時点で判明している鴻茂家系譜は初代の授学教門信士茂四郎（1684？—1752）に始まり、桃岸自覚信士茂

四郎（1758）、寿岳泰門信士小八（1740—1789）、田叟泰信禅定門茂四郎（1781—1835）、田鱗貫信信士茂三郎（1813—1847）、田翁静円信士茂四郎（1817？—1866）、田理清寛信士豊次郎（1858—1880）、田応盛隆居士隆次郎（1866—1933）の流れである。総括編年順に並べられた資料を、田中家当主ごとの切り口で観察・検討していくことは文書の本質に照らして王道的方法であり、今後、新しい発見の糸口となると思われる。

以上、平成 21 年度から 23 年度の 3 ヶ年にわたり実施してきた「田中家（鴻池別家）文書」の調査概要を報告してきた。この調査に従事して鴻池家・田中家両家の文書類から多くの事象を学ぶことができる。鴻池善右衛門・田中茂四郎という「治身」（修身）を重視する初代当主がおり、徳性をもった「家訓」が継承され遵奉され、幼き時より本家・分家・別家にあつて勤仕の精神を徹底し、宗旨を強制せず、信用と質素儉約を宗とし、身を治め、善悪を弁別するための学問を奨励し、資金用途についても主人の独走を許さず老分制協議により制御し、さまざまな新規事業を展開しつつも、己の損得をのみ念頭におかず、鴻池新田の開発や河川の浚渫、御用金・救恤金・献金の提供など、社会貢献の上でも大きな役割を果たしてきた。明治 4 年（1871）における全国 76 藩に伴う債務処理問題、大正 12 年（1923）の関東大震災による震災恐慌、昭和 2 年（1927）の金融恐慌、昭和 4 年（1929）の世界恐慌など大きな難題を経つつも、昭和 8 年（1933）に鴻池・三十四・山口の 3 つの銀行を合わせて三和銀行を設立するなど多くの事業にとりくんできた。誉れある家柄を社会的貢献を立派に果たしつつ永く保つことは容易な事柄ではない。称賛の念を禁じえない。

この調査を実施するにあたり、東京在住の田中和彦氏には大変お世話になった。記して感謝申し上げる。貴重な本資料が今後も末永く大切に保管され精査されて、より良き教訓を引き出せることを願いつつ、報告を終えることにする。（久米雅雄）

文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業

■ 研修事業

各研修事業主体組織からの要請に応じて研修を実施した。国際協力機構（JICA）の実施する留学生の学芸員研修に協力し博物館展示案内解説・発掘調査現地での研修を実施。学校関係では府総務部人事室所管の大学生インターンシップで発掘調査現地作業や調査事務所での遺物整理・図書整理作業の体験研修を実施した。地元中学校2校からの依頼による体験学習では遺物整理作業・展示作業の体験研修を実施した。

■ 発掘調査成果の公開事業

発掘調査の進捗にあわせて、4遺跡の発掘調査現地を公開した。実施に当たっては地域や組織の連携を重視した。禁野本町遺跡は道路拡幅工事に伴う狭小な調査区であったが、(財)枚方市文化財研究調査会が実施した隣接地の発掘調査現地説明会と同時開催して公開。太井遺跡は河内長野市教委との共同調査の成果を共催で公開。瓜破北遺跡は調査1・2グループがそれぞれ担当する2現場を同時公開した。池田市柳原遺跡でも地元市教委の協力を得た。

■ 調査成果の展示・関連講演等

発掘調査やその後の整理作業で得られた成果を府立博物館などで展示公開するとともに、講演等により成果を発表した。最近の発掘調査成果では和泉寺跡の文字瓦・府中遺跡の縄文土器・安松田遺跡の鎌倉時代東大寺再建瓦、過去の調査資料の再整理成果として藤の森古墳のガラス玉・八雲遺跡の細石器を整理研究し、展示公開した。新しい取り組みとして、大阪狭山市と共催で狭山藩陣屋跡のこれまでの調査成果を総合して陣屋での現地ウォーク、狭山池博物館での展示・講演を実施した。これをきっかけに、大阪狭山市においても独自の普及公開事業が予算化されている。今年度事業数29件。

■ 出かける博物館事業（講演・イベントの応援）

他組織や市民学習グループなどの団体からの依頼に応じての講演・遺跡案内等は22件、講師として派遣した職員は11名（のべ27名）であった。発掘調査成果を調査担当者が報告したり、専門研究分野の内容の講演のほか、市民団体とのつながりを活かして職員が積極的に講師や案内を引き受けている。職員の専門性を活かした講演や報告などの普及事業をより一層活発に展開することが求められる。

博物館関連のイベントへの応援は5件、応援職員は各グループからのべ26名。各行事は数年来継続



図 89 中学生の職場体験学習



図 90 瓜破北遺跡現地公開



図 91 柳原遺跡現地公開



図 92 狭山藩陣屋跡現地ウォーク

的に実施されており定着してきている。

■ その他の事業（研究活動等）

他機関や個人との共同研究を実施した。調査事務所蔵資料を対象とした研究活動が府職員も参加して行われている。各月数回で通年実施しており、その成果の一部は既に公開されている。

古墳時代の日韓交流を示す資料が大量に出土した葦屋北遺跡の調査成果・遺物に対する日韓の研究者の関心は、依然として極めて高い。

守口市八雲遺跡出土の細石器について、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・弥生文化博物館との連携研究を実施した。成果は弥生文化博物館で展示した。

■ 埋蔵文化財情報の発信

大阪府のホームページ上の文化財保護課のページに発掘調査情報を14件、現地説明会情報4件、出土資料紹介2件を掲載した。

■ 今年度普及事業の新しい成果と今後の課題

発掘調査成果の公表については、原則としてすべての調査現地を公開するという基本方針に基づいて実施してきた。調査地の規模や位置、調査期間などの困難な条件にかかわらず、また、めざましい調査成果にこだわらずに、地元の人たちを中心に成果を公表する努力をした。

報告書に結実した調査成果（和泉寺跡・安松田遺跡）に加え、過去の調査の出土遺物の再整理の成果を年報で公表したり（菅田山古墳群）、府立博物館でスポット展示した（藤の森古墳のガラス玉・八雲遺跡の石器）ことも新しい試みである。また、他組



図 93 八雲遺跡出土細石器の展示

織との連携事業の推進を図った。府都市整備部所管狭山池博物館での展示や講演会（大阪狭山市共催）、府内市町との連携による展示や公開が実施された（大阪狭山市・太子町）。

市民団体からの依頼に基づく講演や案内へ職員を派遣しているが、人数・件数は昨年度より減少している。今後も文化財調査の成果を、多様なつながりを活かして、府民に普及公開する努力が必要である。学校教育との連携については、泉大津高校への出前授業を昨年度に続き実施したが、同校のように定着している授業以外には新たな展開はない。学校への普及事業については博物館や市町村の教育委員会や文化財担当部局との連携・分担を考慮しながら新たな展開を図る必要がある。

研究者と共同で自主的事業として事務所保管遺物の再整理と研究を行っている（陶邑古窯群出土須恵器や大園遺跡出土埴輪等）。未報告資料の公開や資料価値の再評価につながる事業である。（阪田育功）

表 7 平成 23 年度普及・啓発・公開事業一覧（1）

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内容	対象	備考
研修事業	国際協力機構（JICA）研修	23.8.23・24	文化財調査事務所 瓜破北遺跡調査現場	博物館学芸員留学生の研修	留学生	国立民族学博物館所管
	インターンシップ	23.8.15～8.26	文化財調査事務所 泉大津収蔵庫・他	職場体験 遺跡調査・遺物整理・図書整理等	大学生	府事業
	職場体験学習	24.1.26・27	文化財調査事務所	堺市立赤坂台中学校	2年生	
	職場体験学習	24.2.8～10	文化財調査事務所	堺市立福泉南中学校	2年生	
発掘調査の現地説明会・公開	禁野本町遺跡現地公開	23.8.6	発掘調査現地	古墳時代竪穴住居址・奈良から平安時代建物など公開	一般	（財）枚方市文化財研究調査会の現地説明会と同時開催
	太井遺跡現地公開	23.11.5	発掘調査現地	中世の土葬・火葬墓を多数検出 縄文土器（後期）出土	一般	河内長野市教委との共同調査
	瓜破北遺跡現地公開	23.12.5	発掘調査現地	谷渥地堆積土層出土の準構造船部材、古墳時代初頭の溝などの調査成果を公開	一般	2か所の発掘調査現地を同時公開
	柳原遺跡現地公開	23.12.17	発掘調査現地	弥生時代後期前半の粘土探掘跡と考えられる土坑を多数検出	一般	
文化財活用事業	史跡公園開園 10 周年記念協賛フォーラム 講演・鼎談	23.5.4	弥生文化博物館	「古代ロマン再生への道のり」	一般	府立弥生文化博物館・和泉市教育委員会・泉大津市教育委員会
	スポット展示「安松田遺跡出土瓦」	23.4.26～ 23.5.8	狭山池博物館	重源による鎌倉時代東大寺再建に使われた瓦を展示	一般	狭山池博物館と共催

表8 平成23年度普及・啓発・公開事業一覧(2)

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内容	対象	備考
文化財活用事業(文化財の展示と関連講演等)	歴史講演会「安松田遺跡と東大寺瓦」	23.5.7	狭山池博物館	安松田遺跡出土瓦の分析と東大寺再建瓦の検討	一般	狭山池博物館と共催
	弥生プラザ展示「府中遺跡の縄文土器展示」	23.5.14～23.12.9	弥生文化博物館 弥生プラザ	和泉市府中遺跡で出土した縄文土器を展示	一般	
	土曜講座「府中遺跡の縄文土器－入門！縄文土器の見方－」	23.7.23	弥生文化博物館	府中遺跡出土縄文土器の解説を通じて縄文土器の見方を講演	一般	
	近つ飛鳥博物館「動物大百科」夏季企画展 展示指導	23.7.12 23.9.6	近つ飛鳥博物館	亀井遺跡出土犬骨格展示	博物館員	展示指導依頼に基づく派遣
	近つ飛鳥博物館 夏季企画展講演会	23.8.7	近つ飛鳥博物館	夏季企画展「動物大百科」講演会「犬と馬の考古学」	一般	
	弥生文化博物館 夏季企画展「豊饒をもたらす響き 銅鐸」関連セミナー	23.8.14	弥生文化博物館	「銅鐸を発掘した人々の語り」	一般	
	弥生時代入門講座 講演	23.8.20	弥生文化博物館	「発掘調査の方法－和泉市内遺跡の事例から－」	一般	
	スポット展示「安松田遺跡出土瓦」	23.8.20～.9.16	近つ飛鳥博物館	安松田遺跡出土東大寺鎌倉時代再建瓦の展示	一般	
	土曜講座「安松田遺跡と東大寺瓦」	23.8.27	近つ飛鳥博物館	安松田遺跡出土瓦の分析と東大寺再建瓦の検討	一般	
	織編館特別企画展 弥生以後の池上曾根	23.9.15～10.25	泉大津市立織編館 企画情報展示室	大阪府教育委員会所蔵の池上曾根遺跡出土資料中の古墳時代から古代遺物を展示	一般	泉大津市教委・弥生文化博物館と共催
	復元！狭山藩陣屋 展示会	23.11.8～11.20	狭山池博物館	長年の狭山藩陣屋跡の発掘調査の出土品をもとに武家の生活を復元する	一般	市教委・市郷土資料館・狭山池博物館と共催
	復元！狭山藩陣屋 陣屋ウォーキング	23.11.13	狭山藩陣屋跡現地	学芸員の案内で絵図をたよりに陣屋を探求する	一般	市教委・市郷土資料館・狭山池博物館と共催
	復元！狭山藩陣屋 講演会	23.11.13	狭山池博物館	狭山藩陣屋跡の発掘調査成果について講演「武家屋敷と武家の生活」	一般	市教委・市郷土資料館・狭山池博物館と共催
	スポット展示「藤の森古墳のガラス玉」	23.11.19～23.12.4	近つ飛鳥博物館	1965年に発掘調査されて未公表であったガラス玉類の公開(他に鉄器・埴輪等)	一般	
	土曜講座「藤の森古墳のガラス玉」	23.11.26	近つ飛鳥博物館	ガラス玉類の製作法を他の古墳出土ガラス玉と比較検討	一般	土曜講座
	弥生プラザ展示「守口市八雲遺跡の石器」	23.12.10～24.5.11	弥生文化博物館	八雲遺跡出土の佐渡産鉄石英製微小石器(弥生時代前期末)等の展示	一般	
	土曜講座「八雲遺跡の石器－入門！弥生石器の見方－」	24.2.4	弥生文化博物館	守口市八雲遺跡出土石器の解説を通して弥生時代石器の見方を講義	一般	土曜講座
	近つ飛鳥博物館冬季特別展「歴史発掘おおさか2011－大阪府発掘調査最新情報－」展示協力	24.1.21～3.25	近つ飛鳥博物館	府教委所蔵資料の展覧・調査担当者による図録執筆	一般	
	近つ飛鳥博物館冬季特別展「歴史発掘おおさか2011－大阪府発掘調査最新情報－」講演会	24.3.25	近つ飛鳥博物館	和泉市 和泉寺跡	一般	
	「おおさかを掘る 最新発掘調査の成果」発掘調査成果報告会	24.3.18	近つ飛鳥博物館	安松田遺跡の調査	一般	府教委・大阪府教委・(財)大阪市博物館協会共催
	狭山池博物館展示協力	通年	狭山池博物館	狭山池博物館展示テーマに沿った資料調査・企画立案に協力		
	調査事務所ホール展示 河内国分寺&田辺廃寺	24.1.～	文化財調査事務所	中学校職業体験作業の成果を事務所ホール展示ケースに展示		赤坂台中学校2年生
	調査事務所ホール展示 木の本遺跡弥生土器	24.2	文化財調査事務所	中学校職業体験作業の成果を事務所ホール展示ケースに展示		福泉南中学校2年生
	馬骨格復元・肉づけ模型作成指導	24.3	近つ飛鳥博物館	金鈴塚古墳馬具装着台座作成のための指導		木更津市郷土博物館の依頼により、近つ飛鳥博物館から要請
	竹内街道歴史資料館スポット展示「最古の官道・竹内街道の源流 難波大道の発掘調査」	24.3.7～3.25	太子町立竹内街道歴史資料館	大和川今池遺跡・伽山遺跡土器等展示	一般	太子町教育委員会 大阪府文化財センターと共催
	弥生犬骨格の復元展示指導	24.3	弥生文化博物館	弥生犬の復元展示	博物館員	弥生文化博物館からの指導依頼
久宝寺遺跡調査成果説明板の作成協力	24.1～24.3	電筆水みらいセンター 整備工事区域	(公財)大阪府文化財センターによる発掘調査調査成果の説明板作成設置に協力		東部流域下水道事務所事業	
出かける博物館	堺市立泉北すえむら文化財歴史講座	23.5.8	堺市立泉北すえむら資料館	履中・反正・允恭三兄弟短期政権？ － 百舌鳥・古市古墳群の被葬者を推定する－	一般	泉北すえむら文化財・歴史講座
	講演会「飛鳥・奈良時代の多治比氏」	23.5.21	丹比神社集会所	丹比地域の文化財調査の成果紹介	会員	東奥運心会

表9 平成23年度普及・啓発・公開事業一覧(3)

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内容	対象	備考
出かける博物館事業(講演・遺跡案内等)	狭山池の歴史を訪ねて	23.5.22	狭山藩陣屋跡 狭山池博物館ほか	狭山池の歴史・池尻城跡・狭山池博物館見学	会員	河内の郷土文化サークルセンター
	二田物部氏ゆかりの地を歩く	23.6.11	二田村境石石造物群などから池上曽根遺跡・弥生文化博物館へ	池上曽根史跡公園活性化事業	一般	泉大津市教育委員会等
	都びとゆかりの地を歩く	23.6.25	和泉国跡跡・穴師神社から池上曽根遺跡・弥生文化博物館へ	池上曽根史跡公園活性化事業	一般	泉大津市教育委員会等
	府立弥生文化博物館と周辺の文化施設の解説	23.7.1	池上曽根史跡公園 弥生文化博物館	池上曽根遺跡周辺の施設探訪	一般	住吉歴史探訪会
	中世武士ゆかりの地を歩く	23.7.9	葛葉神社・曽根城跡から池上曽根遺跡・弥生文化博物館へ	池上曽根史跡公園活性化事業	一般	泉大津市教育委員会等
	堺市立泉北すえむら文化財・歴史講座	23.7.10	堺市立泉北すえむら資料館	ヤマト王権と河内王権 一葛城勢力は王権とどう向きあったのか?	一般	泉北すえむら文化財・歴史講座
	柏原市立歴史資料館企画展「赤馬伝説」講演	23.7.31	柏原市立歴史資料館	「馬をめぐる考古学 一 藤屋北遺跡の調査成果を中心に」	一般	
	自主学習グループ「みち」講演会	23.8.20	岸和田市立公民館	講演「発掘された継体天皇時代の大阪」	一般	自主学習グループ「みち」
	大阪商業大学スライドカルチャー「お金の日本史」	23.9.10	大阪商業大学ユニバーシティホール「蒼天」	「お金の日本史」入門	一般	大阪商業大学
	くすのきプラザ歴史講座	23.9.13	東大阪市若江駅前リージョンセンター	戦国時代の河内と若江城	一般	東大阪市若江岩田駅前リージョンセンターくすのきプラザ運営委員会
	大阪商業大学スライドカルチャー「お金の日本史」	23.10.22	大阪商業大学ユニバーシティホール「蒼天」	この世とあの世をつなぐお金 六道銭とその世界	一般	大阪商業大学
	出前講座(岸和田高校)	23.11.18	岸和田高校	「金印の真実に迫る」	2年生	
	歴史講座 神功皇后時代の住吉	23.11.19	大阪市立市民文化交流センターすみよし南	文献で記録された時代を考古学的に検証する	会員	すみよし歴史探訪会
	出前講座(泉大津高校)	23.12.12・14	大阪府立泉大津高校	情報科授業 考古資料の解説	3年生	
	くすのきプラザ歴史講座	24.1.10	東大阪市若江岩田駅前リージョンセンター	河内の新田開発と大坂商人	一般	東大阪市若江岩田駅前リージョンセンターくすのきプラザ運営委員会
	堺自由の泉大学 講義	24.2.2	堺市立女性センター	堺環濠都市遺跡 一 都市堺を防衛した濠 一	受講生	
	堺自由の泉大学 講義	24.3.1	堺市立女性センター	堺環濠都市遺跡 一 茶人屋敷跡 一	受講生	
	いちょうコンソーシアム 2011年度シンポジウム	24.3.11	大阪市市民交流センターあさひ西 集会室	講演 前期難波宮の時代シンポジウム 追検証 難波宮から大阪まで	一般	NPO法人いちょうコンソーシアム
	喜連村史の会講演会	24.3.16	大阪市平野区喜連3丁目寶園寺	瓜破北遺跡出土準構造船の評価と周辺遺跡と景観について	一般	喜連村史の会
	堺市立泉北すえむら文化財・歴史講座講演	24.3.25	堺市立泉北すえむら資料館	楠木正成のみた大阪	一般	泉北すえむら文化財・歴史講座
出かける博物館事業(イベント応援等)	和泉市商工まつり	23.10.22・23	史跡池上曽根公園	弥生文化博物館入館無料の宣伝 博物館による土器バズル	一般	和泉商工会議所主催
	高校軽音楽フェスタ in 弥生の森 2011	23.10.29・30	史跡池上曽根公園	催し物に合わせて土器バズルを実施	一般	和泉市文化財活性化推進実行委員会
	富田市民ふれあいまつり	23.11.23	石川河川敷公園	土器バズルなどで博物館の宣伝 パンフレット配布	一般	富田林土木事務所ブース内に展示
	安藤忠雄講演会	24.3.3	近つ飛鳥博物館	講演会の受付・会場整理等	一般	近つ飛鳥梅いっぱい委員会
	弥生フェスティバル	24.3.24～31	弥生文化博物館	イベント応援 土器コーナー等	一般	期間中入館無料
その他事業	藤屋北遺跡出土韓式土器検討	23.7.20	調査事務所	出土遺物の詳細観察記録	日・韓研究者	
	韓式土器研究会	23.7.30	調査事務所	寺田・岸之本南・倉治遺跡出土土器の検討	会員	
	大園遺跡綾園地区出土埴輪の再整理及び研究	23.6～24.3	泉大津収蔵庫	大園遺跡出土埴輪の資料整理と共同研究	研究者	本課職員と研究者の共同研究 23・24年度予定
	陶邑窯跡群出土資料検討会	23.4～24.3	文化財調査事務所	研究者グループ「窯業史研究会」資料調査	研究者	
	連携研究「大阪府守口市八雲遺跡出土極細石器の実体研究」	23.8.1～24.3.31	奈良文化財研究所	極細石器の材質調査・技法研究、成果を弥生文化博物館で展示	研究者一般	奈良文化財研究所・弥生文化博物館との連携研究

平成 23 年度検討会および資料

1. 検討会

- 第 1 回検討会 2011 年 4 月 13 日 (水)
「九頭神遺跡・招提中町遺跡の調査」 岩瀬 透
- 第 2 回検討会 2011 年 5 月 11 日 (水)
「河内長野市内山間部の調査 - 奥田井遺跡 -」 阪田育功
- 第 3 回検討会 2011 年 6 月 8 日 (水)
「工事事故防止に向けて」 北川 知
- 第 4 回検討会 2011 年 9 月 14 日 (水)
「禁野本町遺跡の調査」 山田隆一
- 第 5 回検討会 2011 年 10 月 12 日 (水)
「『漢委奴国王』印から『親魏倭王』印まで一金印・銀印ものがたり」 久米雅雄
- 第 6 回検討会 2011 年 11 月 9 日 (水)
「大町遺跡平成 21・22 年度発掘調査」 三木 弘・杉本清美
- 第 7 回検討会 2011 年 12 月 14 日 (水)
「寺田遺跡第 3 次発掘調査について」 三好 玄
- 第 8 回検討会 2012 年 2 月 8 日 (水)
「傀儡を見る - 人形浄瑠璃以前の操り人形 -」 阿部幸一
- 「年度別調査担当遺跡」 岩瀬 透
- 第 9 回検討会 2012 年 3 月 14 日 (水)
「鑄型の話」 西口陽一

2. 所蔵資料

■埋蔵文化財 (整理箱数)

- | | |
|------------------------|-----------|
| (1) 東大阪収蔵庫 (東大阪市長田東) | 49,162 箱 |
| (2) 北部北収蔵庫 (摂津市鳥飼中) | 3,276 箱 |
| (3) 文化財調査事務所 (堺市南区竹城台) | 6,538 箱 |
| (4) 泉北収蔵庫 (高石市綾園) | 38,182 箱 |
| (5) 泉大津収蔵庫 (泉大津市旭町) | 14,113 箱 |
| (6) 泉佐野収蔵庫 (泉佐野市日根野) | 32,219 箱 |
| (7) 近つ飛鳥博物館 (河南町大字東山) | 7,762 箱 |
| 合計 | 151,252 箱 |

平成 22 年度に引き続き、平成 23 年度も緊急雇用促進事業を活用し、約 15,000 箱の遺物収納コンテナの再データ化を実施。また、(公財)大阪府文化財センターが一時的に保管収蔵する(センター調査分)の出土遺物について、順次府教委で直接保管。平成 23 年度については、約 1,000 箱を受け入れる。

■民俗文化財 (文化財調査事務所)

- | | |
|--------------|------|
| (1) 谷口家資料 | 22 点 |
| (2) 辻家資料 | 13 点 |
| (3) 守田コレクション | 20 点 |
| (4) 上平家資料 | 15 点 |



図 94 泉北収蔵庫外観 1



図 95 泉北収蔵庫外観 2



図 96 東大阪収蔵庫収納状況



図 97 泉大津収蔵庫収納状況

- (5) 畑野家資料 2点
- (6) 三宅家資料 一括
- (7) 大恩寺資料 一括
- (8) 前西家資料 22件

■美術工芸品（文化財調査事務所）

- (1) 田中家文書 一括（5箱／4,100点）
- (2) 「府立大阪博物場」旧蔵美術工芸品（大阪府指定） 277点
 - 古銭（大阪府指定） 4箱 3,078点
 - その他博物場資料 一括

■写真・図面その他の資料（文化財調査事務所）

- (1) 図面資料 4,850 ケース
- (2) 写真資料 7,558 ケース
- (3) 台帳 1,863 冊
- (4) パネル 798 点

■図書（文化財調査事務所他）

調査報告書等 48,080 冊

3. 所蔵資料の展示

（泉大津収蔵庫が入る）大阪繊維リソースセンター1階ロビーに設けられた展示コーナーにおいて、所



図 98 図書収納状況

蔵資料の展示を継続実施。平成23年度は、和泉市・泉大津市所在の池上曾根遺跡出土古墳時代土器の展示他、4回の入れ替えを行った。

また、中学生の職場体験学習を兼ねて、文化財調査事務所1階ホールの展示コーナー

において、柏原市所在の古代寺院跡出土瓦と八尾市所在の田井中遺跡出土弥生時代前期土器の展示・公開を行った。

さらに、大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）リフレッシュコーナーにおける常設展示（ドーンセンター建設に伴う発掘調査で出土した大坂城関連の遺物）についても展示協力し、定期的に展示品の入れ替えを実施している。



図 99 リソースセンター展示状況



図 100 ドーンセンター展示状況

===== 平成 23 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧 =====

大阪府埋蔵文化財調査報告

- 2011 - 1 『葦屋北遺跡Ⅱ』
- 2011 - 2 『大町遺跡Ⅲ』
- 2011 - 3 『和泉寺跡・府中遺跡』
- 2011 - 4 『平尾遺跡』
- 2011 - 5 『金岡遺跡』
- 2011 - 6 『芹生谷遺跡Ⅱ』
- 2011 - 7 『狭山藩陣屋跡』
- 2011 - 8 『ミヤケ北遺跡』
- 2011 - 9 『府中遺跡・豊中遺跡・板原遺跡』

概要報告

- 『奥田井Ⅱ・太井Ⅰ発掘調査概要』
- 『高木遺跡発掘調査概要』

年報

『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 15』



図 101 平成 23 年度刊行物集合

平成 23 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧

実物資料・複製資料長期貸出

件数	申請者	遺跡	資料内容・点数	目的(展示内容等)
1	国立歴史民俗博物館	池上曾根遺跡	石庖丁 3 点 計 3 点	総合展示『稲と倭人』
2	大阪府立狭山池博物館	池尻城跡 大和川今池遺跡	冑金 1 点 鋤 1 点 計 2 点	常設展示『中世の土地開発と狭山池』
3	大阪府立女性総合センター (ドーンセンター)	大坂城跡	美濃焼小鉢 1 点・天目茶碗 1 点・鉄釉丸椀 1 点・鉄釉皿 2 点・ 灰釉折縁皿 1 点・灰釉菊皿 1 点・灰釉皿 1 点・志野向付 1 点・ 皿 1 点・中国製白磁 1 点・青花皿 1 点・ベトナム製色絵皿 1 点・ 金箔瓦 4 点 計 17 点	常設展示(リフレッシュコーナー)
4	大阪府立西成高等学校	喜志遺跡 八尾南遺跡 萱振遺跡 崇禪寺遺跡 陶器南遺跡	弥生土器甕 1 点 土師器 5 点(直口壺 2・小形丸底壺 1・高杯 1・台甕 1) 土師器甕 1 点 須恵器 9 点(杯身 1・有蓋高杯蓋 3・有蓋高杯身 3・はそう 1・壺 1) 須恵器片コンテナ 1 箱 計 17 点(コンテナ数を含む)	授業・展示
5	大阪府立大手前高等学校	大坂城跡	金箔丸瓦 1 点・飾瓦 1 点・軒平瓦 1 点・文字入り平瓦 1 点・軒丸瓦 1 点・ 天目茶碗 1 点・須恵器短頸壺 1 点・分銅 1 点・白磁香炉 1 点・ 美濃水滴 1 点・鳥文青花大皿 1 点・鋤 1 点・筭 1 点 計 13 点	授業・展示
6	大阪府立三国丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦 10 点・軒平瓦 8 点・斧瓦 3 点・雁振瓦 1 点・ 瓦器椀 7 点・土師皿 11 点・すり鉢 1 点・土師質羽釜 1 点・ 陶磁器 5 点・硯 1 点 計 48 点	授業・展示
7	大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器壺 2 点、須恵器 15 点(杯 5・高杯 3・碗 1・甕 4・ こね鉢 1・その他 1)、韓式系土器甕 1 点、土師器 13 点(壺 3・ 甕 2・高杯 3・碗 1・皿 4)、瓦器 34 点(碗 31・皿 1・火鉢 1・ 釜 1)、磁器碗 1 点、砥石 1 点、木製品 5 点(下駄 2・箸 2・ 人形首 1)、土錘 1 点、キセル 1 点、加工骨 1 点 計 75 点	授業・展示
8	大阪府立四条畷高等学校	更良岡山遺跡 雁屋遺跡	円筒埴輪 3 点、須恵器 3 点(短頸壺 1・甕 1・提瓶 1) 弥生土器 32 点(壺 7・長頸壺 1・無頸壺 1・無頸壺蓋 1・ 鉢 3・鉢蓋 1・甕 7・台付鉢 2・台付甕 1・器台 3・高杯 3・ 手焙り形土器 2)、黒色土器椀 1 点、土師器壺 2 点、 須恵器 7 点(平瓶 1・無蓋高杯 1・蓋杯蓋 1・蓋杯杯身 2・ はそう 1・壺 1)、砥石 4 点、石鏝 5 点 計 57 点	授業・展示
9	大阪府立八尾北高等学校	萱振遺跡	弥生土器壺 1 点・長頸壺 1 点・無頸 1 点・壺蓋 1 点、 土師器壺 1 点、須恵器有蓋高杯 1 点・高杯蓋 1 点・杯身 1 点・ 杯蓋 1 点・はそう 1 点、円筒埴輪 1 点・蓋形埴輪 6 点、 勾玉 4 点・紡錘車 2 点、臼玉 8 点 計 31 点	授業・展示
10	大阪府立茨木高等学校	新庄遺跡	弥生土器 9 点(壺 2・甕 2・鉢 2・蓋 3)、磨製石斧 5 計 14 点	授業・展示
11	能勢町歴史資料室	上椿遺跡 尾道遺跡 九ノ坪遺跡 大里遺跡	須恵器甕 1 点 須恵器 4 点(杯身 1・杯蓋 2・円面硯 1)、土師器高杯 1 点 黒色土器椀 2 点、土師器小皿 3 点 弥生土器 8 点(土器片 1・甕 3・無頸壺 1・鉢 1・蓋 1・高杯 1)、 土師器 7 点(壺 1・甕 3・器台 1・杯 2)、須恵器 5 点(杯 2・甕 3)、常設展示 石庖丁 4 点・石斧 3 点・石錘 1 点・石鏝 7 点 計 46 点	能勢町歴史資料室(能勢町ふるさと会館内)

12	豊能町立郷土資料館	余野城跡	瓦器椀 7 点・瓦器片 20 点、土師皿 4 点、 須恵器片 3 点、砥石 1 点	計 35 点	豊能町立郷土資料館常設展示
13	吹田市立博物館	吉志部瓦窯	軒丸瓦点 1 点、平瓦 1 点、緑釉陶器片 2 点、 緑釉瓦片 6 点、窯道具 6 点	計 16 点	常設展示『桓武朝平安宮瓦窯』
14	藤井寺市立図書館	三ツ塚古墳	小型修羅 1 点	計 1 点	図書館展示室常設展示
15	堺市立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器 33 点（椀 27・皿 6）、土師器皿 1 点、瓦質羽釜 1 点、 鋳型片 29 点、鞆羽口 18 点、鉄製刀子 1 点、青銅製品 2 点、 鉄塊系遺物 7 点、砥石 7 点	計 99 点	常設展示『河内鋳物師』
16	太子町立竹内街道歴史資料館	伽山古墓	銀製帯金具〈レプリカ〉一式	計 1 式	常設展示（第2展示室）
17	池上曾根弥生学習館	池上曾根遺跡	炭化米（No.286）1 ケース	計 1 ケース	常設展示
18	和泉市いづみの国歴史館	府中遺跡 坂本寺跡 大園遺跡 池田寺跡 信太寺跡 和泉寺跡 池上曾根遺跡	弥生土器 12 点（高杯 1・壺 7・甕 2・蛸壺形土器 2） 軒丸瓦 6 点・軒平瓦 5 点 有舌尖頭器 2 点、子持勾玉 2 点、滑石製勾玉 1 点・紡錘車 1 点 文字瓦 6 点、軒丸瓦 8 点、軒平瓦 1 点、石製巡方 1 点 平瓦（人物画像）1 点・文字瓦 4 点、軒丸瓦点 1 点、軒平瓦 1 点 平瓦 2 点・軒平瓦 1 点・軒丸瓦 3 点 弥生土器 15 点（甕 1・水差形土器 1・高杯 3・鉢 3・壺 7）、 木製品 24 点（男莖〈レプリカ〉1・広楾〈レプリカ〉1・高杯 1・把手付鉢 1・鉢 1・斧の柄 1・布巻具 1・用途不明品 1・小型四脚付盤 2・臼 1・臼〈レプリカ〉1・杓子 2・杓子〈レプリカ〉1・楾 3・楾〈レプリカ〉1・簪 5）、石製品 23 点（錘 2・大型石庖丁 2・環状石斧 2・石斧 9・石槍 5・投弾 3）、ヒスイ勾玉 1 点・管玉 5 点・ガラス玉片 3 点、イノシシの下顎骨 1 点・鹿角 1 点・骨製ヤス 2 点・骨器未製品 5 点・銅鏃 2 点・八稜鏡 1 点	計 141 点	常設展示
19	宮崎県立西都原考古博物館	陶邑窯跡群	須恵器 109 点	計 109 点	常設展示コーナー『考古学研究所』
20	(財)大阪科学技術センター 科学体験館サイエンス・サテライト	三軒屋遺跡 池上曾根遺跡	縄文土器 1 点 弥生土器 1 点	計 2 点	常設展示『くらしの中の放射線利用』
21	吉志部神社	吉志部瓦窯	軒丸瓦 1 点、軒平瓦 1 点、緑釉瓦片 2 点、トチン 2 点	計 6 点	社務所玄関ロビーに展示
22	交野市教育委員会	大谷窯跡	須恵器 24 点・須恵器片 21 袋（遺物袋） 計 45 点（遺物袋数を含む）		常設展示
23	大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	瓦器 18 点（椀 13・皿 5）、青磁 4 点・土釜瓦 6 点・土師器 11 点（皿 10・壺 1）、須恵器 11 点、瓦質皿 2 点、瓦質釜 2 点、常滑甕 3 点、 軒丸瓦 3 点、軒平瓦 2 点、瓦器椀片・土師器片 7 袋（遺物袋） 計 69 点（遺物袋数を含む）		常設展示
24	箕面市立郷土資料館	箕面経塚	和鏡 3 点、壺 1 点、銅銭 4 点、青白磁合子 2 点、 青白磁小壺 1 点、褐釉壺 1 点	計 11 点	常設展示
25	奈良国立博物館	新堂廃寺 河内寺 百濟寺 高宮廃寺	軒丸瓦 7 点、鴟尾片 2 点、榿先瓦 1 点 軒丸瓦 2 点、軒先瓦 2 点、 軒丸瓦 1 点 軒丸瓦 1 点	計 16 点	常設展示『仏教考古及び歴史考古の名品』

実物資料・複製資料短期貸出

貸出先(申請者)	遺跡	資料名/点数	展覧会/掲載図書名称
1 奈良大学文学部	シシヨツカ古墳	ガラス玉 148点 計 148点	元素分析によるガラスの玉の材質・製作技法の研究
2 柏原市立歴史資料館	応神陵古墳 部屋北遺跡	円筒埴輪 3点 馬骨出土状況 1点 計 4点	平成 23 年度夏季企画展『赤馬伝説』
3 大阪府立近つ飛鳥博物館	茶山遺跡 甲田南遺跡 津堂遺跡 大園遺跡 部屋北遺跡 新堂廃寺 菅生出土 片山遺跡 国府遺跡	線刻(シカ)円筒埴輪 1点・土馬 1点 線刻(シカ)土器 1点 金銅製鳥形金具 1点 八稜鏡 1点 木製輪鍔 2点・鹿角製刀装具 1点・ 木製鞍<レプリカ> 1点・馬下顎骨 1点 鬼瓦 2点 獣足付有蓋壺 1点 土馬 1点 土馬 1点 計 15点	平成 23 年度夏季企画展『動物大百科―出土品からさぐる動物とのかかわり―』
4 柏原市立歴史資料館	応神陵古墳	円筒埴輪 3点 計 3点	平成 23 年度夏季企画展『赤馬伝説』
5 大阪府立近つ飛鳥博物館	ミヤケ北遺跡 甲田南遺跡 藤の森古墳 和泉寺跡 安松田遺跡	縄文土器 1点 弥生土器 2点 埴輪 1点・ガラス製勾玉 1点・ガラス製の丸玉 4連・ 骨製品 2点 軒丸瓦 2点・文字瓦 5点 瓦器椀 1点・丸瓦 1点・軒平瓦 1点・平瓦 1点・ 炉壁 10点 計 32点	平成 23 年度特別展『歴史発掘おおさか 2011』
6 名古屋市秀吉清正記念館	大阪城跡	検地枘 1点 計 1点	平成 23 年度特別陳列『三成と清正』
7 和泉市久保惣記念美術館	池上曽根遺跡	ヒスイ勾玉 1点 計 1点	特別展『装身具―日本・中国・朝鮮 よそおいの美―』
8 狭山池博物館	平尾遺跡	土師器 12点(高杯 1・杯 1・甕 10・片口鉢 1)木製品 4点(杓 1・柄 2) 齋串 5点・井戸杵 4点・須恵器 3 点(蓋 1・広口壺 2・瓶子 1)・フイゴ羽口 3点・埴埴 4点・ 石製丸鞆 1点・青銅製飾り金具 1点 計 37点	特別展『古代狭山池と台地開発のはじまり』
9 鈴鹿市考古博物館	田井中遺跡	サヌカイト板状剥片 15点、弥生土器壺 2点、 弥生土器甕 1点、弥生土器鉢 1点 計 19点	企画展『河曲の考古学―各地との交流―』
10 泉大津市教育委員会	池上曽根遺跡	石庖丁 5点 計 5点	企画展『豊穰の地 池上曽根』
11 大分市歴史資料館	お亀石古墳 シシヨツカ古墳	平瓦 1点 ガラス玉 1点、金銅製指輪 1点、銀製帯金具 1点、亀 甲繫鳳凰文銀象嵌刀装具(柄頭) 1点、亀甲繫鳳凰文 銀象嵌刀装具(鞘尻) 1点、雲龍文金象嵌刀装具(巾 頭) 1点、雲龍文金象嵌刀装具(鞘口) 1点、金銅製 大刀責金具 1点、銀製刀装具 1点、具 1点、金薄板 1 点、金製鋌 1点、金糸 1点、漆塗籠棺 1点、羨道部埋 納土器 1点、古墳全景 1点、閉塞施設・羨道(南より) 1点、石室入口 1点、奥室全景 1点、壁面細部 1点、 奥室右上隅漆喰塗り込み 1点、羨道埋土と埋甕の出 土状況 1点、高坏が納められた甕 1点、南東からみた 墳丘 1点、羨道部と閉塞石のようす 1点 計 26点	特別展『大分の君―飛鳥と豊後をつないだ人―』

12 尼崎市教育委員会	喜志西遺跡 木の本遺跡	弥生土器 5点 弥生土器 2点	計 7点	特別展『土器の一生—弥生時代の 日常の道具—』
13 大阪府立近つ飛鳥博物館	ミヤケ北遺跡 甲田南遺跡 藤の森古墳 和泉寺跡 安松田遺跡	縄文土器 1点 弥生土器壺 1点・弥生土器蓋 1点 埴輪 1点・ガラス製勾玉 3点・ガラス丸玉 4連・ 骨製品 2点 軒丸瓦 2点・文字瓦 5点 瓦器椀 1点・丸瓦 1点・軒平瓦 1点・平瓦 2点・ 炉壁 10点	計 35点	特別展『歴史発掘おおさか 2011 — 大阪府発掘調査最新情報—』
14 高槻市教育委員会	アカハゲ古墳 初田古墳群 1号墳 初田古墳群 2号墳 南坪池古墳 桑原西古墳群 細井廃寺 お亀石古墳 シシヨツカ古墳	黄褐釉有蓋円面硯 1点 埴 1点 金環 2点・銅釘 5点 埴 2点 鉄釘 4点・耳環 5点・埴 3点 埴 2点、平瓦 1点 漆塗籠棺 8点・雲龍文金象嵌刀装具（巾頭）1点・雲 龍文金象嵌刀装具（鞘口）1点・亀甲繫鳳凰文銀象嵌 刀装具（柄頭）1点・亀甲繫鳳凰文銀象嵌刀装具（鞘 尻）1点・勾玉文銀象嵌刀装具 1点・龍文金象嵌刀装 具 1点・金銅製指輪 1点・金製鋌 1点・ガラス玉一括・ 金糸 1点・挂甲小札 1点・須恵器高坏 3点	計 45点+ガラス玉一括	特別展「阿武山古墳と牽牛子塚— 飛鳥を生きた貴人たち—」
15 大阪府立近つ飛鳥博物館	誉田御廟山古墳 津堂城山古墳 仲津山古墳	円筒埴輪 2点 円筒埴輪 2点 円筒埴輪 3点	計 10点	特別展『百舌鳥・古市の陵墓古墳 —巨大前方後円墳の実像』
16 四條畷市教育委員会	雁屋遺跡 部屋北遺跡	シャーマン絵画土器 1点・鳥形木製品 1点 弥生土器壺 1点・弥生土器蓋 2点・弥生土器蓋 1点・ 弥生土器水差 1点・石庖丁 1点	計 8点	特別展『魂はどこへ—雁屋遺跡の 方形周溝墓を中心にして—』
17 大東市教育委員会	堂山古墳群 3号墳 堂山古墳群内（2～ 7号墳調査区域）	陶棺 1点 金環 1点	計 3点	特別展『堂山古墳群のひみつ』展

資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

依頼者	撮影/掲載/貸出	種類	遺跡	資料内容/点数	目的/掲載誌
1 新泉社	掲載	写真モノクロ	今城塚古墳	全景 1点（『大阪考古名所圖會』文化財あ これブックレット No.3 所収）1点 計 1点	シリーズ「遺跡を学ぶ」No.77『今城 塚古墳』
2 池田市教育委員会	掲載	写真モノクロ	宮の前遺跡	第5調査区 1点（『宮之前遺跡発掘調査概 報』大阪府教育委員会 1970 所収）1点 計 1点	『新修池田市史』第4巻（現代編）
3 明日香村教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況 2点 計 2点	明日香村人権教育推進協議会冊子 （「あすかの人権スポット」）
4 和泉市教育委員会	貸出 掲載	写真モノクロ 写真カラー	禅寂寺跡 池田寺跡	発掘調査状況 1点 池田寺遺跡 14点 計 15点	『和泉市の歴史』第3巻
5 柏原市立歴史資料館	掲載	写真モノクロ	部屋北遺跡	埋葬馬（土坑A 940）1点 計 1点	平成 23 年度夏季企画展『赤馬伝説』 展示・図録・広報

6	個人	掲載	写真カラー	南花田遺跡	ナイフ形石器集合『よみがえる氷河時代の狩人』長野県立歴史館 1点 計1点	『大いなる大日本人』
7	(株)ジェイテクト	貸出 掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況 2点 計2点	日本トライボロジー学会投稿論文 “Observations on Japanese Tribological History and Representative Heritages from Ancient to Modern Times ”
8	柏原市教育委員会	掲載	写真モノクロ	鳥坂寺跡	軒丸瓦 2点・軒瓦 1点・戯画平瓦 1点・ 鴟尾 2点・文字瓦 1点・埴仏 2点 計9点	パンフレット『鳥坂寺跡』
9	大阪市立大学	貸出 掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	埋葬馬(土坑A 940) 1点 計1点	大阪市大「高校生講座」の広報・講演
10	(株)スタジオ三十三	掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	馬骨の保存処理工程 6点 計1点	「スタジオ 33 通信」第 15 号
11	鹿児島県歴史資料センター黎明館	貸出 掲載	写真モノクロ	蕃上山古墳	墳丘 1点 計1点	企画特別展『大阪がやってきた!～ 古代から近代 鹿児島とのつながり～』 (会期:平成23年9月30日～同年11 月3日) 展示・図録・広報
12	NHK 奈良放送局	掲載	写真カラー	津堂城山古墳	長持形石棺 1点 計1点	3次元デジタルアーカイブを用いた古 墳出土鏡の接合事例について～100 年を経て接合した津堂城山古墳出土 鏡～(日本文化財科学学会第28回 大会発表)の報道
13	生駒市教育委員会	掲載	図	あな窯	あな窯 1点(文化財あれこれブックレット No.1 『陶色・窯・須恵器 国重要文化財指定記念』 所収) 計1点	「はっくつこま」第5集
14	(株)Z会	貸出 掲載	写真カラー	陶色窯跡群	須恵器集合 1点 計1点	『エブリスタディ小6』8月号
15	大阪府立近つ飛鳥博物館	掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	木製鞍 1点 計1点	平成23年度夏季企画展『動物大百 科―出土品からさぐる動物とのかかわ り―』展示・図録・広報
16	関西大学大阪都市遺産研究センター	掲載	写真カラー	吉志部瓦窯跡	H1号平窯 1点 計1点	副読本『吹田の文化遺産』
17	柏原市立歴史資料館	貸出 掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	埋葬馬(土坑A 940) 1点 計1点	平成23年度夏季企画展『赤馬伝説』 (会期:平成23年7月9日～同年9月 4日) 展示・図録・広報
18	国立文化財研究所(韓国)	掲載	図面	鳥坂寺跡	鳥坂寺階段復元図 1点 計1点	『日本における発掘遺構と復元研究』
19	名古屋市秀吉清正記念館	貸出 掲載	写真カラー	大坂城跡	検地枡 1点 計1点	平成23年度特別陳列『三成と清正』 (会期:平成23年10月8日～同年11 月13日)
20	株式会社NHKエンタープライズ	撮影 掲載	写真モノクロ 写真カラー	大坂城跡	豊臣時代大阪城三之丸石垣 1点 金箔瓦 4点 計5点	DVD大河ドラマ『江～姫たちの戦国』 完全版への収録
21	和泉市久保惣記念美術館	貸出 掲載	写真カラー	池上曾根遺跡	ヒスイ勾玉 1点 計1点	特別展『装身具―日本・中国・朝鮮 よそおいの美―』(会期:平成23年 10月8日～同年11月27日)
22	広島鑄物映画製作委員会	撮影 掲載	写真カラー	余部遺跡	調査地遠景 1点 鑄物土坑 701 1点 区画溝 ・建物群・鑄物関連土坑 1点 計3点	ドキュメンタリー映画『時を鑄込む』

23	大阪府立狭山池博物館	撮影掲載	写真カラー	平尾遺跡	土師器 13点(高杯1・杯1・甕10・片口鉢1)木製品3点(杓1・柄2)斎串5点・井戸杵4点・須恵器4点(蓋1・広口壺2・瓶子1)・フイゴ羽口3点・埴塙4点・石製丸鞆1点・青銅製飾り金具1	特別展『古代狭山池と台地開発のはじまり』	計38点
24	和泉市教育委員会	貸出掲載	写真カラー	坂本寺 和泉寺跡 池田寺遺跡 池田寺跡	塔の基壇跡1点 文字瓦「珎縣主廣足作」1点 水路1点・居館1点・奈良時代の集落1点 「池田」の文字瓦1点、「(池)田堂」の文字瓦1点、池田寺I式とII式の瓦1点、瓦窯跡1点	『池田谷の歴史と開発』和泉市の歴史3	計8点
25	八尾市立歴史民俗資料館	貸出掲載	写真カラー 写真モノクロ	萱振1号墳	復元された萱振1号墳1点、萱振1号墳検出状況(東・西から)1点、萱振1号墳北側埴輪列検出状況1点、萱振1号墳形埴輪出土状況1点、萱振1号墳鞆形埴輪出土状況1点	特別展『八尾の至宝－八尾市指定文化財20周年記念－』	計5点
26	明治大学日本古代学研究所	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群 観音寺遺跡 大野寺跡	文字瓦3点(KM38-II号窯) 文字瓦9点(信太寺跡) 文字瓦3点(土塔)	明治大学日本古代研究所ホームページに掲載	計15点
27	鈴鹿市長	貸出掲載	写真カラー	田井中遺跡	サヌカイト板状剥片15点、弥生土器壺2点、弥生土器甕1点、弥生土器鉢1点	企画展『河曲の考古学－各地との交流－』	計19点
28	四條畷市教育委員会	貸出掲載	写真カラー	蒨屋北遺跡	弥生時代中期の遺構(D-2調査区下層)遺構面全景(東から)1点、 竪穴住居100(南から)1点	特別展『魂はどこへ－雁屋遺跡の方形周溝墓を中心にして－』	計2点
29	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出掲載	写真カラー	菅田御南山古墳 津堂城山古墳	円筒埴輪2点 円筒埴輪1点、竪穴式石室と長持形石棺1点	特別展『百舌鳥・古市の陵墓古墳科一巨大前方後円墳の実像－』	計3点
30	藤井寺市教育委員会	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳 津堂城山古墳 墓山古墳 青山4号墳	修羅出土状況1点 石棺出土状況1点 人物埴輪1点 衝立形埴輪1点、猪形埴輪1点	小学生副読本	計5点
31	四條畷市教育委員会	撮影掲載	写真カラー	雁屋遺跡 蒨屋北遺跡	シャーマン絵画土器1点、鳥形木製品1点、弥生土器(前期)壺・甕・蓋の集合1点、弥生土器(中期)甕・水差、石庖丁の集合1点	特別展『魂はどこへ－雁屋遺跡の方形周溝墓を中心にして－』	計4点
32	大分市歴史資料館	掲載	写真カラー	シシヨツカ古墳	ガラス玉1点、金銅製指輪1点、銀製帯金具1点、亀甲繫鳳凰文銀象嵌刀装具(柄頭)1点、亀甲繫鳳凰文銀象嵌刀装具(鞘尻)1点、雲龍文金象嵌刀装具(巾頭)1点、雲龍文金象嵌刀装具(鞘口)1点、金銅製大刀責金具1点、銀製刀装具1点、鉸具1点、金薄板1点、金製鋌1点、金糸1点、漆塗籠棺1点、羨道部埋納土器1点、古墳全景1点、閉塞施設・羨道(南より)1点、石室入口1点、奥室全景1点、壁面細部奥室右上隅漆喰塗り込み1点、羨道埋土と埋甕の出土状況1点、高坏が納められた甕1点、南東からみた墳丘1点、羨道部と閉塞石のようす1点	特別展『大分の君－飛鳥と豊後をつないだ人－』	計24点

33	尼崎市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	喜志西遺跡	焼土壙（東より）1点	計1点	特別展「土器の一生－弥生時代の日常の道具－」
34	公益社団法人日本河川協会	貸出 掲載	写真カラー	堀遺跡	水田跡1点	計1点	『河川文化－河川文化を語る会講演集』
35	和泉市教育委員会	掲載	写真カラー	坂本寺	軒平瓦1点	計1点	『池田谷の歴史と開発』（和泉市の歴史 第3巻）
36	大阪市立大学大学院	掲載	写真カラー	河内大塚山古墳	遠景1点、「ごぼ石」1点	計2点	『河内大塚山古墳の概要』（『ヒストリア』第228号平成23年10月刊行）
37	河南町教育委員会	貸出 掲載	写真モノクロ	寛弘寺第17号墳	人物埴輪1点	計1点	「河南町を歩こう！てくてくかなん」（河南町広報誌『広報かなん』No.466（2011年11月号））
38	藤井寺市教育委員会	掲載	写真カラー	応神陵古墳 津堂城山古墳 仲津山古墳	円筒埴輪2点 円筒埴輪3点 円筒埴輪3点	計7点	古市古墳群世界遺産登録推進用DVD
39	関西大学社会連携部地域連携センター	掲載	写真カラー 写真モノクロ	三ツ塚古墳 阿武山古墳	修羅出土状況1点 夾紵棺1点	計2点	『石舞台古墳再現CGムービー』（明日香村製作）の副読本
40	大阪市立大学大学院	撮影 掲載	写真カラー	北玉山古墳 板持3号墳 牛石7号墳 安威城跡 神山丑神遺跡	振文鏡1点、重圈文鏡1点 四獣鏡1点 重圈文鏡1点 珠文鏡1点 鏡片1点	計6点	『大阪府出土の鏡』（仮題）大阪市立大学考古学研究報告第5冊
41	大阪府立近つ飛鳥博物館	撮影 貸出 掲載	写真カラー	ミヤケ北遺跡 甲田南遺跡 和泉寺跡 安松田遺跡 藤の森古墳	縄文土器棺出土状況1点 弥生土器棺掘削状況1点 文字瓦5点 瓦集合1点・調査地全景1点 勾玉3点、ガラス玉4連、骨製品2点	計18点	特別展『歴史発掘おおさか 2011－大阪府発掘調査最新情報－』
42	相模原市立博物館	貸出 掲載	写真カラー	陶邑窯跡群TG 225号窯	須恵器四耳壺1点	計1点	『相模原市史』考古編
43	藤井寺市教育委員会	掲載	写真カラー 写真モノクロ	古室遺跡 津堂城山古墳 萱振1号墳 墓山古墳 津堂城山古墳	冑形埴輪1点 衝形埴輪1点 靱形埴輪1点 人物埴輪1点 石棺出土状況1点	計5点	古市古墳群世界遺産登録推進用DVD（第3巻埴輪編・第4巻内部構造と副葬品）作成
44	大東市教育委員会	掲載	写真カラー	堂山古墳群3号墳 堂山古墳群内 （2～7号墳調査区域）	陶棺1点 金環1点	計2点	特別展『堂山古墳群のひみつ』展
45 1	高槻市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	加納・平石古墳群 細井廃寺 お亀石古墳 加納・平石古墳群 ツカマリ古墳 アカハゲ古墳 初田古墳群1号墳 初田古墳群2号墳 南坪池古墳 牛石13号墳 牛石14号墳 桑原西古墳群 シシヨツカ古墳①	全景1点 埴1点 平瓦1点 全景1点 全景1点 黄褐釉有蓋円面硯1点、全景1点、石室2点 埴1点 銅釘1点、金環1点 全景（南から）1点 全景（南から）1点 全景1点、耳環1点 竪穴式小石室1点 近景（南より）1点、埋葬施設前面1点、奥室1点、漆塗籠棺1点、雲龍文金象嵌刀装具（巾頭）1点、雲龍文金象嵌刀装具（鞘口）1点、亀甲繫鳳凰文銀象嵌刀装具（柄頭）1点、		特別展『阿武山古墳と牽牛子塚－飛鳥を生きた貴人たち－』

45 2	高槻市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	シシヨツカ古墳②	亀甲繫鳳凰文銀象嵌刀装具（鞘尻）1点、勾玉 文銀象嵌刀装具1点、龍文金象嵌刀装具1点、 金銅製指輪1点、金製紙1点、ガラス玉1点、 金糸1点、挂甲小札1点、須恵器高坏1点 計33点	特別展『阿武山古墳と牽牛子塚－飛 鳥を生きた貴人たち－』
46	大東市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	堂山古墳群1号墳 堂山古墳群	甲冑1点、須恵器1点、冑1点、鍬1点、甲1点 堂山古墳群関連44点 計49点	特別展『堂山古墳群のひみつ』展
47	高槻市教育委員会	撮影 掲載	写真カラー	桑原西古墳群 （竪穴式小石室）	埴1点 計1点	特別展『阿武山古墳と牽牛子塚－飛 鳥を生きた貴人たち－』
48	茨木市史編纂委員会	貸出 掲載	写真カラー	総持寺古墳 桑原遺跡 初田1号墳 初田2号墳 安威遺跡 蒨屋北遺跡	1・4・6・7・8号墳（西より）1点 A3号墳出土陶棺1点 埴1点 耳環1点、ガラス玉1点 住居19遺物出土状況1点、砥石1点、 鉄滓1点 木製鞍1点 計8点	『新修茨木市史第1巻 通史I』
49	財千里文化財団	掲載	写真カラー	池上曾根遺跡	鋤1点、杵1点 計2点	『みんなの博物館』河出書房新社
50	高槻市教育委員会	掲載	写真カラー	高槻城跡	金箔押軒平瓦1点 計1点	文化財冊子『天下統一と高槻』
51	㈱Z会	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合1点 計1点	「エブリスタディ小6」4月号
52	㈱Z会	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合1点 計1点	「エブリスタディ小6」8月号
53	㈱Z会	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合1点、樽形はそう1点 計2点	「エブリスタディアドバンス小5社会スタ ンダート」6月号 「エブリスタディアドバンス小5社会ハイ レベル」6月号
54	個人	貸出 掲載	写真モノクロ	根来路 （童子畑地区）	不食供養塔（童子畑地区）1点 計1点	泉南市童子畑地区の石造物調査資料
55	泉南市教育委員会	貸出 掲載	写真モノクロ	根来路 （童子畑地区）	童子畑地区38点 計38点	泉南市内の旧街道沿いの基礎資料
56	㈱有斐閣学術センター	掲載	写真カラー	蒨屋北遺跡	埋葬馬（土坑A940）1点 計1点	「考古学からみた古代の馬生産」『書 斎の窓』2012年5月号
57	豊中市教育委員会	掲載	写真カラー	南天平塚古墳 桜塚古墳群 北天平塚古墳 南天平塚古墳 野畑岸本塚古墳 野畑岸本塚古墳	調査風景1点 東群1点 墳丘1点 2号棺1点 調査風景1点 陶棺出土状態1点 計6点	郷土の文化財展『とよなか発掘！』
58	大東市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	堂山古墳群	短甲1点、須恵器1点、墳丘全景1点、2 ～6号墳全景1点、4号墳石室1点、6号墳 石室1点、5号墳石室1点、2号墳石室1点、 7号墳石室掘方1点、堂山古墳群遠景1点、 1号墳主体部全景（西から）1点、1号墳主 体部全景（東から）1点、1号墳副棺内遺物 出土状況1点、1号墳副棺内武器・農工具 出土状況（東から）1点、3号墳石室1点、 1号墳鉄鏃（集合）1点、1号墳円筒埴輪（集 合）1点、1号墳玉類1点、3号墳陶棺1点 計19点	大東市立堂山古墳群史跡広場（仮称） の案内説明板と施設パンフレット、「市 勢要覧」2012、『大東市暮らしのガイ ドブック』

資料閲覧

件数	申請者(所属)	遺跡	資料内容	保管場所	目的
1	奈良大学大学院	深田橋遺跡	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
2	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
3	奈良大学大学院	大阪城跡	須恵器	大阪府立大手前高等学校	学術研究
4	奈良県立橿原考古学研究所	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
5	大阪大学	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
6	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
7	王仁文化研究所	葦屋北遺跡	土器・土製品	文化財調査事務所	学術研究
8	柏原市立歴史資料館	応神陵古墳	埴輪	文化財調査事務所	展示
9	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
10	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群 TK73・TK206・TK314	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
11	大阪大学大学院	陶邑窯跡群TK 230 - I 号窯	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
12	国立国会図書館関西館	陶邑窯跡群TK 230 - I 号窯	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
13	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
14	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
15	柏原市立歴史資料館	応神陵古墳	埴輪	文化財調査事務所	展示
16	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
17	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
18	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
19	奈良大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
20	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
21	名古屋市秀吉清正記念館	大阪城跡	太閤枿	文化財調査事務所	学術研究
22	川西市教育委員会	はざみ山遺跡	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
23	大阪府立近つ飛鳥博物館	葦屋北遺跡・新堂廃寺・津堂遺跡・ 誉田山古墳	木製鞍・木製輪鏝・鹿角製 刀装具・鬼瓦・鳥形金具・ 土師器	文化財調査事務所 泉北収蔵庫 泉大津収蔵庫	学術研究
24	大阪府立近つ飛鳥博物館	船橋遺跡・茶山遺跡・国府遺跡・ 和泉国府・新堂廃寺	太閤枿	泉大津収蔵庫	展示
25	鈴鹿市考古博物館	田井中遺跡・池上遺跡	サヌカイト板状剥片・弥生土 器・男根状木製品	文化財調査事務所	学術研究
26	大阪大学	萱振遺跡	円筒埴輪	文化財調査事務所	学術研究
27	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
28	奈良大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
29	大阪大学埋蔵文化財調査室	寺田遺跡	土師器・須恵器	泉北収蔵庫	展示
30	大阪大学埋蔵文化財調査室	寺田遺跡	土師器・須恵器	泉北収蔵庫	学術研究

31	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	展示
32	奈良大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
33	関西大学大学院	鳥坂寺跡・新堂廃寺	埴仏	文化財調査事務所	出版
34	堺市文化財課	鳥坂寺跡・新堂廃寺	埴仏	文化財調査事務所	展示
35	大阪大学	萱振遺跡	円筒埴輪	文化財調査事務所	学術研究
36	大阪府立近つ飛鳥博物館	茶山遺跡	埴輪	文化財調査事務所	展示
37	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群TK 230 - I 号窯	須恵器	文化財調査事務所	展示
38	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	東大阪収蔵庫	展示
39	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群 TK316 号窯・MT5 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
40	大阪府立近つ飛鳥博物館	甲田南遺跡・大園遺跡	線刻（シカ）土器・八稜鏡	文化財調査事務所	学術研究
41	奈良県立橿原考古学研究所	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
42	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	東大阪収蔵庫	展示
43	泉大津市教育委員会	池上曾根遺跡	土師器・須恵器	泉大津収蔵庫	展示
44	韓式系土器研究会	寺田遺跡・倉治遺跡・岸之本遺跡	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
45	奈良大学大学院	陶器南遺跡	須恵器	泉大津収蔵庫	展示
46	奈良県立橿原考古学研究所	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
47	個人	寺田遺跡・藤の森古墳	玉類	文化財調査事務所	学術研究
48	同志社大学高等研究教育機構	ミヤケ北遺跡	石器	文化財調査事務所	学術研究
49	八尾市立歴史民俗資料館	萱振遺跡	萱振1号填写真資料	文化財調査事務所	学術研究
50	奈良大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
51	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
52	大韓文化遺産研究センター	部屋北遺跡	韓式系土器	文化財調査事務所	学術研究
53	(財) 交野市文化財事業団	陶邑窯跡群TK 230 - I 号窯・MT5 号窯	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
54	滋賀県立大学	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
55	奈良大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
56	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
57	奈良大学大学院	陶器南遺跡	須恵器	泉北収蔵庫	学術研究
58	大阪府立狭山池博物館	平尾遺跡	須恵器・土師器・木器	文化財調査事務所	学術研究
59	奈良大学大学院	陶器南遺跡	須恵器	泉北収蔵庫	学術研究
60	大阪大学埋蔵文化財調査室	寺田遺跡	須恵器・土師器	泉北収蔵庫	学術研究
61	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
62	奈良大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
63	尼崎市立田能資料館	喜志遺跡・木ノ本遺跡	弥生土器	泉北収蔵庫	学術研究

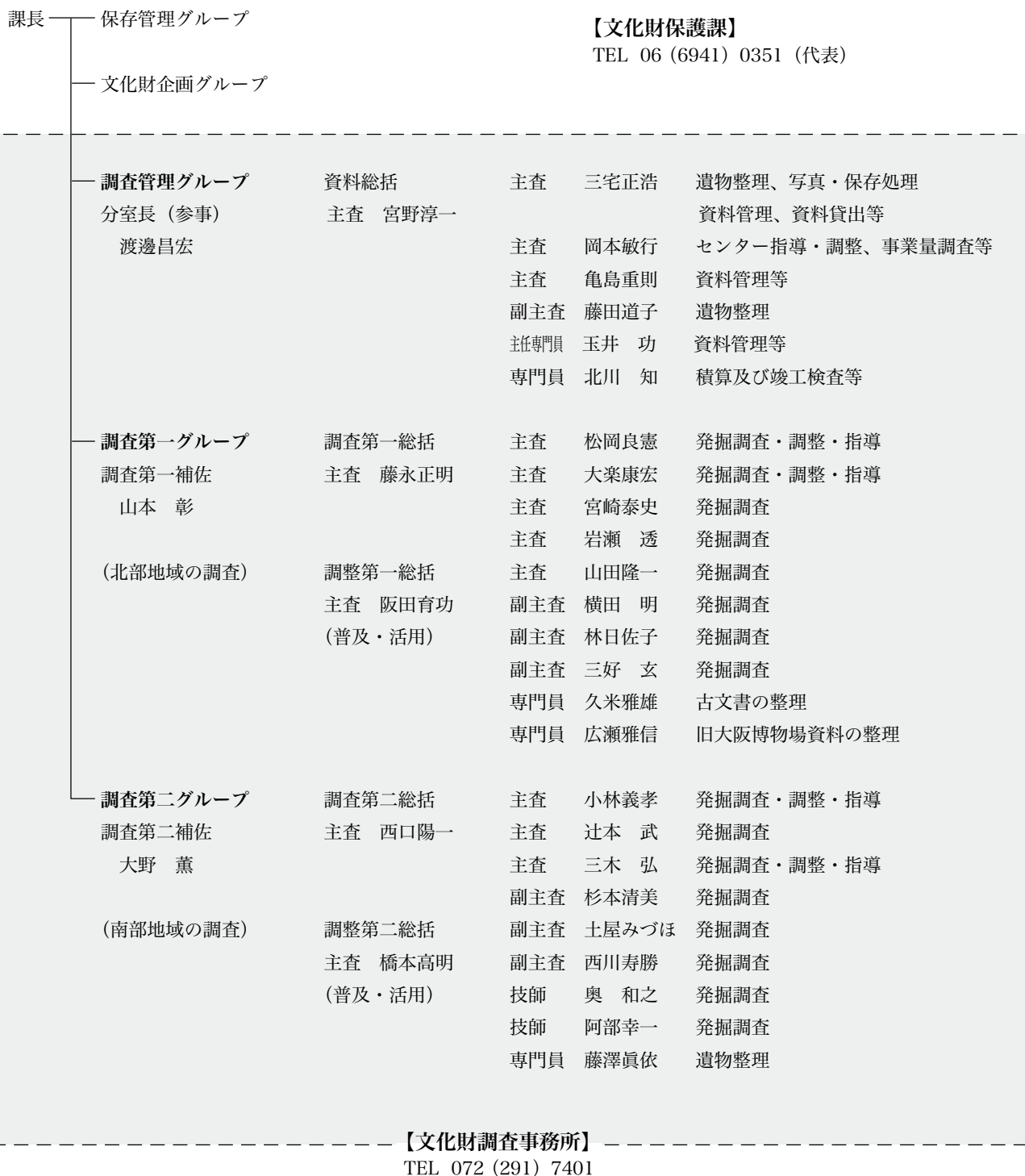
64	奈良大学大学院	深田橋遺跡	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
65	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群 TK316 号窯	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
66	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群 TK316 号窯・ MT5 - I 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
67	奈良大学大学院	百舌鳥陵南遺跡	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
68	大分市歴史資料館	シシヨツカ古墳	ガラス玉	文化財調査事務所	学術研究
69	奈良県立橿原考古学研究所	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
70	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
71	奈良大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
72	奈良大学大学院	深田橋遺跡	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
73	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
74	(財) 大阪市博物館協会大阪 文化財研究所	八尾南遺跡・国府遺跡	石器	文化財調査事務所	学術研究
75	京都大学大学院	葎屋北遺跡	鉄器	文化財調査事務所	学術研究
76	同志社大学高等研究教育機構	田井中遺跡	石器	文化財調査事務所	展示
77	大阪府立狭山池博物館	平尾遺跡	掘立柱跡・井戸写真・ 航空写真	文化財調査事務所	学術研究
78	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	展示
79	奈良大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
80	(財) 大阪市博物館協会大阪 文化財研究所	大坂西町奉行所	陶磁器	泉北収蔵庫	展示
81	奈良大学大学院	陵南遺跡	須恵器・土師器	泉北収蔵庫	学術研究
82	大阪府立近つ飛鳥博物館	葎屋北遺跡	須恵器・陶質土器	文化財調査事務所	学術研究
83	大東市立歴史民俗資料館	堂山古墳群	須恵器・埴輪	泉大津収蔵庫	展示
84	四条畷市教育委員会	雁屋遺跡・葎屋北遺跡	絵画文土器・鳥形木製品・ 弥生土器・石庖丁	文化財調査事務所	学術研究
85	大阪府立近つ飛鳥博物館	応神陵古墳・津堂城山古墳・ 土師ノ里遺跡	円筒埴輪	文化財調査事務所	展示
86	大東市立歴史民俗資料館	堂山1号群・堂山3号墳	須恵器・土師器・陶棺	泉大津収蔵庫	学術研究
87	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	展示
88	奈良大学大学院	深田橋遺跡	須恵器	泉大津収蔵庫	展示
89	奈良大学大学院	深田橋遺跡	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
90	奈良県立橿原考古学研究所	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	展示
91	蕃上山古墳埴輪研究会	蕃上山古墳	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
92	兵庫県立考古博物館	池上曾根遺跡・下池田遺跡・ 男里遺跡	蛸壺	文化財調査事務所	学術研究
93	奈良大学大学院	深田橋遺跡	須恵器	泉大津収蔵庫	展示

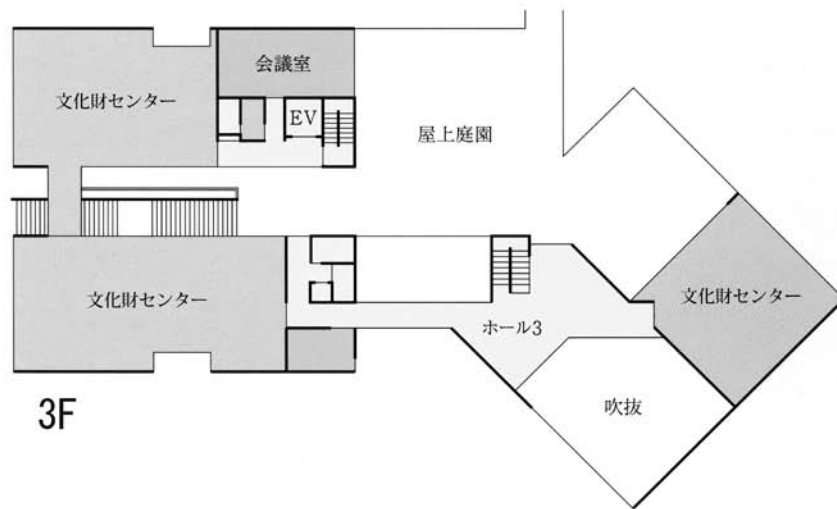
94	奈良大学大学院	深田橋遺跡	須恵器	泉大津収蔵庫	展示
95	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
96	羽曳野市教育委員会	蕃上山古墳	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
97	奈良大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
98	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	展示
99	滋賀県立大学	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	展示
100	藤井寺市教育委員会	津堂城山古墳	図面・試掘カード	文化財調査事務所	学術研究
101	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
102	奈良県立橿原考古学研究所	堂山3号墳・土師ノ里遺跡	陶棺	泉大津収蔵庫	学術研究
103	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
104	奈良大学大学院	深田橋遺跡	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
105	河南町教育委員会	寛弘寺遺跡	写真	文化財調査事務所	学術研究
106	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
107	奈良大学大学院	深田橋遺跡	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
108	豊中警察署	桜井谷窯跡群	須恵器	文化財調査事務所	展示
109	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群TK 230 - I 号窯	須恵器	文化財調査事務所	学術研究 展示
110	河南町教育委員会	東山遺跡・寛弘寺遺跡・神山遺跡	弥生土器	文化財調査事務所	学術研究
111	奈良県立橿原考古学研究所	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
112	奈良大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
113	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
114	大阪大学	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
115	滋賀県立大学	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
116	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
117	大阪大学	一須賀 WA- 1号墳	石棺	文化財調査事務所	学術研究
118	羽曳野市教育委員会	高屋城跡・蕃上山古墳	図面	文化財調査事務所	学術研究
119	大阪市立大学	北玉山古墳・板持3号墳・牛石7号墳・安威城跡・神山丑神遺跡	振文鏡・重圈文鏡・四獸鏡・重圈文鏡・珠文鏡・鏡片	文化財調査事務所	学術研究
120	大阪大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
121	滋賀県立大学	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
122	宮崎県埋蔵文化財センター	部屋北遺跡	須恵器・土師器・陶質土器	文化財調査事務所	学術研究
123	大阪大谷大学	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器	東大阪収蔵庫	展示
124	高槻市立今城塚古代歴史館	シシヨツカ古墳・初田1号墳・初田2号墳・アカハゲ古墳・桑原西古墳群	漆塗籠棺・挂甲小札・象嵌刀装具・ガラス玉・金糸・磚 須恵器・銅釘・金環・黄褐釉有蓋円硯・鉄釘・耳環	泉大津収蔵庫 文化財調査事務所	展示

125	奈良県立橿原考古学研究所	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	展示
126	蕃上山古墳埴輪研究会	蕃上山古墳	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
127	大東市立歴史民俗資料館	堂山古墳群	写真	文化財調査事務所	展示
128	大東市教育委員会	堂山古墳群	地形図	文化財調査事務所	学術研究
129	滋賀県立大学	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	展示
130	大阪大学	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
131	奈良大学大学院	陶邑窯跡群大野池地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
132	大東市立歴史民俗資料館	堂山古墳群	須恵器・土師器・陶棺	泉大津収蔵庫	展示
133	羽曳野市教育委員会	玉手山4号墳・玉手山10号墳	円筒埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
134	奈良県立橿原考古学研究所	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	展示
135	蕃上山古墳埴輪研究会	蕃上山古墳	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
136	山口県立萩美術館	林遺跡・はさみ山遺跡・平尾遺跡・池島福万寺遺跡・陶器遺跡・北岡遺跡・尾平遺跡・土師ノ里遺跡	ミニチュア土器	文化財調査事務所 泉大津収蔵庫	学術研究
137	国学院大学	池上曾根遺跡	ヒスイ勾玉	和泉市いずみの国歴史館	学術研究
138	大阪大学	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
139	蕃上山古墳埴輪研究会	蕃上山古墳	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
140	蕃上山古墳埴輪研究会	蕃上山古墳	埴輪	泉大津収蔵庫	展示
141	奈良県立橿原考古学研究所	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
142	個人	根来街道	写真	文化財調査事務所	学術研究
143	蕃上山古墳埴輪研究会	蕃上山古墳	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
144	蕃上山古墳埴輪研究会	蕃上山古墳	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
145	同志社大学	田井中遺跡	弥生土器	泉北収蔵庫	学術研究
146	同志社大学	田井中遺跡	弥生土器	泉北収蔵庫	学術研究
147	奈良県立橿原考古学研究所	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
148	泉南市教育委員会	根来街道・浜街道・熊野街道	写真	文化財調査事務所	出版
149	同志社大学	田井中遺跡	弥生土器	泉北収蔵庫	学術研究
148	高槻市立しろあと歴史館	木造地藏菩薩立像附黒漆塗厨子	写真	文化財調査事務所	展示
149	兵庫陶芸美術館	安芸御庭焼 修学院焼 尾形周平 水越与三兵衛 偕楽園	緑釉牡丹唐草文舟形鉢 錆絵高麗写水箱 色絵飲中八邊詩文急須 色絵金彩百唐子文急須 紫交趾樓閣山水麒麟文急須	文化財調査事務所	展示

■実物資料・複製資料長期貸出	25件
■実物資料・複製資料短期貸出	17件
■資料撮影、写真・図面貸出・掲載	58件
■資料閲覧	149件
■合計	249件

平成 23 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図





3F



2F



1F

構造規模／鉄骨3階
敷地面積／4,504.76㎡
延床面積／4,739.22㎡

図 102 文化財調査事務所平面図

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 16

発行日 平成 24 年 10 月 31 日

発 行 大阪府教育委員会

〒 540-8571

大阪市中央区大手前 2 丁目

TEL 06-6941-0351 (代表)

編 集 大阪府教育委員会文化財調査事務所

〒 590-0105

堺市南区竹城台 3 丁 21-4

TEL 072-291-7401

印 刷 株式会社文成堂

〒 547-0048

大阪市平野区平野馬場 2 丁目 2-11

TEL 06-6700-2211